

柑芦 KORO

和歌山大学経済学部柑芦会誌

第54号 (2023年版)

特集:「センテニアル展望～大学の夢・柑芦会の夢・私の夢～」



09. 11. 2

柑 KORO 蘆

和歌山大学経済学部柑芦会誌

柑芦 54号 (2023年版)

- 特集「センテニアル展望
～大学の夢・柑芦会の夢・私の夢～」
- 遺稿
- 追悼
- 支部だより
- ゼミ・同期会・クラブ・同好の集まり
- 母校だより
- 出合いのひろば(会員談話室)
- 柑芦会
- 後援会
- 訃報



〈表紙絵 / 雑賀崎〉

作 大7 鶴田俊雄

武漢コロナが発生する以前に行っていた「柑芦絵画を楽しむ会」の恒例スケッチの会で雑賀崎に出かけた時の作品です。現在この絵画グループも高齢化し活動が停滞化しているのが現状です。描くことを楽しむ同志の参加を期待しております。

柑 芦 54号 (2023年版) 目 次

会長挨拶

柑芦会 会長 大18 北村修一 …………… 4

学長・学部長挨拶

和歌山大学長 本山 貢 …………… 5

経済学部長 金川めぐみ …………… 6

特集

「センテニアル展望

～大学の夢・柑芦会の夢・私の夢～」

和歌山県関係

和歌山県知事 岸本周平 …………… 8

大学関係

副学長 足立基浩 …………… 10

学環長 竹内哲治 …………… 14

教授 村田和子 …………… 16

経済学部4年 滝下連太郎 …………… 18

経済学部3年 清家若菜 …………… 19

経済学部3年 井上敬渉 …………… 20

経済学部2年 野谷帆香 …………… 22

経済学部3年 谷口翠優 …………… 24

経済学部2年 仲宗根恵奈 …………… 25

柑芦会

会長 大18 北村修一 …… 26

大阪支部長 大26 糸川公偉 …… 28

東海支部長 大25 垣見祐二 …… 29

東海支部 大50 中川暢顕 …… 30

東海支部 大56 西山 剛 …… 31

神戸支部幹事長 大27 吉竹俊道 …… 32

神戸支部 大39 小柴学司 …… 34

香川支部副支部長 大31 梶 正司 …… 35

香川支部 大63 中野彰文 …… 36

遺稿

柑芦会の卒寿を記念して 元学長

故 小田 章 …… 38

添え書き 大18 北村修一

追悼

山中 静先輩を悼む

添え書き 大22 種坂隆志 …………… 44

竹中慎和君を偲んで 大7 松原徳一 …… 47

支部だより

東海支部 大31 鈴木幹事長 …… 48

三重支部 大31 山際幹事長 …… 50

神戸支部 大21 平林支部長 …… 51

京滋支部 大31 清水支部長 …… 52

香川支部 大22 島田支部長 …… 53

ゼミ・同期会・クラブ・同好の集まり

和大経済学部12期同窓会 大12 菅原 昴 …… 54

入寮60周年記念合同旅行 大15 岸田啓治 …… 55

結婚相談室の記 大16 松石憲一 …… 56

和大弓道部の歴史 大22 種坂隆志 …… 57

三紀火曜会のご紹介 大3 安本 純 …… 58

母校だより

和歌山大水害と学生ボランティア	
編集委員会	… 59
大学研究社会連携課の紹介	
課長 脇田淳一	… 61
2020年度 香村賞 作品紹介	… 62
クラブ紹介(4クラブ)	
弓道部 主将	米田羽矢人 … 72
サイクリング部 副将	今井彩月 … 73
将棋部 部長	安藤駿佑 … 74
アカペラサークル和音会長	坂上海里 … 75
和太基金への協力のお願い	基金室 … 76
今年の卒業生の就職状況	キャリアC… 78
現在の就職状況について	… 81
和太生人材応援採用企業特集	… 82
新刊書紹介	経済学部分室… 90
大学役員及び事務局紹介	経済学部分室… 92
経済学部教職員の異動	経済学部分室… 92
出身府県別入学者の状況	経済学部分室… 94

出合いのひろば(会員談話室)

随想

短大の歴史と私の思い出	短6 塩路茂一 … 97
回顧録※	大7 堀米弘三 … 98
楽しきかな。わが翻訳人生※	大25 河本 要 … 99

俳句	俳句同人会(芦火) …… 100
----	------------------

短歌	作品※	大6 川淵湧三 …… 101
		大12 東 睦夫

川柳	作品※	大13 佐竹明吟 …… 101
----	-----	-----------------

柑芦会

全学同窓会についての報告	北村会長 …… 102
経済学部との定期懇談会	事務局 …… 103
柑芦会定時理事会	事務局 …… 104
決算・予算の概要	事務局 …… 106
役員名簿	事務局 …… 107
支部一覧表	事務局 …… 108

後援会

決算・予算の概要	事務局 …… 110
役員名簿	事務局 …… 111

訃報

	事務局 …… 112
--	------------

広告索引	事務局 …… 116
------	------------

あとがき	大17 穂永千秋 …… 117
------	-----------------

表紙 写真	大7 鶴田俊雄
-------	---------



今こそ「母校愛」を

柑芦会 会長 大18 北村 修一

皆さまには常日ごろから柑芦会の様々な事業に関して深いご理解と熱いご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

さて年々異常さを増す地球の気象の状況ですが、台風や大雨、それに伴う土砂災害など今年の気象状態は特に異常さが増大しています。被害を受けられた皆さまにはお見舞い申し上げますと共に、これ以上の大きな影響などが無いことをお祈り申し上げます。

本誌においても何度かお伝えしてきましたように、本年は母校の創立100周年にあたり、10月を中心に記念行事の開催や「100年史」の発行などが行われます。そこで本誌においても今号では、先生方や現役学生の皆さんを含む多くの皆さんによる100周年への思いを寄稿いただきました。それらの多くが、過去を振り返るだけでなくこれから先の将来に向けての思いであることを味わっていただけたらこれに勝る喜びはございません。

柑芦会自身も3年後の2026年には設立100年を迎えようとしている今、私も改めて母校の100周年について考えてみました。その時にふと浮かんだのが「母校愛」ということばです。それは感謝であり、誇りでもあります。私は、それは卒業生なら持っている当然の

ものだと確信するのですが、どうやら年代によっても大きく違うようです。また在学中に体験したできごとや、卒業後に和歌山大学の卒業生であってよかったと思える体験の有無なども影響しているようです。しかしながら、度合いの違いこそあれ卒業生には等しく持っていてほしいものであることに変わりはありません。

大学側もこのことを重要視する姿勢を鮮明にされ、本山学長は大学の役員に「ブランディング」担当の副学長を任命されたり、同窓会活動を重視してその活動の拠点としての専用室を学内に設置するなどの取り組みも始めておられます。

もとより柑芦会の設立の目的は、卒業生同士の交流・懇親だけではなく、母校と後輩たちへの支援にもあります。母校が本気でそれを強化しようと考えておられるかぎり、我々卒業生もこれに応えて大いに「母校愛」を発揮し、それを具体的な形にしていこうではありませんか。「母校愛」に関する皆さまからのご意見やご提案が沸騰することを期待しています。



柑芦会とともに歩む大学へ

和歌山大学 学長 本山 貢

柑芦会の皆様方には、平素より経済学部はもとより和歌山大学に対して多大なご支援をいただき心よりお礼を申し上げます。令和5年4月から第18代学長に就任いたしました本山貢でございます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

和歌山大学は、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部、そして令和5年度から社会インフォマティクス学環の設置が認められ、学びの拠点が膨らみました。地域から支えられる南近畿の中核をなす魅力溢れる総合大学となりました。その中で私が最も学生教育で重要な力量であり、これからの社会が希求しているものは、「学びに向かう豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」だと考えています。自身の感情をコントロールし、他者を尊重し、チームワーク、謙虚なリーダーシップ、「思いやりの心」を身につけてほしいと思っています。和歌山大学での学びを志すZ世代の皆さんが、「大学とは何をするとところなのか、そして何をすべきなのか」という問いに対して、私たちはしっかりと責任をもって答えていきたいと思っています。

もちろん、大学の責務は「教育」、すなわち人材の育成です。私たちは、和歌山大学での学びを志す皆さんをしっかりと鍛え、社会に送り出す責務において明確なビジョンと戦略をもって体系的な教育課程を編成し、社会を創る学び、インターナショナルな学び、そして地域での学びなど、さまざまな学びを支援する仕組みを設け、身に付けた学びが実感できるよう支援していきたいと思っています。

そして、大学での学びは教育課程のなかに

とどまらず、「豊かな人間性、そしてコミュニケーション力」が大学生活の中で最も養われる環境は、スポーツや文化活動などのクラブ・サークル活動だと実感しています。特に異なる専門職を目指す人たちが、同じ目的で知恵とマンパワーを結集し、新たに躍進していく様子は素晴らしいことだと思います。先輩、後輩、同期の仲間たちと一緒に新たな人間関係を構築する場を充実させていきたいと思っています。

和歌山大学は、豊かな自然環境と世界文化遺産に恵まれた和歌山県唯一の国立大学として、地域社会と共に地域の発展に寄与し、地域を牽引する人材育成を目指しています。地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造を実現させるために、学生と教職員、地域が共に育つ総合大学としての強みと特色をさらにステージアップさせ、さらに大学を支えていただいている同窓会や後援会の組織との信頼関係を築きながら常に対話を重視し、連携を深めるために新たな取り組みにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

最後に、今後も柑芦会の皆さんと対話し、母校の魅力がしっかりと伝わり応援していただけるようこれまで以上の信頼関係を築いていきたいと考えています。また経済学部100周年を迎える喜びを実感し、困難な社会状況の先に広がる輝かしい未来に向かって共に歩む大学を目指していきたいと思っています。経済学部と柑芦会の皆さんに心からお祝いと申し上げますとともに、今後とも皆さんのご支援と応援をよろしくお願いいたします。



経済学部100周年を機に、 さらなる飛躍を

和歌山大学 経済学部長 金川 めぐみ

柑芦会のみなさまには、平素より経済学部の教育・研究活動および運営にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。2023年4月より経済学部長に就任をいたしました。和歌山高等商業学校以来の100年の伝統を持つ、この和歌山大学経済学部ですが、女性の学部長は私が初となります。近年、大学においてもビジネスの世界でも、ダイバーシティ（多様性）が重視されております。女性としての感性を生かしつつ、経済学部をさらに発展させていくために、日々業務を進めていきたいと考えています。

さてこの間、経済学部には304名、経済学研究科には33名の新生を迎えました。2023年度からは授業もほぼ対面で実施しており、学生が談笑し交流する、大学としての当たり前の光景が今やっと戻ってきたところです。コロナ禍での交流が途絶えていた後ゆえ、私たち教職員にとっても、このようなキャンパスの光景を再び眼にできることは、非常に大きな喜びであります。さらに各教員は、この間のオンライン授業の進展で多様なスキルを培ってきたところです。これらを対面授業にて具体的に生かすべく、各教員が意欲的に授業改善を進めています。

大学全体の状況としましては、各国立大学は6年間の中期目標・中期計画を掲げ、教育・研究およびその他の活動を行っております。2023年度は、第4期の中期目標・中期計画の2年

目にあたり、新学長のもと「知の創造・新たな学びの創出」をキーワードに、4学部1学環が連携し、学生主体の協働的な学びを一層深めていきます。経済学部でもグローバルな視点を踏まえつつ、地域社会のステイクホルダーとより積極的な連携を図りながら教育および研究を行うべく取組を続けています。コロナ禍の間中断しておりました学部授業科目の柑芦会寄付講義も、本年度から再開します。柑芦会のみなさまからの社会での実践を通じた貴重な学びを学生に伝えていたただけることは、経済学部が取り組んでいる協働的な学びと直結するものであり、実施いただけること、心待ちにしております。

そしてみなさまご存じの通り、経済学部は今年、創立100周年という節目の年を迎えます。この節目の年在学生と柑芦会のみなさまとともに、その歴史と伝統、はたしてきた役割の重大さをかみしめつつ、一緒に喜び合いたいと感じております。来る10月28日（土）に「和歌山大学経済学部100周年記念式典」と、その後の祝賀会が予定されております。同日にホームカミングデーの行事も併せて行いますので、是非ご来学を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、柑芦会のさらなるご発展と、みなさまのご健勝・ご活躍をお祈り申し上げます。

特集 「センテニアル」展望 ・これからの夫々の生き方

第53号で経済学部創立100周年記念として、これまでの足跡をたどるご寄稿を頂いてまいりました。そしてこの秋には母校と一体になった100周年記念行事も行われます。

第54号でもその余韻はあると思いますが、今回、テーマとしての言葉「センテニアル」を委員会で選択いたしました。

センテニアル（Centennial）とは、ラテン語で「100周年（世紀）」という意味で、英語では同じ綴りで『センチュリー』という形容詞が我々には馴染みの言葉です。

100周年記念行事は過去の足跡を顧み、先輩方の労をねぎらい祝う事だけでなく、新しい次の百年への第一歩を記す壮行式かもしれません。

では、この100周年を一区切りとして、新しい100年に向かって「我々はこのよ様なビジョンを持って進みたいのか」を、色々な単位の中でご寄稿頂きました。

新しく和歌山県知事になられた岸本周平知事には和歌山県の、また本山新学長には和歌山大学の今後の100年を踏み出す第一歩についてのビジョンを語っていただき、更に和歌山大学の教授陣、現役学生の方々の夢を、柑芦会からは、会長、支部長の皆様方、各会員の夫々に、次の100年に向かって踏み出す夢・目標を語っていただきました。

それぞれの立場の方々からの「センテニアル展望」をご紹介できることを大変光栄に存じます。

柑芦編集委員長 穂永千秋



これからの和歌山県 「和歌山が最高！だと 子どもたちが思う未来を！」

和歌山県知事 岸本 周平

この度、和歌山大学経済学部が開学100周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げますとともに、これまで共に歩み支え合ってきた和歌山県知事会のご協力を心から感謝申し上げます。

貴学には、本県と2003年2月に「和歌山県と和歌山大学との連携・協力に関する覚書」を、2008年4月には「和歌山県における観光振興に向けた相互連携協定」を締結いただき、これまで様々な地域課題に積極的に取り組んでいただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

さて、和歌山県は課題先進県のトップランナーです。人口減少、高齢化、産業の空洞化、経済成長力の鈍化、南海トラフ地震などの自然災害への備え等、日本全体が抱える課題の宝庫です。そしてこれらの課題に取り組んでいくにも、教科書も参考書もありません。従いまして、「実験の精神」で新しいやり方を試し、トライ&エラーで挑戦していくしかありません。

私は知事に就任して以降、県の職場の中では「前例がありません。」という言葉に禁句にしました。これからは、前例があるかどうかではなく、前例を作っていくことが私たちの仕事であると考えています。トライ&エラーを繰り返しながら、農業、林業、水産業など一次産業の活性化と新しい産業の振興に加え、子育て世帯の経済的負担を軽くするための支援を充実させるとともに、防災力を強化し、国土強靱

化に取り組むなどの施策を推進し、県民の皆様のご生活を守ってまいります。

もう少し具体的にいくつか例を挙げますと、新規就農者の確保、紀州材の生産性向上、水産資源の回復に取り組むことで、農業、林業、水産業の活性化を図るとともに、大阪・関西万博やポストコロナを見据えたクルーズ客船誘致など、国内外からの観光誘客に取り組みます。また、宇宙関連産業等の集積を目指すほか、県内企業のDXを推進するなど、最先端産業の振興と企業の成長支援や企業誘致もさらに取り組んでまいります。その上で、人と物の流れを活性化し、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備えるため、高速道路や幹線道路を計画的に整備してまいります。また、子育て支援についても、妊娠から子育てまでの伴走型支援と経済的支援の一体的な実施、保育人材の確保、放課後児童クラブや子供食堂の充実による子供の居場所づくりを進めてまいります。

今、目の前では、小型ロケット「カイロス」が、串本の地から宇宙に向けて打ち上げられようとしております。また、世界中に甚大な影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症に対しても、通常の社会経済活動ができるような状況になり、インバウンド観光もコロナ禍前の水準に戻りつつあります。さらに、2023年の弘法大師ご生誕1250年、2024年の世界遺

産登録20周年、そして2025年の大阪・関西万博と、今後3年にわたりビックイベントが続いていきます。まさにこれから、コロナ禍からの反転攻勢に大いに弾みがつくと期待が膨らみます。

次に、これからの和歌山県をどうしていくかということですが、一言で申し上げますと、「和歌山が最高！だと子どもたちが思う未来を！」つくっていくということに尽きます。

私が目指すこの未来は、一朝一夕に実現するものではありませんが、その扉に向かって着実に歩みを進めていくため、これまでの草の根の活動で培った経験と人脈を生かしつつ、県内各地の様々な現場に赴き、県民の皆さまのご意見やご要望を直接お聞きし、県をあげて一生懸命応援していくような、開かれた温かみのある県政を行ってまいります。また、本年4月には「和歌山県未来創造プラットフォーム」を立ち上げました。アドバイザーボードには、経済、学術、アート、スポーツ、社会福祉などの第一人者の皆様にご就任いただき、そのもとに、若手のチームリーダー率いる観光、DX、ワーケーション、地方創生、国際、文化芸術のワーキングチームをつくりました。県民の皆様に夢をもってもらえる、わくわくドキドキするようなプロジェクトを立ち上げ、「和歌山が最高！だと子どもたちが思う未来

を！」つくってまいります。

県の仕事は「県民を幸せにすること」だと考えています。幸せと言っても、人それぞれに何が幸せかは違います。しかし、人は幸せな時には笑顔になるでしょうから、県民の笑顔をつくることが私たちの目的です。

貴学におかれましては、机の上の学び以外にも地域というフィールドで地域課題に積極的に学び関わる紀伊半島価値共創基幹「Kii-Plus」の発足、さらには本年4月から、経済学部、システム工学部、観光学部が密接に連携し分野横断的な知識や能力を身に着ける教育を実現する文理融合型の教育課程である「社会インフォマティクス学環」をスタートさせるなど、新たな取り組みを展開されています。

このように、地域課題に取り組まれている貴学に大いに期待申し上げるとともに、時代を見据えた多様な学びを修められた貴学の学生の皆様が、実際に県内の団体や民間企業に入ってその力を存分に発揮、活躍されることにより、子どもたちに和歌山が最高と思っただけ、県民の皆様を笑顔にするため、お力添えをいただければ幸いです。

結びに、新たな100年においても、貴学が益々重要な役割を担われ、社会が求める人材を育成、輩出されるとともに、柑芦会の皆様の益々の御健勝を祈念申し上げます。

和歌山大学の将来ビジョン—ブランディング戦略—

副学長・ブランディング担当 足立 基浩

はじめに

和歌山大学ではこの数年の間で紀伊半島価値共創基幹、国際イニシアティブ基幹など新しい仕組みが次々と生まれ、またこの4月からは新しい教育体制として文理融合型の社会インフォマティクス学環(社会統計等の教育)も誕生した。同学環は、応募状況も良好で順調な滑り出しを見せているが、現在こうした新しい教育研究を定着させつつ、さらに新しい「何か」を本山貢新学長を中心とする執行部は模索している。

そしてその「何か」のひとつが、本山学長がこの4月からスタートさせたブランディング部門である。著者は和歌山大学のブランド化(ブランディング)策の推進を担当することになったが、以下この新しい部門の方向性について述べたい。

和歌山大学経済学部は100年という伝統もある国立大学の中でも老舗といえる。滋賀大学、長崎大学、横浜国立大学、小樽商科大学、山口大学、埼玉大学、香川大学、富山大学、福島大学、信州大学、大分大学などの名門大学と並び、旧高等商業学校を母体としている。そもそもブランド力を有していると著者は考える。ただ、ブランドというものは歴史や伝統に胡坐をかくのではなく、常に組織が向上に励み、そして維持しなければならないものでもある。

ブランディングに関する学問領域では、まず、ブランド化のプロセスの議論からスタートさせる必要である。より具体的には、和歌山大学のブランド力に関する「市場調査」の実施が重要な出発点となる。まずは、和歌山

大学は魅力的なのかどうかについて現役の学生に聞いてみる必要がある(分析結果については後述する)。

現役生以外にも、卒業生、ステークホルダー、地域や地域外など様々な視点からのブランド検討が必要であるが、徐々にデータを構築する必要がある。

ある程度の調査が終了したら、次に「大学としてのアイデンティ構築」にむけて取りかかる必要がある。アイデンティティとは文字通り、独自性、売りの部分の再確認、大学のミッションの再定義にも通じる。アイデンティティ構築のため和歌山大学について「(A層)内部から見る視点(現役学生、卒業生、関係者)が関心を示す点の把握」と、「(B層)外から見る視点(関西周辺の住民、受験生、受験生をかかえる親などの層)の把握」などの意識化が重要である。まずは(A層)のためのブランディング力を強化し、ほぼ同時に(B)の強化も行う必要がある。

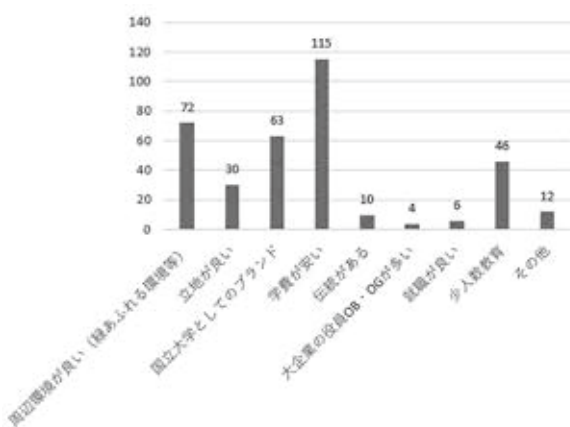
そして、次なる段階が日本全体に和歌山大学のブランド力を「浸透」させることである。特に上記「B層」への浸透強化が中・長期的には必要である。全国に対して和歌山大学の知名度をさらに「浸透」させるためには、メディア戦略、またインフルエンサー(SNSで影響力のある人材)などの登用など様々な手法がある。和歌山大学のブランドを内外に発信していくことで、ブランド力が浸透し、基金などの収入増などにも影響するものと考えられる。

現役学生に対する意識調査

今回、和歌山大学のブランド力を探るために、まずは学内(現役学生)を対象とした調査を行うことにした。調査テーマは「今の和歌山大学の現役の学生たちは和歌山大学をどのように考えているのだろうか」である。

2023年4月27日に著者の授業などを中心に現役の学生に対してアンケートが実施された¹。なお、サンプルに偏りがあるため、今後の質問項目などを見るために行う実験的調査である。以下、結果を見てみよう。

図1:和歌山大学といえばどのようなイメージがありますか？



¹なお、調査対象は、経済学部118名 観光学部24名 システム工学部2名 教育学部2名であった(主に2回生(19歳、20歳)を対象)。経済学部の学生が圧倒的に多いので、サンプルバイアスがかかっている点を考慮されたい。

「周辺環境が良い(緑あふれる環境等)」が全体の約20% (72人)、「立地が良い」が全体の約8% (30人)、「国立大学としてのブランド」が約17% (63人)、「学費が安い」が約32% (115人)、「伝統がある」が全体の約3% (10人)、「大企業の役員OBが多い」が全体の約2% (4人)、「就職が良い」が全体の約2% (6人)、「少人数教育」が全体の約13% (46人)、そして、「そ

の他」が全体の約3% (12人)であった。

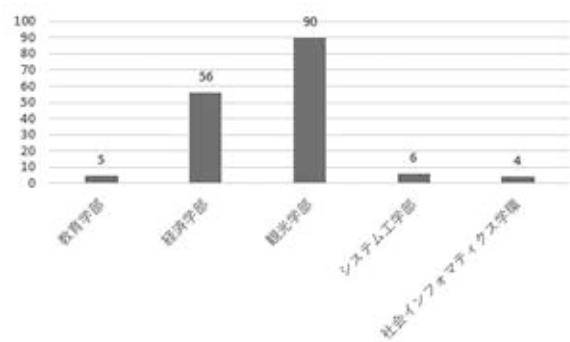
この結果から、国立大学の「ブランド的なもの」よりも、「国立大学的要素・機能(学費が安い)」「少人数教育」などの面が現役の学生にとって魅力的である点がかがえる。

100年を誇る経済学部の「伝統」に興味がある学生はわずか10人(3%)であり、また、一部上場企業の役員などを輩出しているなどはわずか4人(2%)であった。

なお「周辺環境が良い(緑あふれる)」が全体の約20% (72人)が2番目に多かった。

和歌山大学は、校舎から海が見えまた緑豊かな環境でもある。こうした点を強調し、また徹底的な少人数教育を実践することがこの大学の魅力をさらに高め、「ブランド化」につながるであろう。また、大学OBの層の暑さをもっと学生たちに伝える必要もあろう。

図2:あなたは以下の学部の中でどの学部がブランド力を有していると思いますか？

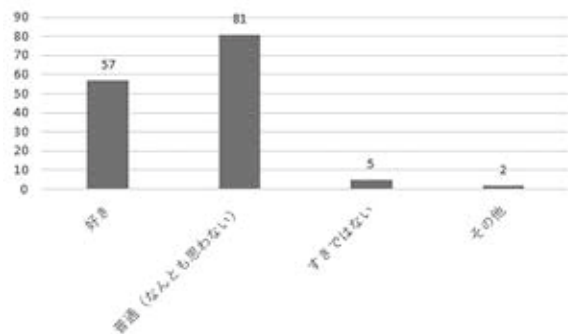


続いて「ブランド力のある学部はどの学部」かについて質問をした結果を示したものが、図2である。

「経済学部は」全体の約34% (56人)が、また観光学部が全体の55% (90人)が「(学部としての)ブランド力がある」と回答している。教育学部、システム工学部は、回答の属性が経

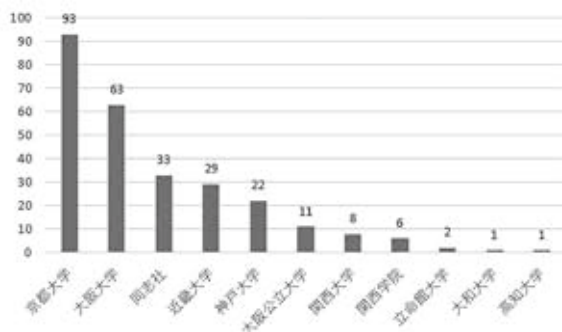
経済学部生や観光学部生に偏っているせいもあって低い値となっている。この4月に誕生した社会インフォマティクス学環は全体の2.4%であるが、システム工学部、教育学部と肩を並べている点は注目したい。国立全国では日本で最初に設置された「観光学部」がトップの結果となっており、現役学生の間でもブランドの意識化が進んでいる点は興味深い。

図3: 和歌山大学のキャラクター猫「わだにゃん」について



続いて和歌山大学のマスコットキャラクターである「わだにゃん(猫のキャラクター)」の認知度について聞いた(図3参照)。大学の認知度を高めるためには、見た目で見えるキャラクター戦略は重要である。果たして「わだにゃん」はどこまで学生たちに浸透しているのか。図3より全体の約39% (回答数37)がわだにゃんについて「好き」と回答している。一方で、過半数以上である約58% (回答数81)がわだにゃんについて、「普通」と感じており、将来的にはこの層を「好き」にさせる必要がある。このキャラクターが「好きではない」はわずか、3%であり、今後、わだにゃんの人気をさらに定着化させる必要がある。

図4: 関西圏でブランド力があると考えられる大学



最後に、図4は「関西圏でブランド力がある大学はどこか」について聞いた。

関西圏でのブランド大学といえば、ノーベル賞を多く輩出している京都大学(93人、34%)や大阪大学(63人、23%)が上位を占めた。また、私立の同志社大学も(33人、12%)と第3位に位置している。しかし、ここで第4位に「近畿大学」が入っている点が興味深い(29人、11%)。神戸大学の4位(22人、約8%)を上回っているのだ。近年、近畿大学は「マグロ大学」などキャッチフレーズを出しながら大学のブランド化に力を入れているが、このあたりの「広報力」が一定度、功を奏したのではないかと考えられる。いわゆる大学での様々な試みの「浸透化」に成功しているものと考えられる。

おわりに この調査から見えてくるもの

最後に、この調査から見えてくるものについて述べたい。

このアンケート調査結果は経済学部を中心とした現在の現役学生を対象としたものであり、和歌山大学生全体に実施したものではない。また、現役学生から見た「和歌山大学」の

印象である。このことを割り引いたうえで、しかしいくつかの点が見えてくる。

まず第1に学生たちの多くは「少人数教育であり学費が安い」ことに関心を持っている、という点である。これは全国の国公立大学そのものの「有意性」でありブランドの一翼を担うものの、他大学と和歌山大学との差別化にはならない。しかし、今後の大学経営上、この「強み」を理解しておく必要はあろう。

第2に、「環境が優れた大学である」という回答が多かった点である。ここでの環境とは、周辺を緑地で囲まれ、校舎からは海(和歌浦湾など)が見えるなど自然環境についてや、「大阪からのアクセスの良さ」などを示しているものと考えられる。このことは、地方の国立大学としての差別性を生む。

一方で残念だったのは、経済学部の100年の伝統(2023年で100周年)などを含め、OB・OGの活躍について意識している学生があまりにも少ないことである。本稿で実施したアンケート調査では、和歌山大学の卒後生や教育者でブランド力のある人を具体的に挙げただいた(紙幅の都合上、グラフなどの掲載は割愛した)。その結果、川田裕美さん(フリーアナウンサー)がほぼ独占する形でトップであった。和歌山大学は、経済学部を中心に過去100年の歴史において世界的な研究に影響

を与えた教授陣がおり、また卒業生も一流企業の役員を経験された方も多い。経済政策の大家の三上隆三先生、歴史分野では世界的な知名度がある角山栄先生などあげたらきりがない。しかし、あまりにも現役の学生たちに知られていない。これは、大学自体が大学の歴史や伝統・文化に関する教育が必要なことを意味している。これにあわせて、少人数を意識した丁寧な教育を徹底化すれば学生の中でのブランド力の意識化は高まるであろう。

先述の川田裕美さんは経済学部1年生のころから著者(後にゼミ生)も知っていたが学生時代をサークル活動などで楽しむような一般的な女子大生であった。しかし、アナウンサーになりたい気持ちは人一倍強くあり、また和歌山大学での学びに誇りを持っていた。手前のことで恐縮だが、彼女を含めゼミ生たちには毎週のように地域活動に参加してもらおう(ぶらくり丁でのカフェ活動)など、きめの細かい丁寧な教育が(和歌山大学だからこそ)できたように思う(地域情報ネットラジオUWUの初代アナウンサーも川田裕美さん)。

伝統に関する教育も並走させながら、やる気のある学生を丁寧に拾い上げるような教育を行える「場」の創造こそが、これからの和歌山大学のブランド力を育むうえで大切な役割となろう。

岩垣会計事務所

税理士 岩垣忠裕 (院35)
中小企業診断士

〒542-0081 大阪市中央区南船場1丁目3番14号
ストークビル南船場10階
TEL (06)6266-9075
FAX (06)6264-5208

建設・補償コンサルタント



株式会社 岡本設計

〒640-8256 和歌山市土佐町 2-61-9
TEL (073) 426-3151 FAX (073) 426-3155

社会インフォマティクス学環紹介と今後の展開

学環長 竹内 哲治

学環の概要

社会インフォマティクス学環は経済学部、観光学部、システム工学部にデータインテリジェンス教育研究部門の4つの組織の連携により作られた第5の学部相当の教育課程です。学士は社会情報学、学生定員30名、教員数15名（専属専任3名、連係専任12名）です。専属専任は学環に所属し旧学部の科目・ゼミを兼担、連係専任はそれぞれ3学部にも所属し学環のゼミを兼担となります。その教育の特徴は、経済学・観光学を中心とした社会科学とデータサイエンスや情報学を中心とした工学の掛け算で学ぶという学内連携を強化した文理融合型の教育課程です。特に、データ利活用力を養うことを目的に実データによる演習と、ビジネスサイエンス力や企画・実践・発信力を養うために企業・自治体と連携した実地の演習といった外部連携を実施します。



カリキュラムの第一の特徴は、“楔型構造教育”による履修体系を構成しているということです。例えば、プログラミングやアルゴリズムなどの理系科目を履修し、どの社会分野で使われるか、ミクロ経済学や商業簿記などの文系科目を履修することでイメージが湧き知識が固定されます。この文系科目を履修することは、どのような技術が必要か考えるきっかけとなり、上位の理系科目の必要性を認識し、履修の動機付けとなります。このように、文系科目が楔のように理系科目の知識の定着に役立つと考えています。他方、幾層

に重なる文系科目の固定に理系科目が楔となることでしょう。“楔”には“打ち込むことで割る”という意味がある反面、“物を固定する”という意味があります。丁度良い加減により固定されている奈良の法隆寺の木造建築のような強固で長い歴史を育むと学環では考えています。伝統ある経済学部にも追従するためにも特徴ある教育システムを構築していきます。



ただし、この学環に経済学・経営学・観光学・工学のすべての領域を提供できるわけではありません。そこで、カリキュラムにおける第二の特徴として、比較優位の観点から社会科学系では①地方自治や地場産業、②エネルギービジネスやファイナンス、③観光サービスといった尖った分野を、工学(インフォマティクス)系では①AI・データサイエンス、②システムデザインといった時代の潮流となっている分野による差別化を目指します。これにより、①地方自治・地場産業を専門とするDX人材、②エネルギービジネスやファイナンスを専門とするDX人材、③観光サービスを専門とするDX人材を養成していきます。なお、本学は文部科学省認定「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)プラス」に選定されている数少ない教育機関モデルという優位性を学環でも活かして行くところです。

創設まで

構想の始まりは、令和3年秋のシステム工学部・研究科改組の中で、「データサイエンスプログラム」の導入について文科省へ相談したところからです。文科省との交渉で、経済学部・観光学部など本学の特性を生かしたデータ関連人材の育成を考えることが望ましいのではとアドバイスをもらったことから学部連携に舵を切ったと聞いています。同時に、学部等連係課程の制度(令和2年度文科省新設)を検討しても良いのではないかと助言をうけています。その際、学位や名称を「データサイエンス」とした場合、多くの大学が同様の趣旨で設置計画をしているため、新設相当の非常にハードルの高い準備が必要となり、設置は困難が見込まれることが指摘されました。

この指摘を受けて、令和4年初頭に学部等連係課程の制度を利用して学位を「社会情報学」、名称を「社会インフォマティクス学環」と改め、社会科学と工学の融合を前面に出す戦略へ当時の伊東学長および永井教育担当理事の強いリーダーシップのもので方向転換をすることとなりました。学部等連係課程のため“学部”は使えなく、また、名称についても“データサイエンス”は使えなく、ちょっとややこしい名称となりました。外野から「なんや、その名前は・・・」とヤジが飛んできますが、みなさまにはご理解を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

私が関係するのはこの令和4年1月下旬からです。当初、よく分からないので“積極的”ではありませんでしたが、カリキュラムモデルの助言だけという約束で既存のワーキンググループに呼び出されました。サラリーマンの悲哀はそこからです。どうせ小間使いで組長は誰が他の人がやるのだと思っていましたがあれよあれよという間にまな板の上に載せられて料理されることとなりました。私の場合は、当時のマグレビ経済学部長が永井理事に強く推薦したと後で聞いています。今は感謝しております。記して御礼申し上げます。

ところが、急転したのは3月下旬、「社会イ

ンフォマティクス学環(仮称)設置準備室設置」を正式に立ち上げるため準備室長の公募を行うこととなり、応募することとなり・・・ここから設置始動までいろいろすったもんだがありました(とても素面では話せません。支部会に呼んで頂ければお話ししますので、是非読んでください！漫画「島耕作」ほどではないですが、事実は小説より奇なり)。なお、設置までに、前芦田経済学部長にたくさんの助言を頂いています。ここに感謝の意をお伝えさせていただきます。

今後の展開と経済学部・相芦会との連携

文系学部ではインターンシップや受託研究は非常に難しいです。システム工学部は比較的締結が可能です。しかしながら、システム工学部は、経済学部ほど伝統はありませんし、同窓会もまだまだ地方まで行き届いているとは言えません。滋賀大学のデータサイエンス学部は経済学部と密着し、また、同大学経済学部同窓会とも連携し様々な展開をしていると聞いています。学環は工学部系の利を生かし、生産管理や品質管理などの比較的データ収集や品質管理の段階における作業に、学生がインターンシップで携わることが可能かと考えています。文系のインターンシップは機密事項やビジネスのブラックボックスが障害となり、長期は難しいと言われています。学環からインターンシップのモデルケースを拡げ、経済学部生にも利用できるモデルケースができればと個人的に思っています。特に、マネジメント系のDX化が進めば経済学部の出番が来ると信じています。そのために、専属専任は片足を旧所属学部に残し、ゼミを担当することで旧所属学部に貢献できるように兼担としました。経済学部生にも学環からの成果が反映されるでしょうし、経済学部生と学環生の融和によりシナジー効果を期待しています。このように、“積極的に”，連携による相互協力の下で地方国立大学が生き残る道を探って行ければと思ひ結びとさせていただきます。

「人生100年時代」の生涯学習・リカレント教育・地域連携

村田 和子(紀伊半島価値共創基幹教授・生涯学習・リカレント教育推進室長)

1)生涯学習と大学

皆様、こんにちは。村田和子と申します。

本稿では、私が専門とする社会教育学・生涯学習論にかかわって、現在、経済政策としても注力されるリカレント教育、さらに、紀伊半島価値価値共創基幹について紹介します。

「人生100年時代」を迎え、誰もが学校教育段階においても、また、社会に出た後も学び続けたり、学び直したりすることができ、職業生活や家庭生活、地域社会において生きがいをもって自分らしく生きることのできる生涯学習社会の実現が課題となっています。

2)リカレント教育

例えば、25歳以上の年齢で大学に入学する人の割合は、OECD平均(2020)では、16.0%で、最も割合の高いスウェーデンでは、31.9%であるのに対し、日本は最も低い0.5%です。日本の大学キャンパスは、青年学生以外はあまりみかけられないというのが現状です。理由はいくつか考えられますが、スウェーデンでは、人間が「学ぶ」ことによって能力を高めれば、雇用され、所得間格差も縮小して、生産性が向上していくと考えられ、教育有給休暇制度や地域社会においても成人教育の場、環境整備が図られてきました。これは、本来のリカレント教育の理念、「教育を個人の総合の全生涯にわたってリカレント(再循環)に、すなわち労働をはじめ、余暇、退職などの他の諸活動と交互に行なう形で分散させることにある」(1973年、OECD)を実質化させてきたといえます。

日本の場合は、「働きながら学べる環境整備として、社会人が学びやすい環境整備を図

り、企業等においても、例えば就業時間の弾力化の配慮など、従業員がリカレント教育を受けやすい環境を整備することが望まれます」(2022年、中央教育審議会答申)としている段階だとすると、リカレント教育の捉え方、推進策は大きく異なることがわかります。



3)社会人の学びと青年学生教育

私は、社会人を正規に大学に迎え入れ、学ぶことができる生涯学習機関としての大学の在り方を問うことは、18歳人口といわれる青年たちの育ちにとっても大切だと考えます。

本学は和歌山市にキャンパスを有しますが、同じ和歌山県でも和歌山市と紀南地域では産業や地域課題が大きく異なります。そのため、この間、紀南地域の田辺市に「南紀熊野サテライト」を、大阪府南部の岸和田市には「岸和田サテライト」を設け、学部科目を社会人にも開放した学部開放授業、さらに、大学院科目を開設して、社会人のニーズに応えてきました。

栄谷キャンパスの拡張といったことではなく、青年学生と社会人が「地域で・地域に・地域とともに学ぶ」ことは、青年学生にとっては生涯にわたって学び続ける学習者の実像に触れることができ、異世代との対話を通した深い人間理解を促すという教育的な意義が見いだされます。

4)紀伊半島価値共創基幹について

これまで本学の構成員は、地域社会と連携し、研究・教育を通して地域課題に取り組むことにより地域社会との信頼関係を築いてきました。2020年度には、大学が企業や自治体とのパートナーシップによる教育研究及び社会実装を通じて、共に新たな価値を創り、実践する組織として「紀伊半島価値共創基幹」(通称:Kii-Plus)が設置されました。Kii-Plusでは、地域連携に関わる全学的な窓口対応のほか、地域の課題解決をめざし、①食と農にかかる地域づくりや都市農村交流の取組を実施する「食農総合研究教育センター」②防災、減災やまち・むらづくりにかかる取組を実施する「災害科学・レジリエンス共創センター」を中心に本学の構成員による共同研究、学生教育を通じて、社会人も対象とした学部開放授業や寄附講義に取り組んでいます。また、私自身は、生涯学習教育研究センター時代の資産である、地域の課題を鋭敏なセンサーでキャッチし、学びをプロデュースして、学校づくりと地域づくりを一体的に進め、青年を地域で育てる高大地域事業「KOKŌ塾まなびの郷」というアクション・リサーチに携わってきました。

5)松下会館の供用

リカレント教育に対応したプログラムの提供においても、地域連携は欠かせません。和歌山商工会議所等のご協力を得て、企業・団体のニーズに基づくカリキュラムを編成する予定です。オーダーメイド型のカリキュラム編成にも対応することで、地域社会と共創していきます。また、このような、価値共創の場・

地域拠点として、供用を停止していた松下会館(和歌山市)を貴会の多大なご支援もいただき、再整備しました。

今後は、生涯学習及び社会人の学び直し、リカレント教育活動を核に、教育研究活動の促進、起業家教育活動のほか、社会との連携・交流機能等を発揮していくための拠点としての活用をはかっていきます。本年7月からは使用規定を定めて一般利用にも供するよういたしましたので、ご活用ください。

学生が育ち、教職員が育ち、そして地域と価値を共創する大学へと、皆様には、引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



いつか社内制度を利用して起業を！

経済学部4年 滝下 連太郎

私の夢は生まれ育った大阪や和歌山に魅力的なコンテンツを創ることです。きっかけは大学での学びです。様々な講義の中で地域の課題や活性化に向けた取り組みに触れ、そのうちに自分が関わってきた地域のために何かをしたいと考えるようになりました。実際に行動し始めたのは、大学2回生の夏です。所属する*起業サークルAKINAIで地域課題の解決や活性化に向けたビジネスコンテストの開催情報を収集し、思い切って応募しました。

はじめは、アイデアを考えるのに右も左も分からない状態でしたが、発想法やフレームワークなどを教えてくださる起業支援の教員や起業に挑戦している仲間に支えられ、何とか発表まで持っていきましました。その後もビジネスコンテストに挑戦を続け、地域に関わるアイデアで3つの賞を受賞することができました。

来年から私は大阪と和歌山を地盤に置く鉄道会社に就職します。街の玄関口である駅は、地域における役割も大きく、地域発展との

繋がりが強いと感じ入社を決めました。そこで私は鉄道総合職として様々な形で地域に携わりつつも、いつか社内起業制度を利用して起業したいと考えています。それが大阪や和歌山に魅力的なコンテンツを創出していくことです。例えば、大阪に世界で類を見ない巨大たこ焼きパークや和歌山に世界で一番みかんを楽しめる施設など、地域の色を最大限に活かした事業を展開していきたいと考えています。バカバカしい発想ではありますが、私は私の夢を何かしらの形で実現しようと本気で思っています。そして、鉄道会社内での起業では、そうした事はできないと考える人も多いと思います。当然難しいことは間違いありません。しかし、変革の激しい社会の中で企業は新たな挑戦を求めています。実現できるかどうかではなく、まずは夢を追いかけていきたいと思います。自身のアイデアで大阪や和歌山の街がもっと「魅力的」に、「活力ある姿」になるために。



*和歌山大学産学連携イノベーションセンターでは、学生の起業支援・大学発ベンチャー支援等を行っており、AKINAIもそのうちの学生団体であり、活発に活動しています。

組織行動論の実践

経済学部3年 清家 若菜

私の研究目標は、組織の中で働く人たちが仕事に対してやりがいを感じる組織をつくることです。組織行動論に基づいて、人がどんなときに仕事に対して自発的で前向きな感情を持つかを分析し、組織とともに個人も成長できるしくみ作りをしたいと考えています。

組織行動論に興味を持ったきっかけは、航空業界が新型コロナウイルスによる大きな打撃を受けたことです。私は航空会社で働くことに長年憧れ続けてきました。しかし数年前渡航制限によって、航空会社の利用客は一時、感染拡大前の1%以下にまで落ち込みました。自宅待機や他業種に出向して働く方がいたことをニュースで知りました。長年憧れた業界ゆえに危機感を感じ、本来の業務ができないことがやりがいにどんな影響があるのか、働く人のモチベーションについて知りたいと思うようになりました。

私は現在、目標設定の方法とモチベーションの関係性について研究しています。目標設

定理論は「具体的で困難な目標が、単純な目標よりも高いパフォーマンスを生む」という考え方をしますが、それが成立するには個人の能力や環境など多くの条件が必要です。私はその条件に個々人が強みを理解している程度を取り上げました。目標管理を提唱したP.Fドラッカーは個の強みと意思決定に伴う責任が、チームワークを実現し、個人の目標と組織の利益を調和させると述べています。自分の強みを知った上での目標設定が実際に働くモチベーションを高めるか、が私の研究テーマです。

なぜ目標を立てるのか、私は夢を叶えるためだと考えています。目標は目印に過ぎず、目的を達成するための行動が夢の実現につながると思います。私の研究目的は「憧れ」というモチベーションを与えてくれた航空業界に貢献することです。私は航空会社で働きたいという夢のために、仕事にやりがいを感じるしくみをつくることを目標にしています。



私のビジョン

和歌山大学プラットホーム部 経済学部3年生 井上 敬渉

保育所からずっと一緒だった友達が、中学校から急に学校に来なくなった。そのことがずっと引っかかっていた。

私は高校で出会いに恵まれ、よき恩師やよき友と出会うことができた。学校を楽しいと思えるようになり、教育という分野に興味を持つようになった。人生の重要な局面で頼られる教師という存在へのあこがれ。経済学部でありながら教員免許を取得できる教職カリキュラムの履修を希望したのはそんなことが理由である。「教師になりたいという気持ちはあっても、経済学部の勉強をしながら教員になるための勉強もする。周りの学生とは違う生き方は苦難の連続で、生半可な覚悟で進むべきではない」そんな脅しのような説得のような言葉を入学直後に教員にかけられ、プレッシャーと不安で泣きそうになりながらも、決めた目標から逃げる自分は好きになれず、教員になって、誰かの記憶に残る人間になりたくて、誰かの人生をかえるきっかけのような存在になりたくて、教職カリキュラムを履修することを決断した。

そんな決断をした大学1年生の春、シンボルゾーンを歩いていると、新歓活動中の団体に声をかけられた。それがプラットホーム部だった。プラットホーム部は学校に行けていない子ども達の居場所づくりを目的に活動している団体で、2か月に1度子どもたちと触れ合うイベントを開催して子どもと遊んだり悩みを相談したり、社会とのかかわりが薄くなってしまった子どもたちに社会と関わる機会を作っている団体である。

そういった説明を受けたとき頭に浮かんだのは、ずっとそばにいた親友のことだった。

親同士のつながりで保育所からずっと一緒に過ごしてきて、家族のような存在で、それなのに何も言わずにばかりと学校に来なくなった。そんな彼のことがずっと頭の隅にあって、忘れられなかった。

「どうして学校に来なくなったの?」「どうして何も相談してくれなくなったの?」「なにがあったの?」会うたびに口から出そうになる言葉は、口に出したとたん彼がこの世からいなくなってしまいそうで、勇気が出ず、言い出せなかった。私には、彼を救うことができなかった。

原因が私にあるかも定かではないのに、勝手に罪悪感を抱えるのは傲慢であるとも思うが、そばにいながらにもできなかったという後悔がずっとあり、私が自分自身を許すことができず、その贖罪がしたくてこの部に入部した。

活動内容的に教育学部の学生が多く、「教員になるための勉強として」「子どもが好きだから」「子どもと接する機会が欲しいから」集まる学生の多くは口々にそういった理由を話す。私も教師になることを目指した手前、子どもたちと関わりたい、学びを得たいという考えはなかったわけではないが、純粋な気持ちで子どもたちと向き合っている学生を見ると、はじめのうちは申し訳なさを感じた。

しかし、学校に行けていない子どもたちと関わっているうちに、考え方が変わっていくのが分かった。

学校に行けていない子どもたちと接していると、これまで自分が考えていた不登校の概念が揺らぐ体験をたくさんできた。学校に行けてないからといって、暗い子ばかりではな

く、年相応にはしゃいで学生と遊ぶ姿を見せる。逆にすごく明るく見える子でも、幼いながらにたくさんの問題を抱えて、それに悩まされて過ごしている。話に聞くだけの物とは違う、生々しい実態をたくさん見た。

ただ、学生たちと触れ合っている間、子どもたちはみんな楽しそうで、それぞれが好きなようにのびのびと過ごしていて、帰るときには笑顔で元気に手を振ってくれる。保護者や子どもたちと関わっているほかの団体から、子どもたちがプラットホーム部の活動を楽しみにしているという声を聴いて、ほんのわずかな時間でも、私たちの活動が子どもたちの心の支えになっていることを実感する。

私の親友も、学校には来なくなったが、家で遊んだり、ともに時間を過ごしたり、不安を抱えている中でも顔を見せてくれた。気を使ってあってくれていただけだと思っていたが、

一緒にいる時間が彼にとっても救いになっていたのではないだろうかと考えられるようになった。

学校に行かないという選択をして、あるいは選択せざるを得なくなって、学校に行かなくなった子ども達は、周りの子どもが学校にいる間、何を思って過ごしているのだろうか。比較できるものではないが、学校に行かずに日々を過ごしている彼らが抱える悩みは決して軽いものではないだろう。親への罪悪感、劣等感、先の見えない不安、さまざまな悩みに押しつぶされそうになりながら、それでもどうにか生きている。今の私はそんな彼らが、ほんの少しの間でも悩みを忘れられる時間になればいいと思いながら、子どもたちと向き合っている。これから出会う悩みを抱えた子どもたちが少しでもつらさを忘れられるように、支えることができる存在に私はなりたい。



オーストラリア南北3000km完走の夢

和歌山大学ソーラーカープロジェクト
経済学部2年生 野谷 帆香

オーストラリア南北3000キロの完走。この大きな目標を掲げ、*和歌山大学ソーラーカープロジェクトは活動してきました。そして今年の秋、夢見たその舞台へ。

私たち、和歌山大学ソーラーカープロジェクトは、和歌山大学の学生によって構成され、一人乗りのレーシングソーラーカーを製作している団体です。時速100km以上も出る車体を学生の手で一から設計、製作しています。さらに、車体を製作するための資金調達や広報活動なども学生が行っており、企業様から技術支援や資金提供といった形で協力いただきながら活動しております。このように学生が、車体の設計から団体の運営までの全てを行っていることが私たちの強みです。

私たちはこれまで、国内のソーラーカーレースで、たくさんの成果を残してきました。2006年から出場している「FIA Electric & New Energy Championship ソーラーカーレース鈴鹿」。初参加だったこの大会では、成績は33位という結果に終わってしまいました。しかし、何度も車体の改良及びレース経験を重ねることで順位を上げ、優勝が手に届くレベルになりました。2016年大会では鈴鹿の大会に初めて出場してから10年、初優勝を成し遂げました。

そして私たちは、次なる目標として、2021年に豪州で行われる世界最高峰のソーラーカーレース「Bridgestone World Solar Challenge」、通称BWSCの出場を掲げました。2019年にはBWSCでの走行を意識した新車体の製作を行い、鈴鹿の大会におけるより上位

のクラスにも出場しました。しかし、その後新型コロナウイルス感染症により活動が大きく制限される事態になりました。その中でも、オンラインなど様々な方法で活動を進めていましたが、後に2021年のBWSCの中止が発表されてしまいました。

それでも、私たちは世界で自分たちのソーラーカーを世界で走らせたいという熱い想いのもと、BWSC2023年大会に目標を変え、その大会での完走を目指すことにしました。

BWSCは、オーストラリアで2年に1度おこなわれる世界最高峰のソーラーカーレースです。実際のレースでは北部の都市ダーウィンから南部の都市アデレードまでの約3000km、日本がすっぽり入るような長距離を縦断します。そして走るのはレース用のサーキットなどではなく、ほとんどは砂漠の上にひかれた公道です。そのため日中は熱気やほこりが舞い上がり、夜間になると気温が急激に下がるといったような過酷な環境でレースを行わなければなりません。さらに、ソーラーカーが走行できるのは朝8時から夕方17時までと走行可能時間が限定されており、夕方17時を迎えるとその場で停車し、多くの場合は砂漠の中であり、宿泊施設がないためその場で野宿を行います。このような過酷なレースにおいて、自分たちの作るソーラーカーを完走させることを目指し、日々活動に励んでおります。

当プロジェクトは「和歌山から世界へ」をスローガンとして、BWSC出場、完走を目指します。BWSCで完走することは決して簡

単な目標ではありません。厳しいレギュレーションを満たす車体を製作するための高い技術、車体製作や遠征にかかる費用をまかなえるだけの資金、完成した車体の性能をより引き出せるチーム運営など乗り越えなければならない壁はたくさんあります。それでも、それらを克服して国立の総合大学として初めてBWSCに出場することは私たちにとって大き

な価値になると考えています。

私たちには、「和歌山から世界へ」という理念を掲げ、日々活動している私たちを応援してくださっている協賛企業や地元和歌山の方々がたくさんいます。そうした方々の期待に応えるためにも、BWSCに出場および完走を目指しこれからも頑張っていきます。



*和歌山大学協働教育センター（クリエ）では、学生が模範解答のない課題や誰も挑戦したことがない夢に向かって、チームを作って主体的に取り組む「協働教育」を立ち上げ、その活動を支援しています。ソーラーカープロジェクトチームもそれら支援チームの1つです。

花壇による学内美化活動

学内には援農サークル「agrico.」が管理する花壇が二つあり、私は花壇班班長としてそこで活動を行っています。私が花壇班で活動をするきっかけとなったのはサークルの確定新歓での先輩との会話でした。その先輩も花壇班で活動しており、その内容を聞いて自分も花壇で花を植えてみたいと思い参加を決めました。

実際に花壇班で活動を始めると、単に花を植えるだけの活動ではないことが分かりました。花壇では放置していると雑草が多く生えてくるため、定期的に抜いていかなければなりません。特に長期休暇明けや花壇使用解禁後は雑草が多くなっており、週2時間の活動では何週間もかかってしまうということがあります。また、雑草を抜き終わり花を植えたとしても、定期的に水をやる必要があります。昨年度の夏にはひまわりを植えました、少

agrico. 花壇班班長 経済学部3年 谷口 翠優

しでも水やりを怠るとすぐに花の調子が悪くなってしまうということを知りました。こういったことから、花壇をきれいに保つには多くの労力が必要となることを学びました。

しかし活動は大変なことばかりではありません。種や球根から育てた植物がきれいに花を咲かした時や友達に花壇をほめてもらえた時は、頑張ったよかったと嬉しくなります。そのため在学中は班員の予定揉みつつ、花壇班として学内の美化活動を行っていきたいと考えています。

この他にもagrico.では援農活動を行っています。この活動では県内の農家さんに「援農」という形で活動をさせてもらい、農業のことや地域のことについて関わっています。これからもこういった活動を通して、私自身の活動の幅を広げていきたいと考えています。



写真①
観光学部と図書館の間の花壇



写真②
東1号館前の花壇

音楽・エンターテインメント分野での起業を！

経済学部2年 仲宗根 恵菜

去年度、経済学部74期生はコロナウイルス（以後、コロナ）の猛威によって、ほとんどの授業がオンラインだった。思っていたような大学生活が送れなかったという声を同期から多く聞いた。しかし医療体制の整備や感染防止の徹底で、今年度五月からマスクなしでも大学で過ごせるようになった。対面授業がほとんどになり、新しい友達が増えたという声も聞く。コロナ以前の大学生活が戻る中私は今一度、和歌山大学に入学した理由を考えていた。

私は現在、三つのサークルに所属している。軽音サークルのSoundEnergy、アカペラサークルの和音、そして*起業サークルのAKINAIである。経済学部ではビジネスデザインプログラムを選択し、「企業採用のミスマッチ」について研究したいと考え、ゼミを選んだ。そんな私だが和歌山大学経済学部に入學した理由は、「起業の方法が学びたい」「起業の

仲間を大学で見つけない」といった思いからである。去年度は起業家さんのイベントを手伝ったり、起業イベントに参加したりといった活動をしていた。そこで起業イベントの一つStartupWeekendで音楽フェスの企画を行った。パフォーマンスプレゼンテーションを行う場面があったのだが、自分が作ったオリジナルソングで皆が笑顔になった瞬間は忘れられない。音楽やエンターテインメントに関わる仕事ができればどんなにいいかとその時思い、そこから音楽やエンターテインメントの分野で起業したいと考えるようになった。

まだまだ起業の方法もわからない私だが、まずは小さな一歩として8/19に片男波公園の野外ステージで音楽フェスを開こうと準備している。今後も起業という夢に向かって自分なりに進んでいきたい。



*和歌山大学産学連携イノベーションセンターでは、学生の起業支援・大学発ベンチャー支援等を行っており、AKINAIもそのうちの学生団体であり、活発に活動しています。

柑芦会の将来ビジョンについて

会長 大18 北村 修一

柑芦会は来る2026年に設立100周年を迎えますが、これを機にさらなる発展を期するため、設立の原点に立ち返って、組織体制の整備と財政基盤の強化、並びに各支部への支援の充実など様々な体制強化の事業を展開していますが、その進むべき方向性について「将来ビジョン」としての私案をご紹介します。

1. 柑芦会のあるべき姿について (私見)

柑芦会という組織と運営体制は、実は他の大学の同窓会とは大きく異なる面を持っていますが、ご存じでしょうか？それは和歌山大学と同じく高商の流れをくむ滋賀大学(陵水会)や山口大学(鳳陽会)の同窓会に意見交換会を申し入れて面会したときに判明したのです。その後少し調べてみたところ、国立大学だけでなく私立大学も含めて柑芦会と同じ形態の同窓会はほとんどなく、どうやら柑芦会の組織運営体制は独特のものであることがわかりました。

その違いの主な点は、「年会費」をみればよくわかります。他大学では年会費は各会員個人が本部に納入し、本部が母校や後輩たちに対する様々な支援活動を展開しており、併せて各支部の活動に対する各種の助成金が本部から支給されるという形が主流なのです。これは、年会費は各支部が徴収し本部には一切入金がない、という柑芦会とは大きく異なります。さらに柑芦会では、その年会費の額も1,000円から3,000円まで各支部毎に異なり統一されていない、という実情もあります。

つまり本部の収入源としては、毎年の新入生からの「入会金」(23,000円)だけというのが実態であり、その中から母校に対する各種の支援活



動や各支部に対する各種の助成金を支出しているのが実態なのです。そういう事情もあって、柑芦会本部の財政は年々悪化の一途をたどっています。

この状況を何とかしようとして取り組み始めたのが、各支部毎にまちまちな事業年度を4月から3月に統一したり、規約のない支部には規約を定めるように要請したり、支部の業務軽減のためでもある「年会費のコンビニ収納」を扱えるようにしたことです。

私は、柑芦会を他の大方の同窓会と同じような組織形態に切り替え、年会費の取り扱いについても本部が徴収する形に改めるべきではないか、と考えています。つまり、実施時期は別としても、名簿管理と年会費管理、そして広報活動は本部が一元的に責任を持つこととし、その上で母校に対する支援を行う、という形態への変更が必要だと考えるのです。

2. 母校と後輩のための支援のあり方について

先に述べた2大学の同窓会では、母校に対する支援策の種類も金額も柑芦会のそれとは雲泥の差があると言わざるを得ません。

もちろん、その違いの理由は組織体制と年会費の徴収方法だけではありません。2つの同窓会共に、母校や後輩たちに対する支援のための「寄付の文化（風土）」が長年にわたって醸成されていることも大きな要因です。

その上での支援策についてですが、国からの交付金が年々低減している母校にとって最も喜ばれる内容でなくてはならないのは当然のことです。これに関しては、従来以上に母校（主に経済学部、そして大学本部）とのコミュニケーションを密にしていかなければなりません。これまでに得た断片的な情報では、母校側の要望としては、他大学との差別化のための特長ある科目を実施するための優秀な教員の確保のための資金であり、現役学生の海外留学に対する支援金、東京をはじめ近畿地域から遠く離れた場所での就職活動に対する支援、などがあるようです。

とはいえ、当方の財源にも余裕があるわけではありませんから、その支援策も真に必要なものに限定するとともに、優先度を考慮したものでなくてはなりません。そのためにも、母校側との定期的なコミュニ

ケーションは欠かせないと考えています。

3. 財政基盤強化活動の充実

一方では、当然ながら柑芦会の財政基盤の強化を図る取り組みも欠かせません。母校や後輩たちにできるだけだけの支援を続けるためには、年会費のあり方を変えて柑芦会の財政を少しでも潤沢にすることは大前提ですが、それだけではなく他大学の同窓会のように「母校に対する寄付の文化（風土）」を醸成して、経済学部の創立〇〇年記念事業など、高額な支出を要する事業に対しては会員からの寄付を募ることも検討すべきではないでしょうか。

柑芦会は任意団体ですので、寄付に対する税制優遇策を適用することはできませんが、それでも寄付をしていただけるような仕組みと組織体制の検討（一般社団法人化、大学基金室との連携などを含む）も開始しなければならない、と考えています。

またその一方では、デジタル時代を反映し採り入れるするためにも、紙の文化から脱して郵送料の削減を図るなどのほか、できる限りの経費削減策を図ることが必要であるのは論を待ちません。

川瀬計理事務所

税理士 川瀬 雅人 (大27)

〒522-0062 彦根市立花町4-21
電話 0749-23-0011
FAX 0749-23-0015

齋藤直樹 税理士事務所

〒559-0007 大阪市住之江区粉浜西2丁目18-4
粉浜グリーンハイツ306号
TEL 06-6678-0233 FAX 06-6675-5728
税理士 齋藤 直樹 (大21回)

センテニアル～柑芦会の夢

大阪支部長 大26 いとかわ 系川 まさひで 公偉

柑芦会の今後100年の展望・夢とは、壮大なことで、何を書けばよいのか思いつきません。

今後の100年教育・大学制度も変わることでしょう。国立大学制度は残るかも知れませんが、学部制度はどうでしょう。学び研究する内容や環境変化は予想がつきません。

鉛筆・ノート・教科書、ガリ版印刷の資料時代から、コピー・FAXが普及しパソコン操作が当たり前となり、電子メールやスマートフォンの通信、Zoom利用のセミナー・会議が普通に行われる時代、「そろばん」を使う人はほとんどいなくなりました。先日の浪切サロンで講師の方が、最近の学生の多くは「夏目漱石の作品」を読んだことがないと発言されていました。

子供時代から私たちの時と異なった環境で育った現在の学生たちとは、考え方が同じであるはずがありません。これはどの時代でも言える申し送りのようなことかも知れません。昭和30年生まれ26期生の私と、先輩方とも時代・環境が違い考え方も同じではないと思います。また、スマートフォンを操る後輩たちとも同じ考え方ではないでしょう。

ただ、いつの時代でも教育研究の大切さ、柑芦会の後輩諸君への伝承は守っていかねばなりません。柑芦会発足当時の良き伝統を何らかの形で、伝えていきたいものです。

このような環境変化の中、柑芦会は100周年を迎えます。素晴らしいことだと、先輩・後輩

の皆さま方には感謝の言葉しかありません。ただ、この先柑芦会がこのまま存続できるか200周年を迎えることができるかは、皆様のご支援・お力に頼るしかありません。同窓会活動に賛同される方がこの先どれ位いらっしゃるか、期待と不安があります。最近、居住地の自治会に加入しないという事例も聞きます。着実に時代環境・人々の考え方は変化しています。

そのような環境変化の中、我々の柑芦会活動は続いていくことを期待します。伝統は残ります。残します。それには、後輩たちへの伝承活動は地道に継続していく必要があります。語り継がれる柑芦会の素晴らしい伝統を今の時代に少しでも多く残し、後世に伝え残したいものです。そのためにも今の時代を生きる柑芦会会員が、次世代に続く活動、今の柑芦会資料を整理存続する重要な役目があります。柑芦会の今まで築いてきた大切な伝統は、継承し未来永劫残したいものです。「昔はこうだった」「今まではこうしてきた」というだけの進歩のない活動は改革し将来に続く活動を重視し、時代に即した柑芦会活動を展開したいものです。活動・行動は変化・変革するものです、皆様の力を結集しより良い展開を実現させましょう。

そうです、皆様の力で未来永劫この素晴らしい「柑芦会」を存続させましょう。

柑芦会の夢 「柑芦会の資産目録」

柑芦会の将来を考えると、もっとも重要なトレンドは、日本の人口減少だろう。数十年後には日本の人口は半減し、若者の人口も激減する。和歌山大学は、関西圏に近い国立大学としての地理的優位性もあり、現在は入学希望者も多く、比較的安定した状況にあるが、さすがに将来はそうもいかないだろう。いずれ他大学との合併・再編を余儀なくされ、柑芦会もその嵐に巻き込まれることは間違いない。そこで、そうした状況に備え、柑芦会について、将来のあるべき資産目録を考えてみた。

・**柑芦会会員**：柑芦会にとっての最も重要な資産は会員である。その中で特に価値があるのは柑芦会活動に積極的に参加しているアクティブ会員の存在である。参加率(年会費納入率)を増やすなど、この資産に磨きをかけることが重要。現在、最新情報に基づく会員データベースを整備中であるが、この資産を支える最も重要な情報基盤として位置づけ、整備・充実を図るべきであろう。

・**財務基盤**：大学からみると、同窓会活動に対し、最も期待の大きい資産である。他大学の寄付状況やベストプラクティスを学んで、この資産の継続的な増強をめざすとともに、こ

柑芦会副会長 東海支部長 大25 垣見 祐二

れをバックにした大学の教育・研究活動への支援の充実を図るべきである。

・**支部活動基盤**：高商時代からの良き伝統について今日までできたが、さすがに、これまでのやり方だけでは活動の停滞が否めない。今後、各支部で工夫し、新しい活動を模索し、是非とも残すべき貴重な資産である。

・**柑芦会の記録・歴史**：今回発刊する「経済学部百年史」のほか、「柑芦誌」の創刊から最新号まで、および各「支部だより」等を組織的に収集・保管しておくべきであろう。

・**「柑芦会」という名前**：将来の大学の再編・統合の中で、この名前が消えていく可能性もある。柑芦会発足の地である、高松の松下会館の傍らに、柑芦会の簡単な歴史とともに、名前の由来を記した小さな記念碑を建て、同窓会の「記憶資産」として残しておいたらどうだろうか。

最後に、柑芦会のような同窓会組織でも、会社組織と同様、合併・再編後のポジションを決定づけるのは、その組織が持っている資産価値である。将来の再編等に備えて、残すべき資産内容を明確化し、整備・充実させていくことこそが、現在の柑芦会の活動にとっての最重要事項だと思う。

鵜島会計事務所
鵜島社会保険労務士事務所

税1級 F 理 P 士
行 政 書 能 士
社 会 保 理 業 務 士
中 小 企 業 診 断 士

鵜島 信二 (院34)

鵜島 幸夫 (大53)

〒641-0021 和歌山市和歌浦東3丁目2-78 山下ビル102号室
TEL(073)448-2668 FAX(073)448-2669

時間駐車・不動産賃貸

パークス株式会社

代表取締役 織田 宗輔 (大10回)

〒578-0941 東大阪市岩田町3-9-6
TEL/FAX 06-6725-3600

同窓会とこれからのビジョン

東海支部 大50 中川 暢顕

「今年の大学祭、めっちゃ良かったね。」

大学を卒業して、早20年、今でもたまに、大学で過ごした日々を夢で見ることがある。大学在学中、私は、大学祭実行委員会に所属しており、夢の中では、あの当時の仲間たちの顔や、大変だった準備、盛り上がった大学祭、夜中まで飲み明かした打ち上げが、鮮明に思い出される。

私が考える同窓会のビジョンは、いつでも帰ってくることができる「ふるさと」のような場所でありたいというものである。

先般、開催された柑芦会定時理事会で示された資料には、大変厳しい数字が並んでいたのが印象的であった。大学入学時に支払っていただく同窓会の入会金や、各地で懸命に活動している同窓会の各支部への年会費の減少傾向が続いているのである。

私が大学に入学した頃は、ほとんどの入学者（保護者の皆様）が、疑問を持つことも無く入会金を支払ったであろうし、年会費についても、先輩や同期からの声掛けなどで、快く支払っていただけていたのではないだろうか。

しかし、現在は、同窓会に加入することのメリットやコストパフォーマンスなどが先に出て、同窓会の意義をうまくお伝えできていないことに歯がゆい思いをしている。では、同窓会のメリットを強調したり、会費に見合った活動をしていけばいいのだろうか。少なくとも私は、異なった考えを持っている。

数年前になるが、ロックバンドL'Arc ~ en ~ Ciel（ラルクアンシエル）のヴォーカルで、和歌山市出身のHYDE氏のインタビュー記事が強く印象に残ったので紹介したい。

—「黒ミサ」の和歌山公演の2日目には「和歌山市ふるさと観光大使」の任命式が行われましたね

就任することが決まったときは、僕ができることはあまりないだろうなと思ってたんですけどね。でも普通の人よりは影響力があるからか、Twitterでのつぶやき1つでも妙に拡散されるので、それを見てこれは貢献できることがあるなど。自分がやれること、興味があることを発信しようかと思うようになったんです。そうすると、例えば雑誌や新聞を読んでいるときでも「和歌山」という文字があると頭に入ってくるんです。それでもっと知りたくなって調査するし。以前より和歌山に詳しくなりましたね。

—若い頃と比べて故郷に対する思いは違いますか？

違いますね。今は落ち着く場所、懐かしむ場所、郷愁を感じる場所になりました。

情報配信サービス「音楽ナタリー
（株式会社ナターシャ）」より引用
<https://natalie.mu/music/pp/hyde04>

世界で活躍される氏でも、年齢を重ねられ、故郷は落ち着く場所、懐かしむ場所であり、「和歌山」という文字が自然と頭に入ってくるのである。

私たち「柑芦会」も、大学時代を思い起こした時に、気軽に帰ってこられる場であり続けることが大切なのではないだろうか。そのためには、現役学生の皆さんに同窓会を知ってもらうための接点を増やすことや、同窓生が、いつでも、どこからでもアクセスできる場（ホームページやSNS）を整えておくことが肝要であると思う。

和大の仲間を、いつでも「おかえり」と迎えてあげられるように・・・。

私の夢

東海支部 大56 西山 剛

56期経済学部卒業の西山です。

私は現在、空間設備デザインと営業・人材育成のコンサルタントを仕事にしています。

卒業後、7年間勤めた会社辞めて経営者として進み出したのは、より多くの人の人生に自分の意志を持って関わりたいという想いに至ったからです。

関わり方は様々ありますが、特に私が人生の中で関わり、そして実現したいのは、障害を持つ人たちの障害を極力小さくする空間づくりと個性を發揮できる場をつくることです。

私には、障害を持った妹がいます。

こういう話をすると大変だね。とか、苦勞してるね。という方がいます。

小さい頃は、「同情するなら金をくれ」みたいな想いを持っていました。歳を重ねていくにつれて視野が広がり社会を知ったとき、障害を持った方はもちろん、その方の家族や関係者が、様々な「制限」の中で暮らしていることを知りました。私の家族も同じくです。

そして、多くの方が、この「制限」を受け入れて生活をしています。「制限」だけに目を向けるのではなく、可能性に目を向けて、障害を持った方やその家族・関係者が少しでも幸せな人生を送れるようにしたいと考えています。

その為に、まち全体を福祉タウンにするプロジェクトを多くの企業を巻き込んで行いたいというのが私の夢です。物理的な「障害」をなくすバリアフリーな建物と交通媒体（LRT等）の整備と、生きる上での「障害」をなくすために、就労支援A型事業B型事業の誘致、介護施設と飲食店の連携で、食材ルートの確保、メタバース空間とまちを連携させる等、障がい者だけではなく、小さな子供からお年寄りまで生きていくうえで生じる「障害」を最小限にするまちを作る。

ここで再度強く言いたいのは、福祉タウンが障がい者だけの為のまちではないということです。それぞれの強みと弱みをお互いが補いながら生活ができる環境をつくり、人としての人生を全うできるまちを作っていきたいと思います。

介護福祉事業の会社が福祉タウン構想を考えていて、実現に向けて動いています。

「福祉タウン」という言葉もあらゆる場面で使われていて同一のものはないです。

私は福祉タウンを作るという夢で、障害を持つ人たちの障害を極力小さくする空間づくりと個性を發揮できる場を実現させます。

随想「センテニアル展望～柑芦会の夢～」

神戸支部幹事長 大27 吉竹 俊道

柑芦会誌第50号(2019年)の出会いのひろば「随想」に、「転勤について」と題するサラリーマンとして経験し続けた転勤体験をポジティブに受け入れることのメリットについての思いを綴らせていただきましたが、この転勤を積極的に受け入れることの基礎となったものの一つに「企業内柑芦会」があったように強く感じられます。入社した損害保険会社には結束の極めて固い「企業内柑芦会」があり、入社が内定した後すぐにこの会の先輩に声をかけていただき、会社生活のスタートを切ることができました。

歓迎会も開いていただき、会社の色々な部門のまた色々な役職のこの会の先輩に社会人としてのイロハから教えてもらいました。転勤しても各地でこの会の集まりがそう頻度は高くはないものの催され、それに参加することで自分がその当時担当していた業務以外の会社の情報などを知ることができ自分の成長にずいぶん役立ったものだと思われ返されます。この企業内柑芦会の全国大会も数回は催され、その事務局としてお手伝いをしたことも鮮明に記憶しています。

先輩後輩が一堂に会して、同窓生としてのよしみで本音の話が聞けるし、またすることもできるとても大切な場がこの会でした。この存在なしには私のサラリーマン人生を語ることはできません。

ところが、90年代に入り損保業界に自由化の波が押し寄せ、2000年代からは損保各社が合併へと突き進み、これによりこの会の活動は制約を受けるようになり、社内の人物の出身大学を聞き出すことも困難となりました。

そのため、合併後の会社におけるこの「企業内柑芦会」は実質的な活動を停止せざるを得ないような事態となりました。社内の個人的な知り合いだけで集まるだけの柑芦会とならざるを得なくなり、後輩たちに自分たちが先輩からしてもらったようなフォローをすることができなくなってしまいました。手元に残る企業内柑芦会の名簿に記載されている会員数は私の入社した1979年4月には28名で、その後1989年6月で44名、最後に残っている2004年10月の名簿では63名であり、これ以降名簿の更新はされていません。この時には全国各地で活動している柑芦会の支部活動に参加するという事は、それまでこの「企業内柑芦会」でしか活動してこなかった者にとっては思いが至ることではありませんでした。

そのまま60歳で定年退職の道を選んで、兵庫県の自宅に戻ってからは神戸支部と大阪支部に入会して支部活動に参加させていただくようになり、会社に在職中からもこの支部活動に参加する方法があったことを初めて知ったものです。

そこで私の「センテニアル展望—柑芦会の夢」はこの柑芦会支部活動と企業内柑芦会活動を橋渡しすることです。競争と変化の激しい今日の環境下では、多くの会社で企業内柑芦会活動が停止あるいは有名無実化していることも想定され、我々が企業内柑芦会の先輩から受けた社会人教育や会社活動での支援は、和太出身の若手の社会人は受けることができないのではないかと危惧しています。そのため各柑芦会支部が企業内柑芦会活動の一部を担うようなことができればいいの

にと考えた次第です。

ではどうすればそんなことが実現できるの
 だろうかと考えた時に、今どきのChat GPTを
 使ってその案を検討してみました。

1. コミュニケーションの促進のために各柑
 芦会支部が企業に属する同窓生との交流
 のためのオンラインプラットフォームや
 SNSグループを作成したり、共同でのイベ
 ントの開催を検討する。
2. 企業内の同窓生が持つ知識や経験を各柑
 芦会支部のメンバーと共有するためのセ
 ミナーやワークショップを開催する。
3. 社会貢献活動やインターンシップ、キャリ
 ア支援のプログラムなどを柑芦会本部が

企業内同窓生に提供して参加を呼び掛け
 る。

4. 企業内同窓生と柑芦会本部や各柑芦会支
 部が交流する機会を提供するために、定期
 的なイベントや交流会、キャリアカフェな
 どを開催する。

それらしい回答は作成できましたが、ど
 れ一つとってもその実現は容易ではなさそ
 うですが、この課題解決こそが現在の柑芦会が
 抱えている問題の解決の一番の近道ではな
 いかと思います。

知恵を出し合って一歩ずつでも進んでみた
 いものです。

*Always available as your home
 and company lawyer.*

司法書士法人 さくら国際
 行政書士法人

SAKURA INTERNATIONAL LEGAL PARTNERS



司法書士 櫻井 恵子
 行政書士

TEL.06-6245-3649 地下鉄本町駅より
 徒歩1分

URL:<https://www.sakura-kokusai.com/>

入管業務

各種
 許認可

会社設立

相 続

成年後見

民事信託

私のビジョン2023

神戸支部 大39 小柴 学司

今年の10月で55歳になりますので、卒業してから30年以上経ちますが、いまだに大学時代のことは明確に覚えております。大学1年の9月から公認会計士の勉強を始めて、期待と不安の連続でしたが、24歳で試験に合格し、今は学生時代にイメージしていた以上の仕事ができ一安心といったところです。

あと10年ほどは今のペースで働けそうですが、身体が動くうちに色々チャレンジしようと思い、次のようなことを始めました。

6年前に大きなキャンピングカーを買ってあちこちに遊びに行ってます。朝起きて目の前が海！というのが好きなので、夜中に移動し、景色の良い場所に駐車して1日が始まります。白浜やすさみへもよく行きます。

5年前からヨガレッスンスタート。この数年は、辻さんの和太鼓レッスンのスタジオをお借りして、神戸支部のメンバーと毎週ヨガをご一緒しています。

昨年末からビリヤード(コーチは元日本チャンピオン)、今年の1月から社交ダンスも習い始めました。4月には、20年ぶりにスノー

ボードをしましたがお尻を強打したので、今回はコケないように下半身を強化したいです。

日本人は働きすぎと言われますが、そうではなくて遊ばなさすぎでは?と感じています。

ワークライフバランスが大事なので、今後は仕事7:遊び3ぐらいの割合にして、来年は週休3日を目標にしています。

この数年でリモートワーク環境がだいぶ整ってきたので、数年以内の目標は、1週間ほど仕事をしつつクルーズ旅行へ行くことです。行き先は、小笠原諸島(特に沖ノ島)が理想です。

40年以上継続している趣味は、水中銃で魚を突くことですが、徳島の漁師町で育ったので、これが原点です。

今年の夏は、大学時代の絵画部の友達(田辺に住む教育学部出身のうっちゃん)家族と一緒に紀南の川(富田川?)へ川エビを取りに行くのも楽しみです。

天然紀三井寺温泉

龍の湯

和洋102室、収容人員400名
無料送迎バス5台有り
合宿・各種競技等のご宿泊 格安料金御利用下さい。
■ご宿泊はお客様のご希望にあわせて和室・洋室をご用意できます。

〒641-0012
和歌山市紀三井寺673 国道42号線沿紀三井寺入口

ガーデンホテル
紀三井寺

はやし

お問合せ・ご予約

TEL.073-444-1004
FAX.073-446-2321

柑芦会と私

香川支部副支部長 大31 梶 正司

私が「柑芦」という単語に触れたのは、大学入学間もない頃、新入生に対して、寮歌「花の霞に」などが収録された「柑芦の青春」というオレンジ色のLPレコードの配布があったのが最初だと思います。私は合気道部に所属しておりましたので、ことある毎に部員が肩を組み円陣になって寮歌を歌うのが習慣になっており、寮歌を覚えるのにちょうど良かったです。あのLPレコード、今は手許にありませんが、どこへ行ったのでしょうか。

香川県では毎年、支部総会を盛大に、とまでは言えませんが、楽しく和気藹々と開催しております。若手の会員さんから聞いたのですが「部活動の打ち上げでも寮歌は歌っていない。寮歌は聞いたこともない」とお聞きし「へえ～そうなのか」と驚きました。時代の流れとは、こういうことなのかと感じました。

大学を卒業し、地元香川に帰り、ある時、見ず知らずの香川支部の先輩から、「支部総会・懇親会がある」とのお誘いを受け、当時、先輩

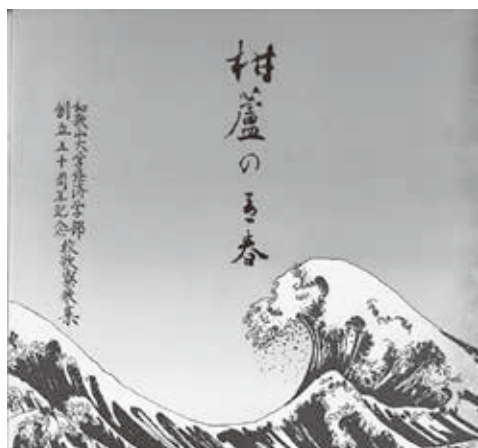
から言われれば反論の余地は無く「はい、出席いたします」とお答えしました。参加すると、かなりの人数、30人以上が集まって大宴会が行なわれたことを思い出します。異業種の方との



交流や、新しい人脈を築くことができ、有意義な場であったと思います。その後、こうした会は続くのですが、いつまでたっても私が一番下という状況が何年も続き、参加者も徐々に減り、ご高齢の会員が10人弱集まるだけとなりました。何とか若返りを図り、参加者を増やすため、支部総会は10年ほど前から、昼間開催にして講演会などを実施するなどの工夫をしております。円陣を組んで寮歌を謳歌するということもなく、スマートな形で行なわれており、若手の努力もあって少しずつですが若い参加者も増えはじめています。

言うまでも無く、同窓会は、大学、現役学生に対する後援組織です。私が、細々ながら支部活動を継続している理由は、やはり人間形成に最も大きな影響のあった和歌山大学の4年間に対する感謝の気持ちです。今後も、和歌山大学が多くの方の夢を叶え、母校愛が持てる大学で有り続けることを心から願っております。

和歌山大学経済学部創立百周年、誠におめでとうございます。



私の夢

香川支部 大63 中野 彰文

今回、「私の夢」というテーマで寄稿の依頼をいただいてから今日まで、自身の夢と真剣に向き合いました。その結果辿り着いたこれから先もずっと大切にしたい私の夢について、お話しさせていただきます。

私の夢、それは「この先もずっと、自分の気持ちを大切に、自分の言葉で物事を発信できる人であり続けること」です。そう強く思う理由は、大きく2つあります。

1つ目は、自分の思いや言葉を大切にしながら仕事と向き合う人々の存在です。私の会社人生はまだまだ短いものですが、その中でも、周りの評価や上司の目を気にするばかりに、腹落ちしきれていない上司の意見にただただ右に倣えで発言をしたり、自部門の都合を優先して物事を進めたりすることが多々ありました。そのたびに、「本当にそれで良かったのか？」と考え直すきっかけを与えてくれたのは、社内外を問わず、自分の思いと言葉で周りの人と接しながら仕事を進める人々でした。その人たちはみな、「上の人が何を望んでいるか？」「組織として何をすべきか？」といったことに加えて、「自分はどうかあるべき



と思うか？」といった主体性を常に持ち、自問自答の答えが自身の上司や組織にとってのベストアンサーではなくとも、自信を持って仕事を進める、そんな姿を何度も見せてくれました。こ



これは決して上司や組織に抗うという意ではなく、「仕事をしているのは自分だ」という忘れがちなマインドを持ち続けている証だと思っています。私も常にそうあり続けたい、これが1つ目の理由です。

2つ目は、子どもたちの存在です。私には3歳の娘と1歳の息子がいますが、いつも子どもたちには、「いつまでも自分の感性を大切にできる人であり続けてほしい」と願っています。これから先、関わる人が増え、そのたびにたくさんの影響を受けながら成長していくと思いますが、「どんなときでも自分が感じる気持ちを大切に、時には頑張って言葉にできる、そんな人であってほしい」と子どもたちに胸を張って伝え続けられるよう、まずは私自身がそうあり続けたい、これが2つ目の理由です。

これから更に会社人生を積み重ねていく中で、本音が言いづらくなり、歩調を合わせることに慣れ、今以上に自分を見失いがちになるかもしれません。だからこそ、追い続ける価値のある夢だと誇りを持って、これからも日々邁進していこうと思います。



The
CHOYA
JAPANESE UME FRUIT
LIQUEUR

梅の有機酸をまもる、
静かなる熟成

チョーヤ梅酒株式会社 代表取締役社長 金銅 重弘(大27)

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。お酒は楽しく適量を。

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。 チョーヤ梅酒株式会社 www.choya.co.jp

Pasco

だいじなひとの、
まいにちに。

敷島製パン株式会社
代表取締役副社長
田中 正樹 (大21)



小田 章先生のご遺稿について

会長 北村 修一

昨年12月発行の「本部ニュース」第36号にも速報として記載させていただきましたが、小田 章先生のご遺稿を「柑芦」誌の最新号に掲載させていただくにあたり、簡単にそのご遺稿が見つかった経緯についてご紹介させていただきます。

昨年10月に発行された機関誌「柑芦」第53号は「和歌山大学経済学部創立100周年記念号」でした。そしてその特集の主要部分は歴代の学部長9名の先生方からの特別寄稿でしたが、お気づきの方もおられたように、その中には平成7(1995)年から平成9(1997)年まで第25代学部長を務められ、平成14(2002)年から平成21(2009)年のご退官まで第14代学部長を務められた小田 章先生の寄稿がありませんでした。

当然のことではあります。小田先生へは真っ先に私からご寄稿をお願いしており、その後も何度か電話とメールにより原稿の状況をお尋ねしていたのですが、原稿締切りの直前の7月19日に先生が急逝されたとの報に接しました。そこで編集委員会ではご寄稿については諦めざるを得ず、急きょ中田陽之様と由井幸枝様に小田先生の追悼文を作成いただき、それを掲載するという対応をいたしました。

第53号が発行されてしばらくした10月21日の朝、先生のご息女である小田由布子様から私にお電話があり、「実は、父親から頼まれて7月18日の朝に柑芦会宛の原稿をメールでお送りしたのですが、手違いのためにどうやら届いていなかったことに気づいたので、どうすればよいのかご相談したくてお電話し

ました」とのことでした。そのことを知った私の驚きと感動は皆さまにもおわかりいただけることと存じます。

小田先生は神戸大学大学院修了の翌年の昭和46(1971)年から平成21(2009)年まで38年間の長きにわたり和歌山大学一筋にご勤務されました。この間、国公立大学の法人化移行など数々の難題に対処しつつ、国公立大学で唯一の観光学部の設置、和歌山大学基金の創設などをはじめとする多くの偉業を成し遂げていただきました。

私は即座に、小田由布子様「小田先生がお亡くなりになるまさに前日まで和歌山大学と経済学部のことをお考えいただいていたことに感動しました。様々な事情から第53号に間に合わなかったことはたいへん残念ですが、このご遺稿は是非とも柑芦会の皆さんへご披露させていただきたいので、今からでもお送りいただきたい」とお願いいたしました。

そのご遺稿はA4で9枚に及ぶかなりの長文ですが、在職中の思い出やご苦勞の歴史が実に詳細に記載されています。ただ急いでお書きいただいたせいか、昨年を柑芦会の設立90周年と勘違いされていた部分もありましたので、一部は訂正させていただいたうえで、この度改めて本号にその全文を掲載させていただきます。次第です。

和歌山大学と経済学部のために人生の大半を捧げてくださった小田章先生に謹んで感謝申しあげ、改めて小田 章先生のご冥福を心からお祈り申しあげます。

合 掌

《「柑芦会」の卒寿を記念して》

和歌山大学名誉教授・元学長 小田 章

和歌山大学経済学部は今年100年目を迎え、併せて後援会(同窓会)である「柑芦会」も卒寿を迎える。誠にお目出度いことであり、心からお祝い申し上げる。卒寿をお祝いの記念号の刊行に当たり、北村会長から思い出話の寄稿を依頼された。そこで、記憶を奮い起こしながら約40年近い和大大生活での想いと柑芦会との関わりを記してみたい。

昭和46年4月1日、助手の辞令を拝受するため趣のある木造の旧校舎に赴いた。長い和大大との関わりの始まりであった。前年までわが国社会を震撼させたあの大学紛争も終息し、前年までの大荒れとは異なり、穏やかな大学の雰囲気があるところにあった。

助手、講師そして助教授前半までは研究者にとって素晴らしい環境だったと今も思っている。若手は研究と教育に専念すべきという当時の教授の英断と見識によるものであった。とは言え30代半ばになると教務委員長や栄谷移転時には学部棟検討委員会委員長等を仰せつかり、徐々に管理の仕事にも関わるようになってきた。唯、この時期には未だ柑芦会との関わりは余りなかった。

平成7年、予想外で小生が経済学部長に選任された。この時から学長を退官するまでの十数年の間、柑芦会との関わりが深くなった。

学部長に就任すると、少なくとも大阪、東京そして東海支部の柑芦会支部総会に招かれ、学部の現状報告を兼ねた挨拶をするのが恒例になっていた。この間にOBの皆さんと知己も得た。学部長就任直ぐに、大阪支部の大澤支部長始め役員の方が来られ次のように言われた。「年々、支部総会の出席者が少なくなってきた。今年の総会には500人を集めたい。引いては先生方の出席とゼミ生への声掛けをお願いできないか。」と。平素からお世話になっていると聞いていたのでこの時とばかり協力を約束した。教授会が開催される毎に先生方の出席とゼミOBへの声掛けを行うように伝えた。その甲斐もあってか、その年の大阪の支部総会は500名を超す大盛会であった。先生方は退官された方も含めて数十名の出席があったと記憶している。OBの皆さんは同級生やクラブの先輩・後輩との再会、母校への強い郷愁そしてゼミの先生と会えることに無情の慶びと懐かしさを感じられたことと思う。その折、若手OBと若手教員との勉強会創設を提案した。若手・中堅の教員と若手OBの皆さんとの勉強会を兼ねた交流会の創設をお願いした。この交流会が今は人生塾という形で続いているとのこと。唯、リカレント教育が喧伝されている昨今、本来の趣旨に戻る

ことを考えられてはと思っている。

学部長職を2年で終え、図書館長や評議員を経て平成13年に副学長に指名された。1年半の短期間であったが、企画経営担当として、大学の改革に取り組んだ。大学の予算配分を再検討し、「大学発の教育研究費枠」や「学長裁量ポスト枠」を設定した。この時期に和太には大きな転機と成るやも知れない知れない事件があった。大阪教育大学との合併事件である。合併は頓挫したが成就していたならば和太は大きな転機を迎えたと思う。

平成14年8月1日、第14代学長に選任された。学長就任も驚きであるが、正直まさかこれ程長く和太に在職するとも思っていなかった。学長就任を期に思い切った和太改革に取り組むことを決意し、外圧内圧を含め様々な改革を志向した。紙面の関係でそのすべてを披露できないが重要と考える改革を記してみたい。

先ず、和太が目指す戦略として、以下のようなキャッチフレーズを掲げた。「個性輝く学問の府――1.5流から一流の大学へ――」。教職員に危機意識を醸成し意識改革を図ろうとした。この目標実現には如何なる戦術をとるべきかを考えた。結果、大学に取って学生が満足する大学にならなければならないとの結論に至り、「学生満足」こそ大学が真剣に取り組まなければならないと考えた。大学にとって学生は重要なステイクホルダーであるにも拘わらず、余りにわが国の大学は学生の存在を軽視しているのではと感じていた。学生すべてが、和太での4年間の学生生活を満足して終えて貰うことを考えた。当時経済界では企業行動の指針と成っていた「顧客満足」を振ったものである。教職員も徐々にではあ

るが、「学生満足」を意識しての行動として大学全体に拡散していった。また、OBの皆さんも外部からスマホ等で大学・学部・学生生活・クラブ活動等々様々な情報を流して頂いている。現役の学生諸君は大いに満足感を覚えていることと思う。これも、学生満足に繋がるもので私としては大変感謝している次第である。

もう少し、学長時代に行った諸改革について記しておきたい。

I. 教育分野について：《「学生満足」の実現の為の施策》。*学生のニーズを考慮したカリキュラム編成。*教員の講義力アップを図る教員相互の授業参観実施。*無休講・講義時間厳守。*グッドレクチャー賞の創設。*オフィスアワーの厳格な実施。

II. 「人材育成」策について：《高い知力・深い洞察力・鋭い先見力そして豊かな人間力》に加えて各部局の特質を兼備した人材を育成》。*一例として、経済学部発エリート養成コースの「エキスパートコース」の推進。

III. 研究分野について：《ナンバーワンよりオンリーワン研究推進》

*研究のための大学予算として年間8000万円確保。*オンリーワン研究の例・・・学部横断的研究テーマとして「紀伊半島の多角的研究」を立ち上げ、期間は3年、研究費年間2000万円でスタート。*若手研究者への支援。*大学の資金充実のため外部資金の確保策として「寄附金(企業・同窓会・その他)や科学研究費等の獲得。*「教員メッセ」の実施。*「和歌山大学基金の創設(後述)」。

IV. 地域貢献・社会貢献について：

*「象牙の塔」としての大学像からの脱皮。*地域貢献や社会貢献の積極的関わり。*先

ず、学部長時代に和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所及経済学部との間で《和歌山地域経済研究機構》を創設。*学長時代には田辺市、岸和田市、橋本市との間に地域サテライトを創設し、現在継続中。当時の先生方の積極的な活躍もあり、平成19年には近畿地区にある94大学のなかで地域・社会貢献No.1の評価。

V.国際交流について:《国際化の中で国際交流の活性化》*海外40近くの大学との間で国際交流協定の締結。*留学生受け入れ等国際交流を円滑に推進するために「国際教育センター」の設置。

VI.大学マネジメント改革について:《学長としての最重要課題》

*在任中に国立大学の法人化への移行。*法人化のメリットとして、①予算システムが単年度決算から企業会計原則の導入による残余金の次年次以降への繰り越しの承認。②職員採用の自由化。③組織改編の一部自由化等。④学長権限の強化。*法人化のデメリットとして①資金運用や採用に関して厳しい条件付き承認。例えば、大学が独自に集めた寄附金等の財源での資産運用であっても限定的。②法人化への移行による計画立案とその達成評価に要する仕事量と時間の増大。私自身は、評価を否定するものではないが、法人化が教職員の過重労働になっているとすれば、結果として法人化の趣旨を逸脱することとなる。質の高い教育・研究成果を挙げうる環境整備が必要であり、法人化がこの動きに逆行することになってはならない。法人化は大学に自由闊達な研究・教育環境を保証し、良き人材を育みかつ素晴らしい研究成果を挙げるためのシステム変革であるべきという趣旨とは異なる

方向に向かっているようで残念に思っている。

*10%ルールの実施:10%の成功確率があれば失敗覚悟でチャレンジすること。*学長により記者会見:この案件を職員に持ちかけると多くの職員が反対の声。理由は、メディアが集まりませんというもの。確かに今もそうであるが、学長記者会見を定期的を実施する大学は皆無。不祥事の際にトップが出席して行うお詫び会見位。私が、大学にとってタブー的なことをやろうと思ったのは10%ルールの実践例であり、経済的効果を狙ったのこと。どの大学もやっていないなら和歌山がやろうと。大学情報の開示である。職員のメディアが集まらないという杞憂は、第1回目の会見で見事に吹っ飛んだ。何と、16社のメディアの参加があった。大成功であった。年10回程度開き様々な情報を提供した。その結果、私の学長時代に毎年500～600位の記事が様々なメディアで紹介された。ある職員がその経済効果(広告費等)を算出したところ、年間6000万円程度になるとのこと。私の退任後は取りやめになったとか。勿体ない話である。定例記者会見との関連で二つのエピソードを!一つは、学長就任間もなく教育学部のある教員から校地内全面禁煙の提案を受けた。女子学生が受動喫煙で気分を悪くする例が出ているとのこと。これは学生満足の理念に反するとの思いで学内の部局長会議に図り、全員了のもと教授会での報告事項にすることとなった。ところが教授会で決を採ることを求められ採決したところ経済以外の学部が反対。後日、定例記者会見でお詫び会見をし禁煙騒動が幕を閉じた。20年の時を経て今和歌山は校地内全面禁煙になっている。20年前に実

現するのと今実現するのでは社会へのアピール度は全く異なる。残念の極みであり、逸失利益は大きかったのではと思っている。今一つは「観光学部」の設置である。これも10&ルールの一例である。この詳細は経済学部の100周年記念号に記しているので参考にさせていただきたい。*コスト削減・ムダ廃止の徹底:事業体経営の基本は如何にしてコスト(特に固定費)を削減するかである。和大でも管理費の削減のために教職員のコスト意識を高めムダ削減を徹底的に実施。結果、かなりのコスト削減に繋がった。*職員の研修・評価制度:職員のキャリアアップのために地元スーパーオークワ に依頼し、3ヶ月研修を実施。10名程度の職員が参加したが、参加者全員が有効であったとのこと。これも継続していれば和大的職員の株も更に評価されたことと思う。*職員採用方式の変更…これについては職員の抵抗がきつかったが、改革しないと組織の活性化はできないと考え実施に踏み切った。私は、採用に際し3通りの方式を考えた。

- (1)従来の採用方式…面接(採用予定50%)
 - (2)非正規職員…論文と面接(採用予定20～30%)
 - (3)一般人…論文と面接(採用予定20～30%)
- 初回の結果は、通常採用者70%、非正規職員からの採用者15%、一般採用者から15%。多様な人材の採用が組織の活性化を促すこととなる。

*情報の共有化:

・教職員間の情報の共有化を図り、風通しの良い組織作りを目指し、月一回の「PL(プレジデントレター)」の発信。・学長オフィスアワーを設け、若手教員を中心に教員との交

流。

*和歌山大学基金の創設:

・法人化移行後の大学の財務状況の逼迫化の回避のために平成18年頃に大学基金の創設を企画。文科省の承認を得られず創設に時間を要したが、平成20年に条件付きで承認。先ず、教職員が汗をかくべきとの判断で内部寄附金として1000万円を設定。学長以下の全教職員に寄附をお願いした。外部の方をお願いするのに内部の人間が知らぬ存ぜずでは寄附は集まらないであろうとの認識であった。目標の1000万円は直ぐに集まった。それを基礎に、私が率先してOBを中心に様々な企業に浄財行脚をした。この時も、柑芦会の先輩諸兄には大変お世話になった。感謝する次第である。お陰様で、私が学長を退任するまでの1年半ほどで6000万円を超える基金が積み上がっていた。その多くは柑芦会の皆さんからの寄附であった。OBの皆さんの大学を想う強い心根に意を強くし、柑芦会の存在感の大きさに感服した次第である。現執行部には更に基金を充実させ、大学発展に有効に活用して貰いたいと思っている。私自身は、基金の一部を運用し、基金の増額を目指したが、文科省のストップで諦めざるを得なかった。

*コーポレート・アイデンティティ(CI)の確立:

2000年代始め、組織の一体性または統一性を確立する活動が盛んであった。残念乍ら、当時の和大にはCIと思われるものは無かった。そこで、和大的カラー、マーク、第2学歌、グッズの生産。販売等々を創出するCI活動に取り組むこととした。観光学部の北村教授に素案策定をお願いした。カラーについてはブルーとオレンジが提案された。北村君はブ

ルーを推奨したが、小生の推奨でオレンジに決めた。マークは山と海をアレンジした今のデザインを採択した。このふたつのCIは今や完全に定着し、大学始め柑芦会などでも使われている。また様々なグッズの製造販売も生協で行われており、売り上げの一部が生協からキックバックされるようにした。更に、和大的CIは第二学歌にも及んだ。第一学歌は私のような旧い人間には素晴らしい響きを与えてくれるが、今の学生にはフィットしないのではないかとこのあろうとの思いで教育学部の卒業生でシンガーソングライターの”宝子”さんに依頼して作成して貰った。学生には好評とのことであり、入学式や卒業式には二つ学歌を披露することとした。まずは見えるものの統一性を図り、次いで大学の目指す方向性の統一化を図った。それが、大学のグランドデザインの策定であり、具体には《学生満足》であった。全教職員がその実現に向け頑張ってくれたお陰で確かな手応えを得ることができた。

さて、依頼を受けた文字数がかなりオーバーしているが、最後に述べておきたいのは、新学部の設置である。3つの学部だけでは未だ未だ総合大学の域には達しないとの想いで、私の在任中に何とか今一つ学部を増設し総合大学化の道筋を付けたいと思った。そうして実現したのが『観光学部』である。経済学部刊行の100周年記念号に新学部設置の詳細を記しているのご参照頂きたい。

最後に、40年弱の私の和大的生活での過程を綴ってきたが、まだまだ書き残したことが多々ある。それ以上に、様々な方に御礼を申し上げたい。特に、管理職に就いてからは、柑芦会の皆さんには筆舌に尽くせないほどのご

支援ご厚情を賜ってきた。歴代の会長、各支部の支部長、特に大阪、東京、東海、神戸等々の皆様にはお世話になった。また、システム工学部や観光学部設置に関しても全学的な課題であるにも拘わらず経済学部に対すると同様の温かい支援をしていただいたことに今一度心から感謝する次第である。特に、観光学部の設置に際しては単に人的支援に縮まらず金銭的な支援も賜った。そうした心強い支援で難攻不落の文科省を動かし、4年というスピードで学部が設置され、今や博士課程を有するまでの学部まで成長した。唯、残念なのは老舗の経済学部がこの域に達しておらず一刻も早く博士課程を有する一人前の学部として名実共に発展して欲しいと願っている。歴代学部長も努力を重ねているにも拘わらず大目標に達していない。今後とも変わらぬ支援を賜り名実ともに一流の学部として存立することを期待したい。

最後に、お願いです。今年も7/9に大阪支部総会が開催されたと聞き及んでいる。コロナ禍での総会と言うことで人数制限の下で開催されたとのこと。コロナが収束後の総会には現役・OBの先生方にも開催案内を送付して頂ければ先生方も出席されるのではないかと思う。ゼミの先生が来られるのならば会いたいと思われるOBもおられるのではと思う。私自身は、柑芦会は卒業生だけではなく先生方も併せた共同体組織と思っているので是非そうした事も今後検討して頂ければと思う次第である。最後に柑芦会の今後の益々の隆盛を心から祈念して筆を置きたい。

高商20期 山中 静 先輩を偲ぶ

柑芦会事務局 大22 種坂 隆志

山中先輩は柑芦会和歌山支部長、柑芦会会長、柑芦会顧問と重責を果たされ、顧問のまま昨年12月病気のため急逝されました。先輩の穏やかなお人柄に接した方も多かろうと推察いたします。私は現在和弓道部のOB会長を拝命しておりますが、山中先輩は第4代OB会長を務められ、最近ではOB総会や創部90周年の祝賀射会にもご参加いただきました。一緒に創部

100周年を4年後に迎えられると期待しておりましたのに残念でなりません。平成16年3月発行の弓道部OB会報誌に山中先輩執筆の「私の来た道」の遺稿があります。全体で6000字ほどの履歴書のうち、柑芦会に関わる2000字ほどを抜粋して山中先輩の足跡を皆さまにご紹介したいと思います。



2017年11月弓道部創立90周年記念射会集合写真(最前列左から2人目)

(再掲)平成16年3月発行の弓道部OB会誌より

「私の来た道」

高20 山中 静

柑芦会に関しては昭和50年代は和歌山支部の会合に出席するのがせいぜいでした。昭和59年頃、和歌山から本部監事になって居られた高商12回の公認会計士湯川定助先生が健康上の理由で辞意を洩らされ、後任に私が指名され仕事から引き受けました。当時事務局は和歌浦の柑芦松下会館にあり、高商12回の山中誠一先輩が神戸から通っておられ、大変苦勞をお掛けしました。当時和歌山支部長は和歌山高商1回生の中井英俊先輩で私より20年年長でしたが、まだまだお元気で和歌山のあろちの料亭で芸者を呼んでよく遊びました。昭和61年の支部役員改選で、中井様は81歳の高齢のゆえ辞任の意向を示され、後任に支部会員が最大数の職場の紀陽銀行に高商2回の山東永夫先輩(当時、頭取・会長を経て相談役)がおられましたが高齢ですし、大学1回の西達司様(当時、専務取締役)は業務多忙として引き受けていただけず、適任者が無く私にどうかとなりました。私は支部役員の経験が無いのですが、中井様とは和歌山放送設立以来専務として勤められている頃から、ご懇意にさせて頂いており、止むなくピンチヒッターとして(紀陽銀行からは次の支部長を引き受けて頂くことを期待して)支部長を引き受けました。

幹事長には中井前支部長より(工専大会の活躍より)ご推薦が有り工専1回の南村様にお願いました。副支部長には紀陽銀行の西達司様

(大学1回)、和歌山県前経済部長和歌山商工会議所専務理事の中井三千穂様(大学1回)、和歌山市企画部長の辻本利夫様(短大1回)と卒業生の多い職場からお願いし、第一回の支部総会に定年退官の安藤精一先生と杉浦一平先生をお招きしてご講演を頂きました。支部総会初めての百名を越える盛大な会となりました。総会に於いて支部会費の徴収と共に、支部会報の発刊、紀南地区懇親会の開催等の支部活性化の諸計画が認められました。編集委員長は元朝日新聞幹部でテレビ和歌山専務の浜本幸男様(経専三回)にお願いし、第1号を発刊し以後毎年発刊を続けております。又紀南地区懇親会は四十五名の参加を得て白浜で開き、翌年からは紀南・紀中・紀北と回り持ちで毎年開いております。その後、役員改選の度に紀陽銀行の西様はじめ役員の方々に支部長交代をお願いしましたが、あいにくバブル崩壊で冬の時代に入ってとても引き受けられないとの事で、止むなく支部長を続けて参りました。11年5月の柑芦会の理事会で丸谷竜夫会長が四期8年となるので退任の意思表示が有りました。その前に丸谷様から内々のご相談があり、私は、やはり大阪支部の方で大学卒業生が適任でしょうと申し上げましたが、丸谷会長は大阪の適任者に当たったが、現在公務があり、暫く出来ないと言われたとの事で、理事の皆様のご意見の結論は古い副会長の私にどうかと

なりました。私は前に述べました様に支部長の引き受け手が無いので無理だと申しましたが、和歌山で相談してくれという事で、下駄を預けられました。帰りまして南村幹事長に相談したところ、南村氏が支部長をやると言ってくれましたので、その後、同期始め友人等と相談し、又止むなくピンチヒッターとして引き受けることになり、12年5月の理事会の皆様のご承認をいただき柑芦会の第10代会長に就任しました。その際、副会長3名を7名とし、京滋と神戸支部長にもお願いしました。会長の責務として支部総会への出席が第一となりますので、就任後第一年には、大阪・和歌山・東京・東海・神戸・京滋・三重・姫路・岡山・広島・山陰・徳島・香川・九州各支部、第2年の昨年は更に北海道・東北・高知支部にも訪問して、国内23支部の内17支部の皆様にお会いし、柑芦会の現状、母校の状況等を報告すると共に懇親を深めました。訪問に先立ち、同期の方々、弓道部OBの方々に支部総会でお会いしようとの葉書を出しました。お蔭で久しぶりにお会いし、楽しい会合になりました。一昨年卒業生が多いマレーシアに本部主催の旅行を実施し、40名の会員と夫人が大挙してクアラ Lumpur に参り、翌日リーゼントホテルで現地OB13名との盛大な夕食会が開かれました。和太卒業後自国の社

会で重要な立場で活躍されている事に敬意を表し、今後とも日本とマレーシア交流の架け橋となることを希望する旨の挨拶をし、柑芦会支部の設立と役員人事も決まり、私より柑芦会の会旗を新役員にお渡ししました。同行の柑芦会副会長明石忠雄氏(大学4回)の乾杯の音頭でパーティーが始まり、現地会員の自己紹介に続いて訪問団の夫人を含めての自己紹介があり、最後に寮歌「花の霞につつまれし」を全員で合唱して楽しい会が終わりました。13年のまだ副会長の時ですが、丸谷会長と共に多数の会員が沖縄を訪問し、沖縄支部設立を祝いました。14年支部長の外間氏が和歌山市に視察に来られ、私と南村和歌山支部長が昼食を共にして、沖縄の現状等を伺いました。外間氏は普天間基地のある宜野湾(ぎのわん)市の部長です。支部も全国に跨りますので、日帰り出来ない支部もあり、よく二次会に誘われカラオケに参加するのも楽しい経験です。特に同級生の支部長が3人(岡山・徳島・高知)居りますので心丈夫です。14年秋の大阪支部の総会の前に正副会長会を開き、次期会長候補を皆様のご賛同を得てご指名ご承認を得ました。昨年5月の理事会で就任が確定し、やっと大任を無事果たすことができました。

後継者対策のパートナー



リオ税理士法人

代表 小柴学司 (大39期)

(公認会計士 税理士)

〒651-0086

神戸市中央区磯上通6-1-1 磯上公園ビル4階

TEL 078-221-9114

FAX 078-222-8666



竹中愼和君を偲んで 世話好きで誰からも愛された好漢

令和5年7月6日
大7 松原 徳一

令和5年4月、彼は突然、我々の前から消えてしまった。半年前までは、月に一度の例会（通称ダベリ会）には元気に参加し、楽しい話題を話し合っていましたので奥様から突然の知らせを聞き驚きました。

彼と私が知り合ったのは大学に入学して直ぐでした。入学当時から人懐っこく話しかけてくれました。今でも鮮明に覚えています。第2外国語を何にしようかと迷っていると言いますと、彼は自分はフランス語に決めていると自信満々、そして硬式テニス部に入るとも聞かされ、その決断の速さに驚かされました。卒業してお互い新入社員のころ彼は広告代理店に入社、私は会社の宣伝課で新聞広告を担当していた関係で親しくなりましたが、持ち前の明るい人柄で我が社の社員とも親しく交流しあうありさまでした。以来、公私共に70年近く親しくお付き合いさせてもらいました。

彼のことを語るとき特筆すべきことは、その交友関係の広さです。柑芦会6期生全員の情報や動静はすべて彼の頭に入っていました。若い頃から柑芦会に参加して6期生に限らず先輩後輩の動静を良く知っておりました。私が大阪支部の時にはいろいろとお世話になり、現在の事務所の移転の時にも適切なアドバイスを頂きました。

大学関係者以外にもその交友関係は広く、かなりの趣味人で全てが一流とは云えませんが好奇心が強く、硬式テニス、ゴルフ、寺社めぐり、国内旅行から海外旅行、ついには謡曲まで楽しんでおりました。中でも特に「大阪歩け歩け連合」の世話役を長く勤め、近隣の町や村を歩く健全な集まりで、6期生はもちろん多くの友人知人を勧誘し有効を高めていきました。この会は友が友を呼び彼の人的ネットワークは大きく飛躍していったのです。

6期生の会は絆が強いとよく言われていますが、これはすべて彼の人の人柄、世話好き交友関係が作り上げたものです。和歌山大学と柑芦会をこよなく愛し続けた竹中愼和君が居なくなり、ぽっかりと穴が空いたという心境は私一人ではないでしょう。本当にお世話になり有難うございました。



東海支部

東海支部幹事長 大31 鈴木 光伸

東海支部総会 2022年11月19日

令和4年度の支部総会を東京第一ホテル錦で開催しました。

当日は、来賓として大学から芦田昌也経済学部長、(現)社会インフォマティクス学環竹内哲治教授、柑芦会から北村修一会長、糸川公偉大阪支部長、平林義康神戸支部長、井上俊一三重支部長、草場寛東京支部幹事長にお越しいただき、総勢24名の参加となりました。

本年4月に社会インフォマティクス学環の学環長に就任された竹内教授から社会の多様な知識を備え、社会に存在する様々な課題や事象を情報技術で分析・把握し、社会を変革する人材を育成するために新設された社会インフォマティクス学環についてのご講演をいただきました。

懇親会では、若い方や久しぶりに参加された方からご挨拶していただき、特筆すべきは、67回生の太田健斗さんが浜松から参加されたことでした。

引き続き、若い方が参加しやすい東海支部

の運営を目指してまいります。

東海支部規約を改定し、決算期を3月末に変更しました。

本総会において、東海支部の会計年度が従来の「10月1日から翌年9月30日まで」から「4月1日から翌年3月31日まで」に変更されました。この会計年度変更に伴う移行措置として令和4年10月1日から令和5年3月31日までの半年間を令和4年度延長決算としました。

「東照宮祭礼としての和歌祭」

「春のセミナー」を開催

3月14日(火) 18時から東海支部・三重支部合同の春のセミナーを名駅前「安保ホール」にて開催しました。

当日は和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹紀州経済史文化研究所 吉村旭輝(てるき)准教授をお招きし、「東照宮祭礼としての和歌祭」について、その起源と変遷についてご講演いただきました。

紀州東照宮は、徳川家康公の十男で紀州藩祖徳川頼宣が南海道の総鎮護として1621年に和歌浦に建てられ、翌1622年には、全国に先駆けて東照宮祭礼を始め、2022年には「和歌祭四百年大祭」が開催されたことなど、貴重なお話をお伺いできました。



引き続き場所をいけす茶屋「みどり」に移動して行われた懇親会では、柑芦会北村会長および吉村准教授に加え、お祭り写真家デン真さんにも参加していただき、テーブルを囲みました。

「春のゴルフ会」鳴海カントリークラブ

3月25日(土)に鳴海カントリークラブで春のゴルフ会が開催されました。当日は8分咲の桜の花を楽しみながら11名の方が参加されました。

東海支部では、春と秋の年2回、ゴルフ会を



開催していますので、奮ってご参加ください。

令和4年度延長決算に関する役員会 2023年5月17日(水)

5月17日開催の役員会で、令和4年10月1日から令和5年3月31日までの半年間の令和4年度延長決算に関する事業報告、会計報告、会計監査報告があり、令和5年度の行事予定が承認されました。

昨年度の総会で改正された東海支部規約に従い、11月18日(土)開催の支部総会で報告させていただきます。

連絡手段としてSNSを利用しています

会員連絡の手段にfacebookグループに加え、LINEグループを開始しています。東海支部会員の方は、是非、ご登録ください。



東海支部LINEグループ

定期懇親会: 奇数月の第3水曜日18時30分から名駅「いけす茶屋みどり」で開催されます。

懇親会には、経済学部卒業生に留まらず教育学部、システム工学部、観光学部など和歌山大学卒業生はもとより、会員にご縁のある方であればどなたでも参加していただけます。

是非、お誘いあわせの上、定期懇親会にご参加ください。

<お悔み>

大学4回 道浦 耐氏

三重支部

三重支部幹事長 大31 山際 雅彦

三重支部2022年度総会は、2022年11月27日(日)、津駅隣接の「グリーンパーク津」にて開催されました。今回はご来賓として北村柑芦会会長、垣見東海支部支部長にもご出席頂き総勢8名での総会となりました。

今年度の総会も新型コロナウイルスの影響から、講演会や懇親会は行わず総会のみで開催としましたが、会員の近況報告等も行い楽しい一時を過ごしました。来年度は新型コロナウイルスの騒動も治まり、通常の総会が開催できるよう期待したいと思います。

(三重支部主要役員 敬称略)

支部長	井上俊一(大学18回)
副支部長	小谷 剛(大学20回)
副支部長	太田 均(大学22回)
副支部長	水谷正道(大学26回)
相談役	春山健児(大学6回)
相談役	藤澤真純(大学12回)
幹事長	山際雅彦(大学31回)
副幹事長	加藤泰三(大学27回)



神戸支部

神戸支部長 大20 平林 義康

「ぶらくり会」復活

1982年から約40年近く途切れなく開催され、開催回数も200回を超えていた神戸支部「ぶらくり会」がコロナ禍の影響により2019年11月の小田元学長のご講演を最後に中断していましたが、この度約3年半ぶりに復活開催することが出来ました。

その記念すべき復活「ぶらくり会」は、去る6月10日(土) 15時より、神戸市内の会場に和歌山大学副学長の足立基浩先生をお迎えして開催されました。当日のご講演のテーマは「日銀植田総裁就任後の日本経済を読む」というまさに時宜を得たものであります。

会場には14名の会員が参加されましたが、オンライン(ZOOM)でご講演を配信する旨の案内を出したところ、全国の9支部から24名

の会員の視聴申込みがあり、最終的に38名の会員がご講演を視聴することになりました。

約1時間15分のご講演後の質疑応答の時間には、会場のみならずオンラインでご参加の会員からも何件かのご質問・ご意見が出され、非常に実のあるご講演となりました。

終了後には、足立先生にもご参加頂き近隣の居酒屋で懇親会を催し楽しいひと時を過ごしたところです。

今回のご講演では、足立先生には大変お世話になりましたが、柑芦会本部、支部活性化支援委員会および支部内の若手会員にも大いにご協力を頂き感謝しております。

コロナ禍の間中には、従来の対面式に加えてオンラインでの会議、打合せが浸透してきましたが、対面式およびオンライン併用のハイブリッド方式での講演は今回が最初の試みではないかと思えます。

神戸支部では引き続き対面式、オンラインのみならず両方式併用のハイブリッド方式を活用し、打合せ、講演、会議等を積極的に推進していきたいと考えています。



京 滋 支 部

京滋支部長 大31 清水 聖心

支部長交代

この度、支部長が和田壽郎氏から私、清水聖心(31期)に交代致しました。和田氏に於かれましては、幹事長ののち支部長と10数年の長きに亘りご尽力いただき本当にありがとうございました。近年の当支部の課題は、年々弱体化している支部をどのように立て直すかです。現在の主な活動は総会を開催するのみとなっており、その参加人数も徐々に減少し支部存続の危機に瀕しております。このような折、「11月開催予定の支部総会にどれだけ沢山の人に参加していただけるか。」を今年度最大の課題にしました。

その目玉としまして、通常非公開の国宝、西本願寺の『飛雲閣』『書院』をコネクションにより拝観させていただく手配を致しました。一方総会会場の確保においてもかなり苦心し

ました。当支部は資金的な余裕もなく、参加費を抑える必要からホテルの使用などできません。元々京都は景観条例の問題で高層ビルがなく多人数がリーズナブルに利用できるお店が多くありません。また、昨今世界中から観光客が訪れ、それらもかなり先の予約まで入っております。ただ、早目に動いたことにより好条件な会場も確保することができました。

あとは、人集めです。私の当会への参加の切っ掛けも、先輩からいただいた1本の電話から。手間はかかりますが、会員一人ずつ電話をかけ、参加を呼び掛けたいと思っています。

自分の学生時代を和歌山大学で過ごした人、そして世界的な文化観光都市である「京都」近郊に現在住んでいる人、この2つの共通点を持ち合わせた者同士が集まり良き交流の場ができればいいかなと思っています。

尚、今後いろいろなご案内をメールにて発信予定です。当支部の方、メールをお待ちしております。

kourokeiji@gmail.com



香川支部

香川支部長 大22 島田 新市

令和5年度香川支部総会開催

令和5年度香川支部総会を令和5年6月18日(日) 11時30分から高松市生涯学習センター



「まなびCAN」で開催しました。

ご来賓に今年も北村柑芦会会長、平林神戸支部長をお迎えし、マンドリンクラブの現役学生さんお二人、当支部会員は30代から80代まで、女性会員

も含め11名の参加で、合計15名の総会となりました。特に、当支部会員については60歳以下のいわゆる現役世代の会員の方が半数を超え、今後についての明るい材料となりました。

例年通り、議事はできるだけ簡潔に短時間で終了、ここから本日のメインに移ります。まずは、今年で3年目、恒例となりました旭堂南海師匠をお招きし、和歌山にちなんだ講談「紀州藩祖頼宣公と安藤直次」をご口演いただき、その迫力に引き込まれ、時に爆笑の名人芸で総会に華を添えていただきました。



その後、マンドリンクラブの学生さんによる活動状況のプレゼン、プロジェクターを使い、演奏の動画観賞もあり大いに楽しませていただきました。



そしてランチを食べながらの懇談会、こじんまりした当支部だからできる参加会員全員の一言コーナーでは学生時代の思い出、その他思い思いの近況報告など、世代を超えて同じ学舎に学んだ者として心地良いひと時を共有できました。

最後に和歌山大学学歌を聴きながら記念の集合写真を撮影、あっという間に14時、来年の再会を約束し名残惜しくもお開きとなりました。

香川支部は小規模支部であり、本部、支部活性化支援委員会のご支援の下、総会運営をいたしておりますが、先の本部理事会で発表のあった各支部の活性化取組状況も参考にさせていただきながら、また、小規模支部の強みとして会員同士の密なコミュニケーションの場にできればと考えています。

引き続き皆様方にはよろしくお願い申し上げます。



和大経済学部12期同窓会

大12 菅原 勲

2023（令和5）年5月18～19日、大阪吹田にある「パナソニック・リゾート大阪」において、「和大経済学部12期同窓会」（通称「十二和会」）が開催された。

当初、2020（令和2）年10月に予定されていたが、新型コロナウイルスがこの年の2月から猛威を振るい、やむを得ず「延期」ということになった。

顧みれば、わが同窓会は、2004（平成16）年京都での「卒業40周年」以来、オリンピックの年を基本に2008（平成20）年長良川、2012（平成24）年熱海、2014（平成26）年和歌山での「卒業50周年記念」を含め、2017（平成29）年に浜松で第5回の開催があり、第6回は2020（令和2）年の予定であった。

昨年10月に改めて、幹事が集い、コロナの動向を見極めながら、ようやく今回の開催に漕ぎつけた次第である。

卒業生194名の内、既に物故者が54名を数え、不明者が18名おり、今回31名の参加予定であった。しかし直前に本人あるいは家族の体調不良により、6名の欠席があり、25名の出席で「同窓会」の開催となった。

冒頭「記念写真撮影」のあと、司会者澤瀉久明君の発声で全員が「物故者への黙祷」を捧げ、豊田洋君による「献杯」を行った。

その後、幹事長東睦夫君が「今回開催に至るまでの経緯を含めた挨拶」をしたのち、「懇親会」に移った。

60年の時を経て、大学時代の懐かしい思い出話しや近況の活動内容・生活の取り組み、また健康状態についてお互いに忌憚なく歓談しあった。

小生による「中締め」のあと、日帰りの他は「二次会」に参加し、進行係を重倉奨君に委ね、「今後の開催」について 事前に「意向確認」の結果、3分の2が「継続する」との意見だが、「健康」であればとの「但し書き」が多くあったとの報告があった。

年齢も82歳前後であり、やはり「参加したいが健康であれば」という「本音」が出ていたが、今後のことは東京のメンバーに「一任する」ことになった。

そこで「健康寿命」のことに取り組んでいる都崎徹君の「事例発表」があり、「PPK」（ピンピンコロリ）～「健康な日々を送れることの“幸せ”」～について話があり、

「健康のお裾分け」プリントを「手土産」として、全員が持ち帰った。

余興に「マジック」もあり、楽しい時間がいつの間にか過ぎて行った。

翌日、雨に降られたが、オプションで天満橋八軒家浜船着場から「屋形船」に乗船し、船中で飲食をしながら、大川をさかのぼり、いくつかの橋を潜り、俳人と謝蕪村のふるさと毛馬村にある「毛馬閘門」を訪ね、「菜の花や 月は東に 日は西に」を思い描いた次第である。

今回の開催を通じて、これ程「健康の大切さ」を感じたことはなかったと思う。

次回開催されたなら、「元気に両足で歩きながら参加できる」ことを念願するばかりである。

（2023年5月記す）



紀雲寮名草寮 入寮60周年記念合同旅行

大15 岸田 啓治

平成30年10月の卒業50周年記念の修善寺西伊豆旅行以来、コロナ感染防止のため、合同旅行は中断していましたが、5年振りに再開して令和5年5月源氏物語宇治十帖で有名な京都宇治に総勢19名が集いました。

23日、24日の2日間、素晴らしい好天に恵まれ、同じ釜の飯を食った仲間たちと本当に楽しい充実した旅行となりました。

23日は水量の豊富な清流宇治川沿いを歩き、新緑の映える世界遺産である平安時代後期の造営で神社建築としては現存最古とされる国宝宇治上神社、そして同じく世界遺産である平等院鳳凰堂を巡り、当時の貴族の西方極楽浄土の思想を目の当たりにしました。

この日の宿舎はかつて松下幸之助氏の別荘であった民宿亀石楼です。

待ちに待った宴会は6時からで、心も弾み全員夫々現状の生活ぶり、伴侶、孫を含む家族のこと、自身の健康状態、趣味、お小遣い、終活準備、今は亡き友人のこと等多岐に亘り、更に話

の途中で割り込みが入るやらで大いに盛り上がり、場所を変えて午後10時ようやく散会となりました。

翌24日は伏見稲荷大社に参拝しました。

ただ、伏見稲荷ではコロナ明けから1か月も経っていないこともあり、修学旅行生、外国人観光客等、予想もしていなかった大混雑で、我々は千本鳥居も途中で早々にあきらめることになりました。

昼食はホテルグランビア京都15階にある六本木樓外樓で美味しい中国料理を堪能しました。

事情があり旅行に参加できなかった2名も加わり総勢21名での賑やかな宴会となりました。

ホテルグランビア京都15階からの京都市内の眺望は圧巻でした。

終わりにあたり会計報告の後、次回は2024年秋に鳥羽の答志島温泉民宿中村屋で美味しい海鮮料理を楽しむことに決まりました。

全員健康第一で元気に再会することを誓って散会しました。

本当に仲間はいいもんだと実感した楽しい2日間でした。



柑芦結婚相談室の記

大16 松石 憲一

当室の設立は平成6年12月です。

そのころを俯瞰しますと、関西空港が開港して関西は華やいでおりました。しかし残念なことに年を越えると阪神大震災、オウム真理教によるサリン事件、バブル崩壊による金融機関の破綻と暗い出来事が多発しておりました。

柑芦会においてはいつもながら支部總會の人集めに苦心しておりました。参加した会員のなかに「俺のところに息子が……」、「いや、うちは娘が……」、「何とかならんかな……」等の言葉が飛び交わされるのが散見されました。この話をしたいがために總會に来た人もあったようです。相乗効果をもたらしたい、話が熱を帯びていることを見てとった先人は結論として社会と柑芦会に役立ちたいと当室を立ち上げました。何せゼロからのスタートです。先ず方針は「対面による紹介。手作りによる親切・丁寧な相談」とし、これは今も引き継がれています。バブルが弾け、就職難ではありましたが若い人の結婚願望は結構強いものがありました。徐々に体制も整い、資料(規約、案内書、添書、身上書等)もそろそろようになりました。活動を広げるために提携先を求めました。斐文会(旧大阪女子大→大阪府立大→大阪公立大学)、松下電工(現パナソニック)、黎明結びの会(岸和田高校)等です。前後して白河桃子さんが「婚活」という言葉を使われたのです。婚活ムードは盛り上がり、当室もピークは200名弱の会員を持ち成婚も年に2、3組ありました。最終的には約40組強に至っております。我々の活動の情報が広まり、お茶の水女子大の学生が卒論のテーマに「婚活」を取り上げるとしてヒアリングに来たり、山形大学からはOB会との相乗効果をどのように出せばよいのかとの問い合わせもありました。また柑芦会のみ活動だけでは限界があるので、その範囲を広げるため

に紀学同窓会(教育学部)、@sis(システム工学部)、飛耀会(観光学部)にも誘いをかけました。しかしバブルが弾けた後遺症はきつく、「収入が少なく飯を食わせられない、婚活どころではない」という状況が続き、徐々に会員が少なくなってきました。パソコンでのマッチングを勧めてくれたシステムアドバイザーもいましたが、会員数がすくないことと元々対面での婚活の支援をすることを方針としておりましたのでこれは断念しました。当初は大阪と和歌山に活動拠点を置いていましたが、若い男性が東京に吸い取られるといった現象が顕著になってきましたので同地区にも拠点を開設しました。斐文会、黎明結びの会と三者で婚活パーティーを開催しました。支部總會の席でのチラシ配りや、度重なる口頭での会員増強の願いをしましたが減少傾向は止まりません。そこにコロナ禍が追い打ちをかけてきました。元来対面による支援活動を方針としてしたので大変な打撃を受けたわけです。メールでの会員の増強、ホームページのリニューアル等の活性化策をとりましたが残念なことにここ3年はほとんど活動ができてません。当初から厳しい資金繰りの中、自主独立でやってきましたが、新入会員も少なくなったため、残っている会員に了解をいただき相談員全員でばんやむを得ず解散を決議し、ここに幕を閉じることにしました。約30年にわたる活動を閉じることは断腸の思いではありますがいたしかたないと判断しました。ご協力いただきました柑芦会の皆様、関係各位にお礼申し上げます。有難うございました。

歴代の相談員

島 誠助(3期)、亀田憲治(3期)、児玉義男(3期)、中谷洋一(4期)、野崎雅廣(4期)、山崎一郎(8期)、崎山頌一(14期)、河野通剛(16期)、松石憲一(16期)、舌野啓治(18期)、田中義男(18期)、吉野精一(18期)、藤野正憲(19期)、井岡 武(20期)、森本康則(20期)、吉村修治(20期)、飯尾守平(21期)、高田保子(21期)、藤原孝志(22期)、中澤典代(28期)

和歌山大学体育会弓道部の 歴史について

弓道部第8代OB会長 種坂 隆志

過去の弓道部機関誌「弓光」からひろってその成り立ちから詳しく説明をいたします。

弓道部は昭和2年(1927年)6月高商学舎の正門横に仮設の道場を設置でき、岡本一郎校長をお迎えして道場開きを行いました。これをもって部の創設とし、紀州藩弓術指南の和佐家末裔で高商3期和佐尚寛氏を主将として学校から予算を頂戴しスタートしました。

道場開きには岡本一郎校長のほか伊藤義路部長も来賓として参加されました。矢渡しには大日本武徳会和歌山支部から松井智信範士が来賓され射礼を山東 昇錬士(のち初代弓道師範)が行いました。

戦後GHQからの武道禁止が解けて大学3期の西平 功氏が弓道再興に尽力され昭和29年(1954年)安藤精一経済学部教授を部長として発足した。また昭和37年剣道や柔道とともに弓道が体育正課として採用された。

弓道部の活動成績としては、昭和33年関西学生リーグ1部優勝、昭和34年関西学生弓道選手権で団体優勝、昭和31年、32年、33年と近畿国立大学体育大会弓道の部で連続優勝しました。最近では平成28年近国体男子団体優勝、同年女子が関西学生リーグ1部昇格しました。



個人では男子で22期種坂隆志が昭和47年全日本学生弓道選手権3位、女子で16期藤村喜久子が昭和41年全日本学生2位、24期丈六繁美が昭和49年全日本学生優勝となりました。

弓道部OB会は昭和41年(1966年)初代会長に和佐尚寛氏が就任し発足、昭和52年(1977年)に2代目会長高商16期倭島健吉氏の時に弓道部創設50周年を迎え祝賀記念誌が上梓されました。4代目会長高商20期山中 静氏は昭和53年に就任され、OB総会や新年射会に度々ご出席になり、弓光誌にも毎回執筆いただきましたが昨年末永眠されました。5代目会長が大学3期西平 功氏、6代目会長が大学8期南出達也氏、7代目大学17期内海孝雄氏を経て現在8代目会長です。

平成29年11月弓道部創設90周年祝賀射会を挙行、OB22名と現役幹部部員が和気あいあいと懇親を深めました。4年後の創立100周年に向けて卒業年次ごとにミニ同窓会を開いて横につながりを固めて、記念行事に沢山のOBが集まることを期待しています。ここ1年間で19期と20期のOBが東京と大阪で会合を持たれましたのでご紹介します。



三紀火曜会 の ご紹介

七月の初旬、三紀火曜会の会計幹事の安本純様から、長年続けてきた三紀火曜会の解散に当たり、このままこの会の実績、軌道が消えて去るのは忍び難く、「三紀火曜会」があったという足跡だけでも「柑芦」誌に残らないだろうか、との相談を編集委員の方に打診があり、今回、柑芦誌に取り上げることといたしました。

※安本幹事の会員宛ての文書をそのまま掲載いたします。

三紀火曜会会員諸兄 宛て

令和5年6月 会計 安本純氏 発信
「三紀火曜会終結のお知らせ」

拝啓、梅雨の季節となり猛暑到来の予感のする今日この頃、三紀火曜会の諸兄、お元気でしょうか。ずっと気にしていました三紀火曜会の対面開催でしたが、高齢化が進み、足腰もままならない人も出始め（私も含めて）どの会場をとっても遠方の方がいることになり、公共交通機関の利用も危険なので、遂に開催を断念することになりました。約束をしながら果たせずに誠に申し訳なく思っております。

振り返れば昭和52年（1977年）*発足以来、

会を重ねること378回、講師を招いての勉強会、企業訪問、名所旧跡の見学会、忘年会等数えきれないほどの楽しい思い出が一杯ですし、旧友との絆の深さを認識した会合でした。皆様にも幹事を何回もしていただき、ご苦勞を重ねたプランでどれほど素晴らしい会合になったか感謝しています。

2019年（令和元年）12月8日、幹事は大凶宏さん、片山巖さんの二人で新阪急ホテルのグランド白楽天で開催の忘年会が第378回、これが最後の三紀火曜会となりました。忘年会の前に乗った観覧車も素敵でしたね。その時のメンバーで増井修幹事長、森井眞氏、和田善次氏の三人が物故されました。その後はコロナの所為で開催が出来なくなりました。

今回、紙上をもって三紀火曜会の千秋楽とさせていただきたいと思いますが、電話、手紙、メールなどいろいろ交信の手段があります。今後ともご厚誼のほどよろしく願います。戦友たちよ、ずっと長生きしてください。心の中で「花の霞に」を高唱しながら諸兄のことを懐かしく思い出しています。長い間お世話になりました。

敬具

*毎月第三火曜日開催 発足当時の会員は10名

三井吉久（発起人）、今村俊博、大國雅生、田野雄、西垣義郎、平野隆俊、福永貞昭、増井修、松山次男、三木弘幸（敬称略）

和歌山大水害から70年 陽の目を見た学生ボランティア活動 (大5期 北 道子さんの想い)

柑芦編集委員

未曾有の豪雨が和歌山県を襲った『紀州大水害』は、70年前。昭和28年7月18日に有田川、日高川の流域の市町村に甚大な被害をもたらした。これまでは、報道などを中心に被害状況が述べられ、防災対策に重点が置かれた報道でした。当時大学一年だった北道子さん(大5期)の古いアルバム写真から、紀州大水害時の学生ボランティア活動が初めて公に知られることになりました。

事の発端は、和歌山の現代史を研究テーマとする和歌山大学の『教養の森センター』の橋本唯子准教授のもとにこの写真のコピーを持ち込んだことでした。付属図書館副館長として和歌山の近代史を研究されている橋本先生の所にも学生ボランティアがその当時から活動していたという記録がなかったことから、「和歌山学生同盟」についてもっと知りたいたと、姫路の北さんの許へ取材に行かれ、その話の内容から、「紀州大水害」を別の角度から見直すテーマが出来たと、NHK和歌山支局にも連絡されたことで7月18日の放送に至った次第です。学生のボランティア活動は、今でこそ当たり前のように全国で報道されていますが、終戦後8年目で、まだ自分達の日常生活さえも充分でない時代に、故郷の災害を何とかしたいと、和歌山から各地へ散った学生たちに呼びかけ、「学生同盟」の名のもとにボランティア活動をした『和生』がいたことは、本当に驚くほかありません。おそらく他

府県でもこのような動きはなかったのではないのでしょうか？

その活動の内容は、被災地へ出向いての災害復興作業への労働提供から義援金募金箱活動まで幅広いものです。北さんは大学1年生として『和歌山学生同盟』の会計担当を任せ、新聞回収(古紙)販売による活動資金作りにも積極的に参加され、走り回られていたとのことでした。

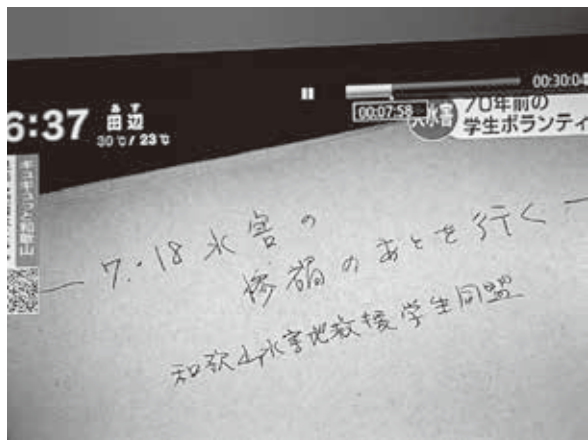
この放送番組は、柑芦会本部及び神戸支部から各支部へ番組のURLが連絡され、これをクリックすることで和歌山以外の地域でも放送を見ることが可能になり、柑芦会員に大きな自信を得られた、との感動の声が返ってきました。

和歌山大学生として女性が「経済学部」で学ぶことが珍しかった時代に、北道子さんが経済学部生として頑張っていたという事実、その後卒業されて姫路で教育者として活動の傍ら、エッセイストとしても地方文化への貢献をしておられ、今でも姫路市民の文化サークルの現役として活躍されています。数年前に上梓されたエッセイ集「多事彩々」にも集中豪雨の記事はありましたが、学生ボランティアのことは描かれていなかったと記憶しています。

また、北さんは俳人として、柑芦会OBの同人「芦火」の会の会員でもあり、俳号を草炎(そうえん)として作句活動も継続中です。

母校だより

和歌山大水害写真 (NHK和歌山20230718放映)



(中央が北道子様)

大学研究社会連携課の紹介

課長 脇田 淳一

和歌山大学研究・社会連携課長の脇田淳一と申します。

柑芦会の皆様には、日頃より多大なるご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。ありきたりの言葉ではございますが、心より感謝申し上げます。

さて、今回は、私が所属しております研究・社会連携課をご紹介するご機会をいただき、大変喜んでおります。

私が所属する研究・社会連携課の役割は、一言で申しますと、「研究推進」と「産学連携」「社会貢献」となります。特に、地方大学にあっては、社会貢献がとても重要になってきており、今年度より、研究・社会連携課の中に「社会連携室」が設置されました。

研究・社会連携課(社会連携室を除く)には、研究協力係、研究推進係、起業支援係の三つの係とURA室があり、イノベーションイニシアティブ基幹(産学連携イノベーションセンター、アントレプレナーシップデザインセンター、7月からは、新たに共同利用・共同研究推進室、リスキリング・インターンシップ推進室が新設されました)の事務を担っております。

研究・社会連携課社会連携室には、生涯学習・サテライト係、地域連携係の二係と、KiiPlusの紀伊半島価値共創基幹オフィス、これに、紀伊半島価値共創基幹(食農総合研究教育センター、災害科学・レジリエンス共創センター、紀州経済史文化史研究所、生涯学習・リカレント教育推進室、南紀熊野サテライト、岸和田サテライト)の事務を担っております。

それぞれの活動内容・ご案内・報告は、本学ホームページへの掲載や報告書の発刊にてお伝えしてまいりますので、お時間がある時で結構ですので、覗いていただくと幸いです。

何れも少ないスタッフではございますが、大学の三つの使命の一つである社会貢献を柱に、四学部・一学環と共に、よりよい大学を目指し、「教育」「研究」「社会貢献」を実行してまいりますので、今後ともご支援、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、柑芦会の益々の発展を祈念し、私からのご報告とさせていただきますと存じます。



令和5年6月22日(木)、本学と株式会社アワーズとは、幅広い分野における相互の地域交流の活性化を促し、産学が相互に連携協力することで、和歌山県の経済・産業の活性化、人財育成の推進を目的として、包括連携協定を締結しました。

第13回香村賞ビジネスコンテスト・審査会開催

2022年度の第13回香村賞ビジネスコンテストの最終審査会が2023年1月20日(金)和歌山大学産学連携イノベーションセンターで開催されました。本年度の応募者総数は18チーム(参加者数37名)で、書類選考を通過した12チーム(参加者数24名)のプレゼンテーションが行われ、下記の受賞者が決定しました。伊東学長(審査委員長)から表彰状が、北村会長(審査副委員長)より柑芦会から賞金がそれぞれ授与されたのち、学生と審査員との自由な意見交換会が実施されました。

<受賞者>

ビジネスモデル部門

- 最優秀賞** Web3時代のローカル習い事教室「ECOMIRE」
西山泰仙:経済院生1年
- 優秀賞** 教授の負担はそのままに、授業をオーディオブック化し、
復習革命を起こすサービス「トークログ」
中沢怜士:教育4年
- 特別賞** 「野外での遊び」×「算数」の活動拠点づくり
設楽はるか:経済1年
- 特別賞** 高齢者向けマッチング通話アプリ「シルフレ」
布江田恭平:経済3年、梅景淳:経済3年
西元倫太郎:経済3年



アイデア部門

- 最優秀賞** 大学の合格通知書、もっと豪華に通知しょ!
滝下連太郎:経済3年、山本啓太郎:経済3年、王新慧:経済3年
- 特別賞** 新たなゲーミングデバイスでeスポーツをより面白く
森本伊織:観光4年
- 企業賞**(受賞者にはそれぞれの企業から個別に支援が提供されます。)
- ラック株式会社** 「野外での遊び」×「算数」の活動拠点づくり
設楽はるか:経済1年
- Relic株式会社** AnyBody
小島早葵:シス工3年
- 紀陽情報システム株式会社**
「子どもの成長を支えるサブスク」【キッズサイポス】
見浦響:教育3年 宮本もなみ:教育3年
- URLで保存する旅程管理アプリtrabeli**
坂根美優:シス工3年、池田伊吹:シス工3年
前川大樹:シス工3年



ビジネスモデル部門



[プラン名]

Web3時代の習い事教室「Ecomire」

経済学研究科2年／西山泰仙

〈サービス概要〉

時間無制限・分野無制限のサブスク型学習プラットフォーム。会員同士の教え合い(P2Pラーニング)を導入することで分野的、時間的障壁をクリア。学習や経験を共有した会員には利益分配が行われる仕組みを導入することでアウトプットのインセンティブを設計。

従来のパソコン教室が担う分野に加え、AI ツールやWeb3 関連、経済学をはじめとする教養分野や趣味分野まで幅広く対応。ポータルサイトで教材の閲覧に加え、教室の稼働状況をリアルタイムで確認可能なため、学習機会のマッチングや独学の効率化も実現。

お寺を活用するため比較的安価で提供が可能。

〈着眼点〉

過疎地域では人口減少に適応するにはスリムで持続可能な経済循環を構築する必要があるが、学習にはその課題を解決するポテンシャルがあると考えた。

また、従来の習い事教室では盲目的な基礎学習が蔓延し、生徒の目的達成の足を引っ張っている現状に直面した。さらに質の低い情報を高額で販売している点にも生涯学習を推進している現代における課題があると感じた。

さらに、AI を含めたIT の進化によって学習コンテンツが小規模のリソースでも効率的に作成、斡旋可能になったため、スモールスタートできると考えた。

〈現在の進捗〉

無料イベントを開催し、学習需要の創出、再確認を行っている。

サブスク化は2023年4月より開始予定で、P2Pラーニングは来年度以降を予定。



夫馬税理士事務所

夫馬税理士事務所
 大阪市浪速区元町2丁目6-11
 ビルディング元町602
 税理士 夫馬 竜司
 TEL : 06-6644-3720
 FAX : 06-6644-3721

母校だより

ビジネスモデル部門

優秀賞

[プラン名]

教授の負担はそのままに、 授業をオーディオブック化し、 復習革命を起こすサービス「トークログ」

教育4年 / 中沢怜士

〈サービス概要〉

授業をスマートフォンで録音するだけで、オーディオブックが作れるサービス

- ①授業開始時に録音を開始する。
- ②授業終了後、録音をAIが文字起こしする。
- ③音楽配信サービスと似たUIで授業を必要と
ころだけ聴けるオーディオブックが完成!



〈取り上げた課題〉

大学では授業に対し復習を含む自主学修時間が求められる。しかし、和歌山大学で開講されている多くの授業では、学生の復習まで見越した授業づくり、資料づくりがされていない。

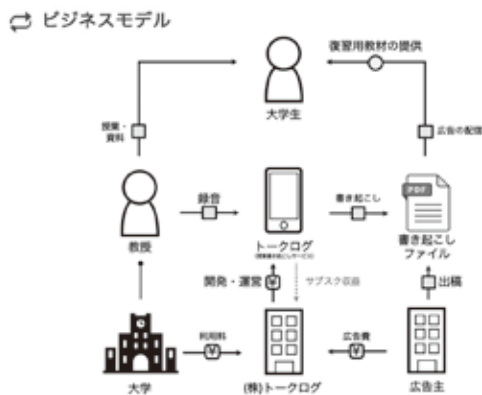


〈このサービスの発想の元となった原体験〉

- 教育実習を通して、あとで(または欠席した)生徒が見直した時に振り返れる授業、資料づくりをすることの重要性を実感した。
- 日々忙しい中で、隙間時間で学びに使えるポッドキャストと出会い、ハマった。
- 体調不良で休んだ授業のレジュメを読むだけでは行間が汲み取れず、また、分からない部分が多すぎてメールでどこをどう質問していいかわからず悩んだ(血迷いすぎでもう一度説明してくださいとメールしそうになった)。
- 5回にわたって行われる学外のセミナーに参加する中で、ほとんどの社会人の方が全回出席できない姿を見た(これから社会人のリカレント教育、リスキリングが増えていく中で、大学授業の復習のUX向上は重要と実感)。

〈ビジネスモデル〉

- 画像参照



ビジネスモデル部門

特別賞

アイデア部門
企業賞

ラック賞

[プラン名]

「野外での遊び」×「算数」の
活動拠点づくり

経済学部1年／設楽はるか

〈背景〉

自分の苦手意識の克服の経験より、高校生の時に数学嫌いから周囲がマイナスな進路選択をしていることに課題を感じて、「算数が楽しい!から子供たちの選択肢を増やす!」を目標にした、算数が嫌いになる前、小学校低学年からの「野外でのアソビ×算数」のビジネスモデルの提案。

〈概要〉

「野外でのアソビ×算数」は、スウェーデンの自然学校を参考にする。野外でできる算数教育プログラムを放課後の習い事として実施する。

参加費だけでなく企業とのCSR活動による連携で、物品の供給等を成立させるのが特長である。また、平日のキャンプ場や運動公園の有効活用にも繋げ、整備作業の提供も視野に入れる。

今後はそれぞれの地域に根ざして成長し、書籍販売による事業拡大も検討している。

ここ数年、少子化にも関わらず教育熱の高まり故に市場が拡大し続けている小学生の算数教育市場(推定318億円)にフォーカスする。

〈「野外でのアソビ×算数」をもっと詳しく!〉

2022年11月13日、橋本市の「まだ名もないキャンプ場」にて、「親子でわくわく!数字の学校」を開催。メインプログラム「自然の中で重さを感じよう!」では、会場にある石とドングリを集めることを通して重さと大きさの違いやハトを例に身近な生き物の重さについて学んだ。その他、アイスブレイクや数字が書かれたおやつを用いた教材によって、数字を身近に学んでもらえるように工夫した。



[プラン名]

特別賞

高齢者向け通話マッチングアプリ シルフレ

経済学部3年／布江田恭平、梅景淳、西元倫太郎

〈背景〉

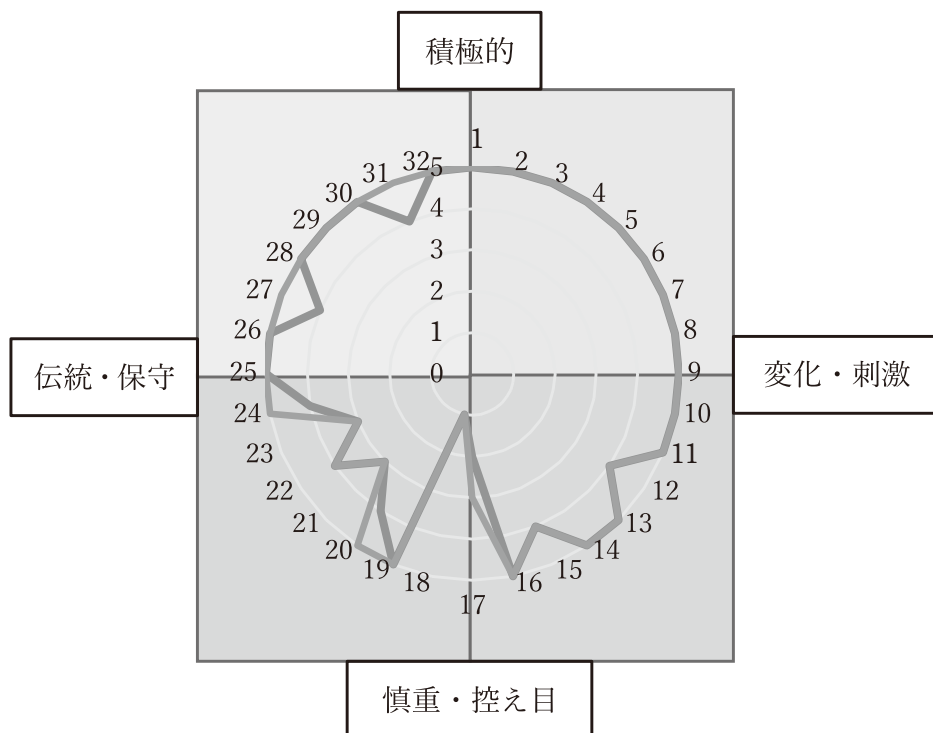
高齢者の3割が親しい友人がいないと回答していることや、世代間交流ではなく同世代や趣味仲間との交流を望んでいることがわかった。そこで、高齢者の孤独問題を解決したいと思い、高齢者向けマッチング通話アプリ「シルフレ」を提案しようと考えた。

〈内容〉

- ① 価値観診断
 - ② 趣味の登録
 - ③ 通話
- の3つの機能を有している。

価値観診断では株式会社ZWEIの愛・コンパスを参考にし、3分程度の回答時間でその人の価値観を診断し、より友好関係を築きやすい人とマッチングができるようにする。そして趣味を登録してもらう。趣味はユーザーが自身で趣味タグを作成できるようにし、ユーザー数の増加と共に趣味タグのバリエーションが豊富になる。そして、価値観診断と趣味のデータを元に、ボタン1つで全国から価値観や趣味の合う人と直ぐに繋がり、通話をすることができる。

このサービスをまず老人ホームと個室に入院している高齢者の方に売り込み、3年後に全高齢者を対象としたアプリへと広げていく。



アイデア部門

最優秀賞

[プラン名]

大学の合格通知書、
もっと豪華に通知しょ!

経済学部3年／滝下連太郎、山本啓太郎、王新慧

〈アイデアの着眼点〉

人生の大きなイベント一つとして、「大学への入学」がありますが、和歌山大学の入学時にもらえる合格通知書をご存じでしょうか?単なる封筒に合格通知が入っていて、その後送られてくる資料についても簡易的なものとなっています。せっかく合格したのに何だか特別感がない、そう感じてしまいます。一方で日本の私立大学や海外の大学では合格者が特別なデザインの豪華な合格通知書となっており、人生の大きな思い出となるものとなっています。ここで和歌山大学の入学者にも思い出となるよう、豪華な合格通知書にしたいと思いました。

〈ターゲット〉

和歌山大学の昨年の入学者数は、令和4年前期日程において合計501人、後期日程を含めると726人です。また令和3年も合計750人であり、推薦入試やAO入試を含めると約800人前後がターゲットとなります。

〈アイデアの意義〉

和歌山大学の入学者に合格を喜んでもらうことはもちろんのこと、地域の魅力を伝える機会にしたいと考えています。和歌山大学の入学者は県外出身の学生が74.2%(平成30年)と非常に多い割合となっています。つまり、和歌山に入学する学生の大多数にとって、和歌山は馴染みの薄いものなのです。そこで県外出身の学生を中心に県内出身の学生にも、和歌山をもっと知ってほしいと考え、独自に作成した和歌山の魅力地図や和歌山各地の観光施設のクーポンや体験チケットを同封する予定です。これによって、和歌山各地を観光してみようというきっかけを作り、学生による口コミや経済効果を期待します。また、和歌山大学の現在の取り組みを紹介することで、入学後のイメージを膨らましてもらおうと考えています。このように地方国公立大学の合格通知書を、地域と大学の魅力を伝える機会にすることで、入学者に合格の喜びと地域の魅力を届け、ゆくゆくは全国の地方大学で地方の魅力を伝える一つの手段として活用してもらいたいと考えています。



アイデア部門

最優秀賞

[プラン名]

新たなゲーミングデバイスで esportsをより面白く

観光学部4年 / 森本伊織

〈背景〉

昨今esportsが盛り上がり、特に一人称シューティングゲームであるFPSジャンルが国内外問わず人気があります。それに伴い様々なゲーミングマウスが発売されていますが、現在売られているゲーミングデバイスのすべてがマウスの形状を少し変えただけです。「そもそも1960年に開発されたマウスの形状は繊細な動きが求められる現代のFPSに向いていないのではないだろうか。」といった思いから今回のビジネスプランを考えました。

※イメージ図



〈商品概要〉

プロゲーマーの監督をしている方曰く親指、薬指、小指の三点でエイムをするのが良いと仰っていました。マウスの原型を崩して親指、人差し指、中指の三点で動かすマウスを開発した場合ペンに近い感覚でよりの確にかつ繊細に線を引くことができます。

FPS は一見非常に複雑なゲームですが、本質は画面真ん中にあるカーソルを現れた敵にマウスで移動させてクリックするゲームです。つまりカーソルを始点として敵がいる場所を終点とする線をどれだけ早く引くことができるかを競うゲームです。つまり、当然その線を引きやすいデバイスであればあるほど優秀なマウスであるということです。



なんば道頓堀ホテル

〒542-0071 大阪市中央区道頓堀2-3-25

宴会予約(大中小宴会場)

06-6213-3444

飲み放題込み、MAX3時間
¥5,000.-

場所：地下鉄・なんば駅から北へ徒歩5分

アイデア部門

企業賞

Relic賞

[プラン名]

福祉起点のものづくり プラットフォーム「Anybody」

システム工学部3年／小島早葵

〈サービス概要〉

福祉の現場の困りごとや発見から、新しい製品やサービスを社会に提案するプラットフォームです。福祉従事者やマイノリティが課題を投稿し、関心のあるものに対して企業が提案・開発を実行していくことでビジネスが展開されていく仕組みを考えています。一般ユーザはそのプロセスをコメントや投資によって応援することができ、障がいや貧困などの課題を起点に当たり前を問い直したイノベーションに伴走する体験ができます。

〈背景〉

福祉の現場に身を置く中で感じた、福祉の持つ「人への観察力」と「業界外との共創の難しさ」を感じたことがきっかけです。当サービスが、福祉現場からの提案やビジネス参画へのハードルを下げ、社会の福祉への当事者意識を高める体験を作ることで、福祉が社会へ発信を行い、社会が福祉を知ろうとする関係から新しい価値を生み出すことを期待します。

〈今後の展開〉

実現に向けての展開を考えています。まずは、福祉起点の課題を解決するサービスの事例を作ることから始めていくため、福祉現場の方へのヒアリングや協力企業の募集を進めています。



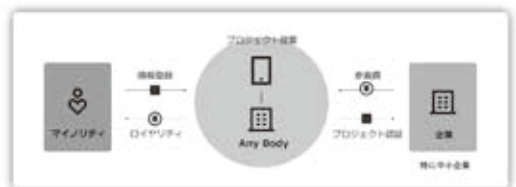
福祉の面白さー

知らない視点で世界が見える！

エレベーターは
最高の道具コミュニケーションは
ハイタッチで自動販売機は
ロシアルーレット

課題・ビジネスモデル

マイノリティの日常の気づきが、お金になって還元！



課題・ビジネスモデル

アイデアの収集から、ニーズ調査、検証までを伴走



共通性が高く、潜在的なニーズを発見

マイノリティ

アイデアの投稿（投稿＝評価）

ニーズに応える技術力

企業によるプロジェクト立ち上げ（調査→試作）



[プラン名]
「子どもの成長を支えるサブスク」
【キッズサイポス】

教育3年／見浦響、宮本もなみ

『「その人らしさ」が重視されつつある現代において、テストの成績では測ることのできない子どもたちの力をバリエーション豊かな体験を通して育みます。サブスクリプション制で、手軽に子どもたちがやりたいことをやりたいだけ』この視点をそのままに事業を二人で組み立てていきました。

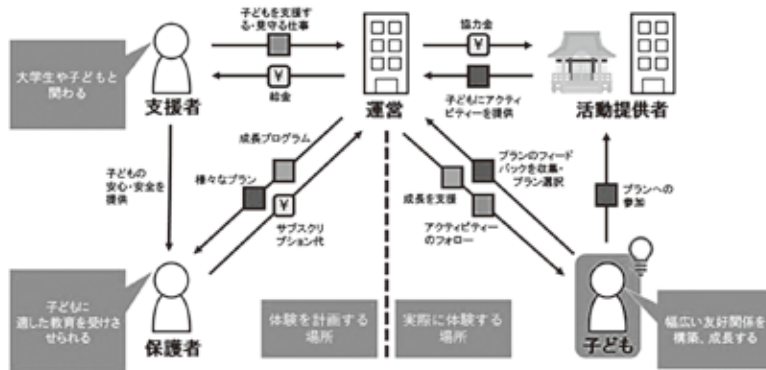
実際にこのコンセプトが受け入れられるのかが気になり、和歌山大学で調査を行いました。気前よく調査に協力して頂いた和歌山大学の学生121名の方にこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、そのようなコンセプトで事業を考えていく中で、富裕層向けの事業にするのか、それとも貧困層向けの事業にするのかで意見が対立する場面がありました。基本的にはどちらの層にもアプローチしていく中で、経営の観点から富裕層に対するアプローチの割合が多くなる結果になりました。

プレゼン発表後の講評でも頂いた意見ですが、非認知能力という必需とされていない能力を養う事業であるがこそ、富裕層一本で絞り、それに合わせた事業方針を取ったほうが分かりやすく、より魅力的になったと現在になっても反省をしております。しかしながら、「あらゆる子どもたちが、自分たちの道を踏みしめて歩いていける、そんな社会を目指して」という最も意識したビジョンを一通り形にできたと二人とも納得しているのも、非常に良い経験ができたと思います。

最後に、敢闘賞を頂きました紀陽情報システム株式会社様に感謝申し上げます。

大変良い経験をさせて頂きました。また、事業に対してもお褒めのお言葉を頂戴したこと、誠にありがとうございました。



アイデア部門

企業賞

紀陽情報システム賞

[プラン名]

URLで保存する旅程管理アプリ
traveli

システム工学部3年／坂根美優、前川大樹、池田伊吹

〈背景〉

近年の旅程決定はインターネット検索によるものが主流となっており、旅行会社のツアーよりも自分たちで旅程を立てる人の方が多くなっています。しかし既存の旅程管理アプリでは、細かく旅程を管理できる一方で手間がかかりすぎるといった課題があります。メリットとして、日時・行き先・回る順番などの旅に関する様々な情報をスマホで細かく管理できる一方、必要以上に多くの情報を入力する必要があるため、気軽に旅行に行きたいようなユーザにとっては使いづらいものとなっています。

〈目的〉

以上のような背景から、気軽な旅行を好むユーザの旅程決定から旅行体験をよりスムーズにすることを目的に、旅程決定の際には最低限の入力のみで気軽に旅程管理し、旅行中には情報参照がスムーズになるWEBサービスを開発しました。

〈サービス概要〉

traveliとは、旅先で確認したい情報をURL入力のみで1つにまとめて、友達や家族と共有・参照できる旅程管理アプリです。使い方は簡単で、URLをコピーするだけで旅に関する情報をまとめたトラベリンクが完成し、旅行中にはこのトラベリンクから気軽に情報にアクセスすることで旅をスムーズなものにします。

〈今後の展開〉

traveliはリリースから4ヶ月、現在ユーザ数が291人です。今後はより使いやすいサービスになるような追加開発と、マーケティングに力をいれて運営していきます。traveliの利用を通して「気軽にスムーズな旅程管理体験をより多くのユーザに届けること」を目標に、尽力してまいります。



■ 使い方



現役クラブ紹介

弓道部

主将 システム工学部73期 米田 羽矢人

弓道部は昭和2年に発足して2027年に100周年を迎えます。過去に住吉大社全国大会、関西学生弓道選手権大会団体優勝、近畿国立大学体育大会弓道の部の男女優勝と輝かしい歴史と伝統があります。

現在、我々は新入生を23名迎え入れ、男子21名、女子23名で月・水・金・土の週4日で活動しています。昨年度は、チームを組む際に人数不足に悩まされるということもありました。また、試

合ではリーグ戦において男女ともにリーグの降格という苦渋を嘗めることとなりました。しかしながら、個人の能力についてはあと一歩という所の者も多く見られます。今年度は、チームの人数も安定してきたこともあり、より一層団体戦にも力を入れ、チームとしての団結力を高める練習を行ってリーグ戦での昇格、全日本学生弓道選手権大会で勝ち進めるよう努めてまいります。

最後になりましたが、OB・OGの皆様のご支援、ご協力に厚く御礼を申し上げます。今後とも和歌山大学体育会弓道部をよろしくお願い致します。



サイクリング部

副将 システム工学部26期 今井 彩月

我々サイクリング部は現在、3年生10名、2年生10名、1年生4名の計24名で活動しています。

基本的に毎週土曜日に大学周辺の*ポタリングを行い、平日には週に2日程度の筋トレを行っております。

また、春休みや夏休みなどの長期休みには合宿を行っております。

昨年度の夏合宿は四国班、静岡班、近畿一周班の3班に分かれて合宿を行い、春合宿は全員で琵琶湖を一周しました。

その他にも様々なイベントがあり、大学から串本まで走る耐久ランや、お鍋や材料などをもって山に登り、飯炊きをする飯炊き講習会や、年明けにはビーチでぜんざいを作る耐寒ランなども行っております。

一昨年度はコロナウイルスの影響で思うように活動することができませんでしたが、昨年度から徐々にこのような活動を再開することができております。

最後になりましたが、和歌山大学OG・OBの皆様、いつもご支援ありがとうございます。今後とも和歌山大学体育会サイクリング部をよろしくお願い致します。



*ポタリング・・
距離や速度を気にせず、散歩するようにのんびりと走ること。



将棋部

部長 システム工学部26期 安藤 駿佑

私たち将棋部は日々将棋を指しています。将棋とは、相手の王を捕まえるだけの単純なルールです。しかしながら、想像以上に奥が深いゲームです。自玉が詰むのか、それとも詰まないのか、そういったことを考えることに魅力があります。また、予め勉強しておく序盤研究も活動の一つとしています。そこで、より強くなるため最近ではAIを使って研究をしています。

大会への参加も活発です。私たち将棋部は団

体戦ではBリーグに参加しており、昨年度の秋季一軍戦ではあと少しのところまでAリーグに昇進するところでした。Aリーグへ昇進するための入れ替え戦では惜しくも敗退し、部員一同悔しい思いをしました。一方、個人の部関西学生最強戦のBリーグで安藤駿佑（システム工学部当時2回生）が準優勝を果たし、喜ばしい結果となりました。

将棋部OB・OGの皆様、和歌山大学OB・OGの方々のご多大なご支援にとっても感謝しております。これからも将棋部をよろしくお願い致します。

パソコンを使って
解析する様子



関西学生最強戦B級準優勝者の
安藤駿佑。
準優勝で貰った景品(扇子)を
手に取る。

アカペラサークル^{かずね}和音

会長 経済学部 73期 坂上 海里

新型コロナウイルス感染症も徐々に落ち着き、本来の授業や課外活動の形が戻りつつあります。最近では普段からの練習だけではなく、和歌山近辺の外部ライブのお誘いやサークル内での親睦会なども開催できるようになりました。

ほかにも3年ぶりの他大学との合同ライブや他府県への合宿なども開催することができ、活動の幅が段々と広がっているのを身に染みて

感じます。

そして、春には3度新歓ライブを行うこともでき、多くの新入生や留学生の方々がこのサークルに興味を持って入部してくれました。そのおかげで現在総勢、約40人のサークルとなりました。

コロナ禍前の本来のサークルの姿を知らない私たちですが、それでも「和音」特有の^{かずね}アットホームであたたかい雰囲気を引き継ぎつつ、新しい「和音」を穏やかで楽しいサークル員たちと一生懸命築いていこうと思います。大学祭のステージやシンボルゾーンでのライブがある際はぜひ、耳を傾けていただけると嬉しいです。



和歌山大学基金へのご協力のお願い

和歌山大学学長 本山 貢

これからの大学はZ世代の若者が求める時代のニーズに合った大学づくりが必要です。和歌山大学は、大学とは何をするといいところなのか、そして何をすべきなのか、これらの本筋を真摯に受け止め、考え続け、誠実に、明確なビジョンと戦略をもって行動しています。大学にとって、最も基礎となる部分は教育、すなわち人材の育成です。大学で学ぶ次世代に活躍する若者たちを鍛え、社会に送り出すためには、大学教育の根幹となる教育の強化が重要な鍵となります。

さらに、和歌山大学において教育・研究とともに重視しているのが地域に根づいた社会貢献です。大学は、学生や教職員が共に輝く「知」の拠点であり、社会に応用・活用されていく宝・財産を持っています。和歌山大学は地域社会と連携し、地域課題に取り組むことにより信頼関係を築いてきました。今後は協働・協力により得られた成果を結集し、教育・研究の力をもとに、より社会の要請に応じる「地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造」を目指し、学生、教職員、そして地域が育つ大学へと成長していきます。また和歌山大学は外国人留学生・特別な教育的ニーズを必要とする学生・社会的マイノリティの学生も多く在籍し、私たち大学構成員は多様なあり方を認め、そして包摂的に対応しています。

このように大学の多様な活動が維持され、発展していくためには、財政基盤の強化・充実が不可欠となっています。和歌山大学では、急速な社会変化に対応し続ける現状において、学生支援、教育研究支援をこれまでに和歌山大学の約5万人にもおよぶ卒業生、保護者、地域の皆様方のお力をいただきながら活動をさらに活性化させていきたいと考えています。そのためには教育・研究の質の向上及び学生の学び、社会・地域貢献活動の充実を図ることを目的として設立した基金制度を活用させていただき、大学のさらなる活動の発展に力を注いでいきたいと思っています。多くの期待に応じるために和歌山大学は発展しつづけます。皆様のご理解とご支援をいただいた基金は、ご期待に沿うよう、本学の活動のさらなる発展に活用させていただきます。ご支援のほど何卒よろしくお願いたします。



和歌山大学基金に関するお問い合わせ先

本学担当者までお気軽にご相談ください

和歌山大学基金室

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL.073-457-7089

E-mail : kikin@ml.wakayama-u.ac.jp



基金による事業計画

大学活動支援基金(使途特定なし)

- 大学全体のために活用します。大学の財務基盤を安定させ、柔軟に活用ができます。例えば、大学をあげての教育・研究・地域貢献に係るプロジェクト支援、キャンパスの環境整備など

特定目的支援基金(使途特定あり)

- 支援プロジェクトごとに、使途を特定して募集を行っています。
 - ◆災害支援事業
災害ボランティア派遣や教育に対する支援
 - ◆グローバル人材育成支援事業
海外派遣学生への支援などのグローバル人材育成支援など
 - ◆学生諸活動支援事業
課外活動が円滑に行えるよう施設・設備の整備や備品の支援など
 - ◆教育振興支援事業
先進的・先端的な学問分野の教育支援など
 - ◆研究活動支援事業
産業創生や高い社会貢献が期待される研究活動支援など
 - ◆地域共創支援事業
地域をフィールドとした学生の教育研究活動支援など
 - ◆アントレプレナーシップ人材育成支援事業
アントレプレナーシップ教育の展開に係る活動支援

修学支援事業基金

授業料等減免事業、奨学金事業、留学支援事業、TA・RA事業

研究等支援事業基金

若手研究者などへの研究等支援

書面でのお申込み

振込用紙に必要な事項をご記入のうえ、各金融窓口芳お振り込みをお願いします。

取扱金融機関

三井住友銀行和歌山支店	普通	7022033
三菱UFJ銀行和歌山支店	普通	0006436
紀陽銀行紀の川支店	普通	784917
ゆうちょ銀行・郵便局口座記号番号		00990-1-284256

クレジットカード決済

<https://www.wakayama-u.ac.jp/fund/application>

『和歌山大学基金』で検索ください

感謝

和歌山大学基金に個人10万円・団体30万円以上ご寄附いただいた方に銘板を作成し、大学本部1階玄関ホールに設置いたします。また累計100万円以上ご寄附いただいた個人の方におかれましてはゴールドの銘板を、団体におかれましてはシルバーの銘板を設置いたします。

*ご寄附金額は累計されます。

遺贈寄附・生前寄付について

ご遺志・ご希望に沿って活用できるよう、思いに寄り添いお話を伺います。いくつかの税制上の優遇措置もございます。本学担当者まで、お気軽にご相談ください。

令和4年度 就職状況調査

項目	就職者		進学者		自営業		その他		合計(卒業者数)		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
経済学部	189	98	10	0	3	0	15	4	217	102	319
	287(90.0%)		10(3.1%)		3(0.9%)		19(6.0%)				

※進学者の内訳

【大学院進学7(男7/女0)・専門学校3(男3/女0)】

※その他の内訳

【就職活動中3(男1/女2)・公務員試験再受験8(男7/女1)
アルバイト・パート5(男4/女1)・その他3(男3/女0)】

内定率=就職決定者(就職者+自営業) / 就職希望者(就職者+自営業+就職活動中)=290 / 293=99.0%

※令和5年3月31日現在

業種別就職先

◆農業・林業=1名

タキイ種苗株式会社

◆建設業=10名

パナソニック防災システムズ株式会社
株式会社NEXTAGE GROUP
株式会社アイ工務店
株式会社アキュラホーム
株式会社一条工務店
京石産業株式会社
住友電設株式会社
積水ハウス株式会社

◆製造業=45名

UCC上島珈琲株式会社
山崎製パン株式会社
日本食研ホールディングス株式会社
富士食品工業株式会社
カンボウプラス株式会社
株式会社明石スクールユニ
フォームカンパニー
株式会社レゾナック・ホールディングス
株式会社共和
三ツ星ベルト株式会社
千寿製薬株式会社

ジェイ・ワイテックス株式会社
株式会社三徳
三菱電線工業株式会社
川田工業株式会社
帝国チャック株式会社
SMC株式会社
ココロカ株式会社
株式会社イシダ
株式会社小松製作所
株式会社大阪タイユー
三起機械株式会社

日本スピンドル製造株式会社
アルプスアルパイン株式会社
アイリスオーヤマ株式会社
パナソニック株式会社
三菱電機システムサービス株式会社
日本電気株式会社
株式会社ダイハツビジネス
サポートセンター
住友電装株式会社
住友理工株式会社
HARIO株式会社
ケイミュー株式会社

ホクシン株式会社
ボラテック西日本株式会社
レンゴー株式会社
株式会社イトーキ
株式会社インテリックス
株式会社オーエ
株式会社サクラクレパス
株式会社サンコー
日本ガイシ株式会社

◆電気・ガス・熱供給・水道業=1名

アストモスエネルギー株式会社

◆情報通信業=39名

NECソリューションイノベータ株式会社
NECネットエスアイ株式会社
Sky株式会社
TISソリューションリンク株式会社
アクティス・ジャパン株式会社
アドソル日進株式会社
コムチュア株式会社
さくら情報システム株式会社
ユニアデックス株式会社
りそなデジタルアイ株式会社
株式会社NTCシステム

株式会社NTTデータアイ
 株式会社NTTデータMHI
 システムズ
 株式会社Sun Asterisk
 株式会社アヴァンザ
 株式会社いえらぶGROUP
 株式会社エボルブ
 株式会社オービック
 株式会社オペテージ
 株式会社クラスアクト
 株式会社サンテレビジョン
 株式会社シーイーシー
 株式会社ジーニー
 株式会社システナ
 株式会社セプテーニ・ホール
 ディングス
 株式会社ツリーベル
 株式会社ニッセイコム
 株式会社メタップス
 株式会社メデカ出版
 株式会社ヨドック
 株式会社ラックサイバーリンク
 株式会社リンクス
 株式会社南大阪電子計算センター
 三菱電機インフォメーションシス
 テムズ株式会社
 住友電工情報システム株式会社
 日本コンピューターサイエンス
 株式会社

◆**運輸業・郵便業=9名**

キムラユニティー株式会社
 センコー株式会社
 トールエクスプレスジャパン
 株式会社
 フィットジャパンロジスティカ
 株式会社

株式会社アクティオトランス
 ポート
 株式会社セルート
 東海理化サービス株式会社
 日本貨物鉄道株式会社
 日本航空株式会社

◆**卸売業・小売業=38名**

JFE商事株式会社
 KISCO株式会社
 エプソン販売株式会社
 カネヨウ株式会社
 クリスチャン・ディオール株式会社
 トラスコ中山株式会社
 ユアサ商事株式会社
 レクストホールディングス
 株式会社
 ワタキューセイモア株式会社
 株式会社ENEOSウイング
 株式会社IDOM
 株式会社ヨネイ
 株式会社安住商事
 株式会社阪神メタリックス
 株式会社守谷商会
 株式会社内田洋行
 原田産業株式会社
 三京化成株式会社
 三菱電機トレーディング株式会社
 東邦ゴム工業株式会社
 イオンリテール株式会社
 エバグリーン廣甚株式会社
 株式会社オークワ
 株式会社クスリのアオキ
 株式会社コスモス薬品
 株式会社コノミヤ
 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
 株式会社ネクステージ

株式会社ヤマダホールディングス
 株式会社ライフコーポレーション
 株式会社天理楽器
 株式会社万代
 大阪いずみ市民生活協同組合

◆**金融業・保険業=44名**

きのくに信用金庫
 みずほ証券株式会社
 株式会社ジャックス
 株式会社ゆうちょ銀行
 株式会社りそな銀行
 株式会社岡三証券グループ
 株式会社紀陽銀行
 株式会社池田泉州銀行
 株式会社南都銀行
 株式会社日本政策金融公庫
 三井住友信託銀行株式会社
 三菱UFJモルガン・スタンレー
 証券株式会社
 大阪シティ信用金庫
 大阪府信用農業協同組合連合会
 東海東京フィナンシャル・
 ホールディングス株式会社
 アフラック生命保険株式会社
 チューリッヒ保険会社
 株式会社かんぽ生命保険
 住友生命保険相互会社
 全国労働者共済生活協同組
 合連合会
 損害保険ジャパン株式会社
 東京海上日動火災保険株式会社
 日本生命保険相互会社
 明治安田生命保険相互会社

◆**不動産業・物品賃貸業=11名**

スター・マイカ株式会社
 株式会社エース

株式会社タカラレーベン
 株式会社プレサンス住販
 株式会社フロンティアホールディングス
 株式会社朝日ビルディング
 株式会社福屋不動産販売
 株式会社和み
 近鉄不動産株式会社
 三井住友トラスト不動産株式会社
 大林新星和不動産株式会社

◆**学術研究・専門・技術サービス業=13名**
 アクセンチュア株式会社
 フリーランス(イラストレーター)
 レイス株式会社
 株式会社スタジオアリス
 株式会社テラダ会計センター
 株式会社ニシオカ
 株式会社ニューズ環境設定
 株式会社フォーバル
 株式会社メディアハウス
 ホールディングス
 株式会社船井総合研究所
 合同会社五穀豊穰
 税理士法人ほはば
 税理士法人新潟会計アシスト

◆**宿泊業・飲食サービス業=4名**
 イコン株式会社
 ホテルモントレ株式会社
 株式会社カトープレジャーグループ
 和歌山ターミナルビル株式会社

◆**生活関連サービス業・娯楽業=3名**
 フリーランス(マッサージ師)
 株式会社スポーツサンライ

ズドットコム
 株式会社ときわ

◆**教育・学習支援業=6名**
 公立大学法人和歌山県立医科大学
 株式会社CEROUNO
 株式会社JSコーポレーション
 株式会社エイチ・エム・グループ
 株式会社けいせい塾
 株式会社類設計室

◆**医療・福祉=4名**
 一般財団法人住友病院
 日本赤十字社三重県支部
 セントケア・ホールディング株式会社
 ぬくもりグループ

◆**複合サービス事業=2名**
 わかやま農業協同組合
 楽天グループ株式会社

◆**サービス業=21名**
 GTS協同組合
 UTエイム株式会社
 UTコンストラクション株式会社
 WellBe Malaysia Sdn.Bhd.
 タイムズサービス株式会社
 デイップ株式会社
 パーソルキャリア株式会社
 パーソルテクノロジー株式会社
 ランスタッド株式会社
 株式会社ウィルオブ・コンストラクション
 株式会社エスプールプラス
 株式会社スタッフサービス・ホールディングス
 株式会社ネオキャリア
 株式会社ラストリゾート
 株式会社リクルーティング・

デザイン
 共同エンジニアリング株式会社
 総合キャリアグループ
 総合警備保障株式会社
 大阪商工会議所
 日本年金機構

◆**公務=46名**
 経済産業省
 公安調査庁 近畿公安調査局
 厚生労働省 大阪労働局
 厚生労働省 和歌山労働局
 国税庁 大阪国税局
 財務省 大阪税関
 法務省 和歌山地方検察庁
 有田市役所
 沖縄県庁
 岸和田市役所
 紀の川市役所
 熊取町役場
 高石市役所
 佐賀県庁
 堺市役所
 松原市役所
 静岡県庁
 大阪市役所
 大阪府庁
 朝来市役所
 姫路市役所
 富田林市役所
 福知山市役所
 米原市役所
 和歌山県庁
 和歌山市役所

◆**総計=290名**

現在の就職状況について

経済学部 准教授 大46 本庄 麻美子

就職問題懇談会は2023年4月「令和6年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(申合せ)」を示し、2024年卒の就活日程についても、現行スケジュール(3年3月広報活動解禁、4年6月選考活動解禁)を維持する方針となっています。ただ、それは名目上で、3年夏のインターンシップから就職活動が実質スタートするといっても過言ではありません。インターンシップ参加者から「早期選考」という特別なスケジュールで選考が進み、早々(3年12～3月)に内定を得る学生が増加しています。その内定先がベンチマークとなり、実際に受験する社数が一桁といった学生もめずらしくありません。学生にとっては非常に良い就職環境であるといえます。

一方、人事採用担当である卒業生から「学生を紹介してもらえないか」といったお問い合わせが例年以上に増えています。和歌山大学4学部の2024年卒対象に29,450件を超える求人をお願いしているのですが、なかなか紹介できる学生がいなかった状況です。企業にとっ

ては非常に厳しい環境であるために、学生から「オワハラ(終われ就活ハラスメント)」の相談も受けることもあります。ほんの一部の企業ではありますが、学生に対して誠実な対応をしていただけることを願うばかりです。

そういった背景もあるからか、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は「インターンシップで得た学生情報を採用活動に利用してはならない」としてきた三省合意を改めました。一般的なインターンシップは就業体験が必須で5日以上、専門的な内容を含む場合は2週間以上であれば、一定の条件に限り、企業がインターンシップで得た学生の個人情報を広報活動や採用選考活動に利用できるようになります。

学生にとって就職環境が良いとはいえ、昨年度も年間2,000件を超える相談がありました。最終の進路決定に思い悩む学生も少なくはありません。引き続き、学生に寄り添った支援を行い、納得のいく進路決定ができるよう、サポートしていきたいと考えています。

株式会社 小 泉 組

代表取締役会長 小 泉 陽 (大学5回)

〒657-0035 神戸市灘区友田町3丁目2-10-301号

電 話 (078)811-8021(代)

F A X (078)811-8268

県内就職希望で和歌山大学の
新卒生・同窓生のみなさんへ
和大生人材応援採用企業特集

QRコードで各企業のホームページをご覧ください



人と環境のハーモニー

株式会社 浅川組



▲ホームページ

浅川組は総合建設会社として、マンションや工場、庁舎、学校などの建築工事から、トンネル、道路、橋脚、風車などの土木工事まで和歌山県内で多くの建造物を手掛けています

地域に残る「作品」を一緒に作り上げませんか？

ものづくりに情熱をお持ちの方、コミュニケーションを取るの好きな方大歓迎です

本社所在地 和歌山市小松原通三丁目69番地
代表者 取締役社長 西口 伸
設立 1948年12月
従業員数 306人(2022年5月)
事業所 本社/和歌山 支店/東京、大阪

採用に関する問い合わせ
担当：管理本部人事総務部 岩下
TEL：073-423-7161
E-mail：asakawa-jinji@asakawagumi.co.jp
URL：http://www.asakawagumi.co.jp

日本の味・心の味を伝えて1世紀、これからも1世紀。



日本の味・心の味

 中田食品株式会社

〒646-0292 和歌山県田辺市下三栖 1475
TEL 0739-22-2486 FAX 0739-23-0950
○ホームページ <http://www.nakatafoods.co.jp/>



SHIMA SEIKI はこれからも新しい技術の開発に挑戦し
世の中に感動をお届けします。

Sustainability @ SHIMA SEIKI
www.shimaseiki.co.jp/sustainability/

株式会社島精機製作所 本社 和歌山市坂田85番地 TEL 073-471-0511(代)




自然の恵み、生薬のチカラを活かして
現代人に必要とされる医薬品を製造

ホノミ漢方
劑盛堂薬品株式会社

採用関係のお問い合わせはコチラ

和歌山でSEになろう


— 和歌山から全国へ —



01 **こんな会社です！**
 当社は 紀陽フィナンシャルグループのソフトウェア会社です。
 和歌山本社・東京支社・大阪開発センターを拠点に、金融、
 自治体、企業の IT ソリューションを全国に提供しています。

02 **将来の展望**
 事業コンセプトは、「安定」と「成長」そして「挑戦」です。
 新技術へのチャレンジ、働き方改革の追求、地方創生への
 貢献に取り組み、社員全員がよりワクワク働ける会社を
 目指します。

03 **こんな人と働きたい！**
 「文系・理系、知識・経験を問わず」、
 「適性やコミュニケーション能力を重視した」採用を
 行っています。
 学生時代にさまざまな経験を積んだ魅力的な方と
 一緒に働きたいと考えています。



紀陽情報システム株式会社
 本 社 和歌山市中之島2240番地
 設 立 1985年2月
 資 本 金 8,000万円
 従 業 員 数 264名(2023年4月現在)

人事部 採用グループ ☎ 073-432-7581 ✉ saiyou@k-js.co.jp



くらし豊かに 家庭日用品の

株式会社 オーエ

卒業生が多数在籍。地元和歌山の発展に尽力しています。

Kitchen



Toiletry



Health&Beauty



Laundry



Bath Room



web

Instagram

Facebook

OHIE 株式会社 **オーエ**

和歌山県海南市大野中1010 TEL (073) 482-3461(代)



「ココ」は、ココロ(心)、「カラ」はカラダ(身体)。

ココ・カラ、和歌山



和歌山の農産物が、
みんなのココロとカラダに潤いを届け、
健康で豊かな暮らしを創っていく。
気持ちの中へ、カラダの中へ、
ここ(和歌山)から発信していきます。



JAグループ和歌山から、和歌山の旬な情報をお届けします。

詳しくはホームページをご覧ください <http://kokowaka.jp/>

多くの和太OBが活躍しています

 **JAグループ和歌山**

高度な技術でエレクトロニクスの進化に貢献しています！

太洋工業株式会社

2023年12月21日から『太洋テクノレックス株式会社』に社名変更いたします。

本社所在地 和歌山市有本 661 番地

代表者 代表取締役 細江 美則

設立 1960年12月

資本金 815,198千円

従業員 202名

平均年齢 44.7歳

平均勤続年数 17.8年

企業PR：スマートフォンやデジタルカメラ、車載機器など様々なデジタル機器に使用されているフレキシブルプリント配線板(FPC)の製造を通じて皆様の生活を陰ながら支えています。また、自社開発のAIシステムを搭載した各種検査機の開発・製造や、ロボットシステムの構想・設計・導入から周辺設備までのトータルソリューションを提案する新たなビジネスも展開しています。常に先端技術に挑戦し、中国やタイ、台湾に拠点を設けるなど海外展開も積極的に進めています。

求めるキャリア人材：チャレンジ精神のある方、主体的に仕事を動かし、自ら考えて行動できる方、職場の仲間を尊重し、協調する姿勢がある方

【採用に関する問い合わせ】

担当 経営管理部 総務・人事グループ 長谷川、崎山

電話 073-431-6311 / FAX 073-428-0204

e-mail saiyo@taiyo-tx.com

<https://www.taiyo-tx.com/recruit/fresh/>

※社名変更後の連絡先に変更はございません。



人と人とのふれあいを大切に、地域社会とともに

株式会社湊組

本社所在地 和歌山市湊2-12-24

代表者 代表取締役 笹本 昌克

設立 1974年4月

資本金 6400万円

従業員 915名



当社は

- ①社協従業員・家族の幸福を追求します。
- ②お客様にとって、よりご満足頂ける企業を目指します。
- ③地域社会の発展に貢献していきます

将来の展望

テレビ和歌山の弊社CMをご覧になられた方も多くいらっしゃると思います。湊組は鉄鋼業界の一員ですが、県内の各イベント等に協賛し、地域の発展にも力を注いでおります。これまで幾多の苦難も乗り越えてきた湊組は、これからも地域社会と共に歩んでいきます。

求めるキャリア人材

仕事は基本的にチームプレイ。コミュニケーションを取りつつ、良好な関係を築いていける方を募集します。

採用に関する問い合わせ

担当 本社 総務課 採用担当（大谷）

電話 073-451-0273 FAX073-480-5406

e-mail saiyou@minatogumi.co.jp



サイバーリンクスは、
便利で快適な生活ができる地域づくり
安全・安心に暮らせるまちづくりをサポートしています。

IT エンジニア募集中!!
(新卒・キャリア採用)

50名以上のOB/OGが活躍中です!

東京証券取引所上場(証券コード:3683)

株式会社 **サイバーリンクス**

Webサイト YouTube

お問い合わせ

✉ saiyou@cyber-l.co.jp

☎ 050-3500-2801



文系技術者への道が ここにある

～私たちが社会の安心と安全を守ります～

東洋検査工業株式会社

本社所在地 和歌山市出島 31-5

代表者 代表取締役 的場正文

設立 1973年7月

資本金 4000万円

従業員 171名(4月現在)

平均年齢 39.5歳

当社は(経営理念・特色など)

「非破壊検査」と「インフラ調査」を事業の柱に、全国でも希少な複合技術サービスを提供できる技術者集団として、社会の「安心・安全」に貢献しております。

将来の展望

高度な技能と倫理観を持つ技術者を育成するとともに、デジタル技術及び AI 技術を積極的に導入し、組織の更なる成長を目指します。

求めるキャリア人材

社名に「工業」と入っていますが、文系出身で、技術者として立派に仕事をこなしている社員が、当社にはたくさんいます。社会に貢献したいという志がある方、我々とともに人生の一部を共有しませんか。

採用に関する問い合わせ

担当 総務部 島

電話 073-471-1311

e-mail saiyo@toyo-kensa.co.jp



和歌山から社会貢献をしたい方に

人も自然も健やかに 東洋ライス株式会社

本社所在地 和歌山市黒田 12 番地

代表者 代表取締役 雑賀 慶二

設立 1961年11月1日

資本金 1億円

従業員 195名(パート含む)

平均年齢 42歳

《弊社 社是》

技術を創造し、広げ、社会に高度の貢献をしよう。

思いやりと信頼で、温かい人間関係を築こう。

向上心を磨き、未来に夢と希望をもとう。

米にこだわった技術開発で他社にない独創的な日本初の無洗米や既存のカテゴリーに属さない新しいお米「金芽米」「ロウカット玄米」など、食と健康、さらには環境面も考慮した商品づくりを行っています。

当社では、「知恵」「自由」「礼節」をキーワードに、ポジティブな思考・豊かな好奇心・自由な発想、さらに社会生活でのベースである「人への思いやり」ができる人材を求めています。

採用に関する問い合わせ

担当 和歌山本社総務部 川上、大森

電話 073-471-3011

e-mail somu@toyo-rice.jp

菱岡工業株式会社

事業内容 業務用空調機・冷凍機の制御機器組立、
ハーネス加工、板金加工、設計・試作
所在地 和歌山市中島528番地
代表者 代表取締役 岡田 亜紀
設立 1974年4月
従業員 170名

お気軽にお問合せ・会社見学にお越しください！

担当：岡田・福林 電話：073-476-5111

e-mail : okada@hishioka.co.jp



【求職者の方へ】

和歌山大学卒業生も多数活躍されています。製造業に興味のある方、幅広いスキルを身に付けたい方、今までに身に付けた知識・技術を生かしたい方、未経験・知識がない方でも教育制度も充実していますので TRY の気持ちがあれば大丈夫！様々な職種があるので自分にピッタリなお仕事が見つかります。

【企業プロフィール】

当社は、業務用空調機・冷凍機の制御機器の組立、ハーネス加工と板金加工を行っており、板金加工部門では工作機械、アミューズメント機器、介護医療関係機器の部品製作等も行っていきます。誰もが楽しく働き続けられる企業を目指し、積極的な障がい者雇用、社員食堂や企業主導型保育事業（保育園）を開設する等しています。

私達は「つくる喜びと感動」を経営理念に、「打つ手は無限」を社是として新時代に向けて TRY し続けます。



窓辺から暮らしに イロドリを

オーダーカーテンの企画・販売・縫製・施工まで
お客様の理想の窓辺作りをトータルでお手伝い

株式会社 **インテリックス**

〒649-6311 和歌山市里174-1

TEL: 073-462-7724 FAX: 073-462-7758

営業所 / 東京・川崎・大阪・名古屋・福岡



www.interix.co.jp

 **JUST CURTAIN**

オーダーカーテン均一価格ショップ

ジャストカーテン全国に店舗拡大中 お近くのお店はこちらから



～仕事も会社もプライベートも、幸せで満たそう～

株式会社 南北

本社所在地 和歌山市関戸5丁目7-6
代表者 代表取締役 樫 畑 友 洋
設 立 1964年3月10日
資 本 金 1500万円
就 業 員 550名（パート含む）
平均年齢 35.5歳（本社）
業 種 学術研究、専門・技術サービス業
事業内容 ビル総合管理、不動産管理、インテリア
ショップの運営、マット・モップレンタル
ル・販売、介護用品レンタル・販売

将来の展望・・・

人々が生活する上で欠くことのできないもの。生き生きと働き、伸び伸びと遊べ、そして安らげる空間づくり。私たち南北はこれからも多くの方々に喜んでもらえるさまざまなサービスを提供していきます。

こんな会社です・・・

県内業界では圧倒的なシェアと実績を誇ります。働きやすい会社づくりを進めており完全週休2日制を実現。人がいる限り建物があり、メンテナンスが必要。安定ビジネスを手がける企業です。

採用に関する問い合わせ

担当 人事研修室 山畑（教育46期）
電話 073-444-3511
e-mail tyamahata@namboku.com



キャリアチェンジで知識・技能・経験を活かしたい方にも

さくらトヨー住器 株式会社



本社所在地 和泉市テクノステージ1-3-9
代表者 代表取締役 平 山 喬 之
設 立 1974年8月
資本金 1512万円
従業員 105名（パート含む）
当社は（経営理念・特色など）
①感謝の心を持ち、お客様に情報とサービスを提供
②品質を第一と考え、お客様に信用される会社に
③健全経営を心掛け、社員の幸福と社会に貢献
④創意工夫し、自己能力を最大限発揮できる風土に

将来の展望・・・現在では取扱い商品の幅も広がり、お客様のニーズも多様化されていますが、今後もお客様の役に立てる様、+α（付加価値）の創造、ご提供に邁進し続けて参ります

求めるキャリア人材・・・快適な住まいづくりのため、ビルや住宅に拘わらず、インテリア・エクステリアや設備機器に至るまで幅広い営業を行っています。当社では行動力のある若い社員の育成に注力しています。今までに身に着けた知識・技能・経験を当社で生かして下さい。

採用に関する問い合わせ

担当 本社管理課 平山博邦、橘
電話 0725-51-2881 FAX0725-51-2883
e-mail tachibanaj1@izumitoyo.com

新刊書紹介

◆ビジネス情報処理—社会科学分野におけるExcelの活用—

著者：牧野 真也(和歌山大学経済学部教授)

出版：DTP出版

発行日：2022年12月23日

価格：1,980円(税込)

◆マルクスの労働価値論

著者：大澤 健(和歌山大学経済学部教授)

出版：創風社

発行日：2023年2月25日

価格：2,640円(税込)

◆商業簿記・会計学Ⅲ講義ノート

著者：山田 恵一(和歌山大学経済学部准教授)

出版：デザインエッグ社

発行日：2023年3月6日

価格：2,926円(税込)

◆ひとり親家庭はなぜ困窮するのか：戦後福祉法制から権利保障実現を考える

著者：金川 めぐみ(和歌山大学経済学部教授)

出版：法律文化社

発行日：2023年3月31日

価格：5,280円(税込)

◆SDGs時代の地方都市圏の交通まちづくり

著者：辻本 勝久(和歌山大学経済学部教授)

出版：学芸出版社

発行日：2023年3月31日

価格：3,080円(税込)



高島工業株式会社

金属表面处理
METAL SURFACE TREATMENT



自動車や鉄道等の
乗り物の部品や
明石海峡大橋等の
建築物の部品にも
使用されています

取締役会長 高島 政康 (大学14回)
代表取締役社長 高島 政人 (大学41回)

本社工場：〒578-0914 東大阪市箕輪2丁目4番21号 TEL.072-963-6611(代) FAX.072-963-6615
八尾工場：〒581-0814 八尾市楠根町5丁目20番地 TEL.072-999-7800(代) FAX.072-998-0041
八尾第2工場：〒581-0815 八尾市宮町5丁目9番50号 同上 同上

<http://www.takashimakk.com>

技術でひらく 新たな可能性

旭精機工業株式会社

特別相談役 山口 央 (大24)

主要製品：精密金属加工品・小口径銃弾・プレス機械・ばね機械・
自動機・専用機・搬送装置

〒488-8655

愛知県尾張旭市旭前町新田洞5050番地の1

TEL：0561-52-5300

FAX：0561-53-2419

URL：<https://www.asahiseiki-mfg.co.jp/>

和歌山大学 役員及び事務局紹介(2023年7月現在)

学長	本山 貢	
理事(教育、入試、企画、総務)・副学長	添田 久美子	
理事(学生、研究、連携)・副学長	尾久土 正己	
理事(財務、施設、ガバナンス強化)・副学長	松本 吉正	
理事(地域連携)	中川 敦之	
理事(産学連携)	山形 伸生	
事務局次長	南方 伸之	経済学部37期生
企画課長	細野 蔵	
総務課長〔併任〕	南方 伸之	経済学部37期生
参事役(基金事務室長)	青木 稔	
財務課長	猪原 豊之	
施設整備課長	不藤 忠義	
研究・社会連携課長	脇田 淳一	
参事役(社会連携室長)	長谷 浩	経済学部36期生
学務課長	岡野 辰巳	
入試課長	森中 崇文	
学生支援課長	中井 邦昭	
国際交流課長	中元 一恵	
学術情報課長	大塚 志乃	

経済学部執行部

学部長・研究科長	教授	金川 めぐみ
評議員	教授	芦田 昌也
評議員	教授	辻本 勝久
副学部長(教務委員長)	教授	柳 到亨
副学部長(入試委員長)	教授	阿部 秀二郎
副学部長(学生委員長)	教授	長廣 利崇
学部長補佐	教授	金澤 孝彰
学部長補佐	教授	藤永 博
学部長補佐	准教授	岡田 真理子

◆経済学部教職員の異動

□ 教 員

(R5.3)

定年退職

辞職

教授	瀧野 邦雄
教授	吉田 雅章
准教授	三光寺 由実子

(R5.7)

辞職

採用

教授	團野 正造
教授	鈴木 敏充

 **税理士法人
坪内会計事務所**

代表社員 **坪内 隆** (大宮21回)
公認会計士・税理士・行政書士

〒567-0885 大阪府茨木市東中条町1番5号
TEL (072) 622-0400 (代) FAX (072) 627-0022

坪内公認会計士事務所
総合コンサル株式会社
株式会社サポートイング

会計監査・税務及び経営コンサルティング

名尾公認会計士事務所

公認会計士 **名尾 邦博** (大18回)
税理士

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-5-22 第3新大阪ビル3F

TEL 06-6305-9731 FAX 06-6305-9733

E-mail naocpa@qk9.so-net.ne.jp

山中会計事務所

公認会計士 **山中盛義** (大学28回) 税理士 **山中典子** (大学25回)
税理士

東直 (大学31回) 寺園喜久美 (大学33回) 宮脇亜有子 (大学45回)

〒640-8567 和歌山市西汀丁36番地和歌山商工会議所2階

電話 (073) 423-1231

FAX (073) 433-4066

令和5年度和歌山大学入学者選拔出身学校 都道府県別選抜状況等一覧（経済学部）

経済学部 令和5年4月1日

区分	志願者			受験者			合格者			入学者			
	府県	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	北海道	13	4	17	10	2	12	4	1	5	3	1	4
2	青森県	2		2									
3	岩手県												
4	宮城県	1		1	1		1						
5	秋田県												
6	山形県		1	1									
7	福島県		1	1									
8	茨城県	3	2	5	3	1	4	3		3	1		1
9	栃木県	3	1	4	1		1						
10	群馬県	4		4	2		2						
11	埼玉県	1		1									
12	千葉県	1	1	2	1	1	2	1	1	2		1	1
13	東京都	2	4	6		2	2		2	2		1	1
14	神奈川県	2	1	3	1	1	2						
15	新潟県	1	2	3									
16	富山県	2	1	3	2		2						
17	石川県	5	2	7	3	1	4	2	1	3	1	1	2
18	福井県	5	8	13	3	5	8	1		1	1		1
19	山梨県	4		4	2		2						
20	長野県	9	2	11	5	1	6		1	1		1	1
21	岐阜県	5		5	2		2	1		1	1		1
22	静岡県	13	6	19	3	3	6	2		2	2		2
23	愛知県	31	6	37	17	5	22	8	4	12	8	3	11
24	三重県	17	1	18	11	1	12	5		5	5		5
25	滋賀県	13	2	15	7		7	3		3	3		3
26	京都府	36	8	44	25	8	33	11	4	15	10	3	13
27	大阪府	454	244	698	289	149	438	96	52	148	81	46	127
28	兵庫県	113	41	154	72	22	94	23	8	31	13	8	21
29	奈良県	53	14	67	36	9	45	6	2	8	5	1	6
30	和歌山県	241	166	407	166	93	259	45	39	84	44	36	80
31	鳥取県	9	6	15	7	3	10	1	1	2	1	1	2
32	島根県	4		4	2		2	2		2	2		2
33	岡山県	15	7	22	11	3	14	1	1	2	1		1
34	広島県	19	3	22	10	1	11	2		2	2		2
35	山口県	6	6	12	4	4	8						

	区分	志願者			受験者			合格者			入学者		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
36	徳島県	13	2	15	9		9						
37	香川県	9	8	17	8	7	15	3	1	4	3	1	4
38	愛媛県	4	3	7	3	2	5	1	1	2		1	1
39	高知県	1	2	3		2	2		1	1		1	1
40	福岡県	4	1	5	2	1	3						
41	佐賀県	1		1	1		1						
42	長崎県	3	1	4	1		1						
43	熊本県	3	2	5									
44	大分県	2	3	5	2	3	5	1	1	2	1	1	2
45	宮崎県	3	3	6	2	2	4	1	2	3	1	2	3
46	鹿児島県	3		3	2		2	1		1	1		1
47	沖縄県	3	1	4	1	1	2	1		1	1		1
51	高校卒業程度 認定試験・大学 入学資格検定	6		6	5		5	4		4	2		2
52	外国の学校等	6	2	8	5	2	7	2	2	4	1	1	2
53	文部科学大臣 の指定した者												
54	認定												
55	在外教育施設												
56	専修学校の 高等課程												
	合計	1,148	568	1,716	737	335	1,072	231	125	356	194	110	304

※一般選抜における大学入学共通テストの受験科目不足等による出願無資格者は欠席者数に含む。

※学校推薦型選抜における大学入学共通テストの受験科目不足等による出願無資格者で受験した者は受験者数に含む。

出会いのひろば(会員談話室)

【随想】

- ・短6 塩路 茂一 短期大学時代の思い出
- ・大7 堀米 弘三 回顧録
- ・大25 河本 要 楽しきかな。わが翻訳人生

【俳句】

- ・俳句同人会（芦火）

【短歌】

- ・大6 川淵 湧三
- ・大12 東 睦夫

【川柳】

- ・大13 佐竹 明吟

「出会いのひろば」は皆様方の談話室です。
活発な意見交換、作品の投稿をお待ちしています。

短大の歴史と私の思い出

和歌山支部副支部長 短6 塩路 茂一

「和大経短」は、1954年（昭和29年）4月に開学して以来、1995年（平成7年）3月の卒業生まで、39年間の長期にわたる歴史をもって、発展的に終わりました。

因みに、第1期生（昭和32年）の卒業生74名が誕生してから、第39期生（平成7年）に至るまで、実に3,365名の卒業生が巣立ちました。

小生は、昭和37年の第6期生として、早や62年の年月が過ぎ、しかも働きながら学んだ夜間学生の期間が僅か3年という中で、昔の思い出となると断片的なものになります。

・学生時代は、勉強するにはお粗末な西高松の木造老朽校舎、白蛾が舞い散り、雨漏りや冷暖房のない教室でありました。昼間働きながら、なお学ぼうとする多くの級友の意識の高さに刺激され、勉学に励んだ若い頃が思い出されます。

・入学時は公務員や民間企業、自営業など就業先を持つ人たちがほぼ100%というほど、まさに仕事持ちの夜間学生として、自尊心に燃え意気盛んでありました。

就職先の職場までの片道通勤時間は、当時、国鉄の紀勢本線は単線の石炭列車で2時間を要し、往復で学校の授業より長く要したこと。帰宅はいつも夜の10時から11時頃だった思い出が懐かしく浮かんできます。

・当時、昭和30年代前半の卒業生は、大学・短期大学教育の制度に預かる人は1／5弱程度に過ぎず、地理的・経済的に大きな負担になって、大学での学びは夢の夢でもありました。

その夢が和歌山市内へ就職して先輩から夜間学部への進学の途を聞き、勤労の傍らで学業に励むことへの好奇心が一段と強くなりました。

幸いにも入社1年後入学できましたが、私共の6期生の学生は60名（うち女性7名）で、短大39年間の歴史の中で2番目に少ない学生数でありました。これも就職難の厳しい経済世相を反映しているとも言えます。

・在学中の3年間は短い期間でしたが、多くの友人にも恵まれ、今なお、その友情が続いていることは、私の今日までの大きな宝でもあります。

友人と再会するたびに、中学校教員免許状取得するために、当時の市立和歌山商業高校で教育実習を行えたことが、大きな思い出の一つとなっています。

・卒業時の就職情報先の中で、学校教師への求人があったが、初任給が月給5,000円で、当時の勤務先の給与と比較して、3,000円減収となり、断念した思い出があります。その頃の県は面接に重きを置いて合格するほどの恵まれた時期でもありませんでした。

・昭和39年以降、我が国経済の成長発展に伴って、入学生も80～100人代となり、さらに平成4年から最終卒業生となった平成7年まで、100人を超える卒業生となりながら、学部廃止に至ったことは、誠に残念至極でありました。

このことは、高度成長と共に全日制大学や学生の増加もあり、さらに高学歴社会への移行等が大きな要因ともなっています。

さらに、今日では車社会とは言え、1987年（昭和62年）に西高松から栄谷に移転され、夜間学生にとっては通学の足となる交通手段が大きな要因になったと言えます。

・経済学部の卒業生（高商、経専、工機、大学、短大、院生）を1期から令和4年までの卒業生総数（現存者数）を会員名簿等で見ると、総計25,000余名、うち短大生は3,183名で12.7%を占めています。

・現在、大学では大学の果たす役割として、生涯教育への取り組みを強化しつつあります。

和歌山支部機関紙「柑芦わかやま」では、その一助として”働きながら学ぶ”OB座談会を2020年（令和2年）3月8日に開催しました。

・大勢の卒業生を有しながら、歴代の柑芦会活動をみると、年々若い世代の仲間意識や学校意識が薄れ、これら活動への参画が年々低下しつつあるように感じられます。

まして短大卒になると校舎や学部が無くなり、大半が学校に対する意識が薄くなってきています。

・柑芦会の役員メンバーを見ても、年々高齢化となり、活動の中心はご苦労にも特定メンバーとなるなど、これから先の活動が心配で、大きな課題とも言えます。

卒業生の皆様、皆様が卒業した大学等を皆様の手で柑芦会の活動を一層盛り立てて行くことを念じお願い致します。

回顧録

大7 堀栄 弘三

昭和二十年八月十五日 この日は私は朝鮮(現韓国)の浦項で迎えました。小学三年の時でした。私の一家は、父の勤務(教員)の関係で朝鮮に渡っていたのでした。

この地域には、内地と違って米軍の空襲は一切ありませんでしたので、戦況がそんなに逼迫していたとは、夢にも思っておりませんでした。

でもその日は突然やって来たのです。

敗戦を境にして、状況は一変します。現地の人々は、それまで日本人に対してやりばのない鬱憤をかかえていたのでしょう。その鬱憤をはらすかのような不穏な動きが噂となって飛び交いはじめます。こうなると私達は一刻も早く日本に逃げ帰ろうと考えるようになります。正規の手続きを待っているのはいつになるか分かりません。それで何人かで漁船をチャーターして帰ることになったのです。おそらく百トンにも満たない小さな漁船だったと思います。この小さな漁船で玄界灘を越えて帰るのです。

昭和二十年九月の夕刻、船は浦項の港を出港いたします。翌日は晴天に恵まれ、船は日本へ向かってひたすら走り続けます。船のまわりをトビウオがさかんに飛び回っていたことをはっきり覚えています。もう一晩で鳥取の境港に着くというその夜、突如台風が襲ってきたのです。私達は船底に

座って乗っていて上は甲板になっており、分厚い板で覆われていました。しかし、その板が強風で飛ばされてしまい、上からは大粒の雨が容赦なく降り注ぎます。その上横からは、船べりを超えた大きな横波が入ってきます。私達は船が沈まないよう必死でその海水を掻き出しておりました。こんな状態が一晩中続いたのです。もうダメだと観念した父は、遺体になっても家族がバラバラにならないようにと母と姉、私、弟と自分の五人の身体を紐で繋ぎあわせました。

そのまま、当時まだ幼かった私は疲れて眠ってしまったのでした。

「助かったぞう」そんな言葉で翌日目がさめます。その時まず思ったことは、「ここが何処か」ということでした。そして「日本だ」分かったときみんなからどっと歓声があがったのです。風雨はすっかりおさまって、船は幸運にも山口県の須佐の港に打ち寄せられ、流れ込んでおりました。前夜は乗り合わせていた日本の漁師さん達も協力して、一晩中必死で船を操縦してくれたと言うことでした。

近くの学校の校舎でしばらく過ごしたのち、境港を経由して無事故郷に帰り着きました。当初、私達も乗る予定だった船で、少し早く浦項を発って、となり町の粉河へ帰った人は、船が難破して家族の方は亡くなりご主人一人が帰郷しておりました。

この時の台風が、室戸台風、伊勢湾台風と並び昭和の三大台風と云われた「枕崎台風」であったことを後に知りました。

楽しきかな。わが翻訳人生

大25 河本 要

年寄りの朝は、早い。真夜中に目が、あいてしまうので、私は、ラジオ体操までの時間を、英書翻訳に当てている。これまでに訳した、主な書は、「ロミオとジュリエット」、「モンテクリスト伯」、「誰がために鐘は鳴る」など。

その昔、和大経済に入学したとき「経済学の勉強を、しっかり頑張るぞ」と意気込んだものだった。しかし講義を聞いても、専門書を読

んでも、さっぱり解らない。周りの学生達は、次々に学問をモノにしていくのに、私は、一所にとどまって前へ進めない。それで「暗記物をやろう」と英語を独学し英検一級まで取った。それから、コツコツと英書を訳していくのが、楽しみとなった。今は、高齢者介護施設にいるが夏冬ともに、エアコンをかけて、辞書と首っ引きで少しずつ、訳してゆく。今はビクトルユーゴの「レ・ミゼラブル」に没頭している。現在73才の私が85才ぐらいまで生きて、やっと全訳できるかなと思っている。夢が膨らみうれしい。



FMSのパートナー

株式会社 白山機工

代表取締役会長 ^{あき} ^た 穂 田 外志雄(大19回)

取 締 役 白 石 晴 久(大19回)

本社工場 石川県白山市旭丘4丁目10番地 〒924-0004
TEL.076-275-6631(代) FAX.076-276-8371

総合リサイクルで環境保全に取り組みます

大 成 金 属 株 式 会 社

製鋼原料
ギロチン・プレス加工
産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物中間処理業

代表取締役 伊 藤 弘 之 (大25)

本 社 名古屋市南区忠次1丁目8番15号
電話 052(691)2956番(代) FAX 052(691)2960番
半田工場 知多郡武豊町字石川95-1
電話 0569(72)5886番(代) FAX 0569(72)5890番
U R L <http://taiseikinzoku.co.jp/>

俳句同人「芦火」の会

和歌山大学経済学部の卒業生の俳句好が集まって出来たこの俳句同人会は、「芦火」という名で昭和38年に創刊されました。柑芦会と同じ「芦」の名を用い、その灯を守ってまいりました。毎月欠かすことなく発行を続けて60年、経済学部創学100周年の年に、還暦を迎えることとなりました。今回も芦火同人17名(内1名は体調不良で休養中)の卒業期毎に自選2句ご紹介いたします。

大3・ 安本 純 残りたる二人の時間閑東煮 月凍てるコンビナートのパイプ群	大3・ 安田善富 若衆の締め込み眩し夏祭り 蓬餅母の味もう漠として	大4・ 野崎 雅廣 風を呑み風を泳ぐや鯉のぼり 豪華船春風のせて神戸港	大5・ 梅川恵五郎 老いて尚学ぶ楽しみ室の花 米寿過ぎ煩惱未だ除夜の鐘	大5・ 北 道子 枯れたりと思ひし枝に冬芽立つ 花吹雪去年は二人で見しものを	大5・ 内海 恭行 知床の白き連山雪しまき 錦秋の涸沢カール見晴るかし	大5・ 児玉 俊昭 白蓮の花あたらしき夜明けかな 夕涼み昔ばなしに花が咲く	大6・ 山本 嘉造 かぼす一つ風呂に浮かべてわが冬至 梅雨晴間引っぱって行く小型犬	大8・ 後藤 大 採血の針先光る寒投下 春の果て臓器一つを失へり	(俳号) 緑汀 緑汀 善富 善富 六甲 六甲 六甲 恵吾 恵吾 恭行 恭行 としを としを かぞう かぞう 碧亥 碧亥
------------------------------------------------	--------------------------------------------	----------------------------------------------	----------------------------------------------	-------------------------------------------------	----------------------------------------------	------------------------------------------------	----------------------------------------------------	-------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大8・ 上福 正浩 包丁のほどよき重き鰯捌く 枳餅に卒寿の姉の心かな	大11・ 寺西 祐司 鳥帰るヒマラヤ越えも命がけ 石山の奇岩鎮座に風光る	大12・ 西田 安男 水量を増す小川に春を聞く それぞれの地にそれなりの名の桜	大14・ 山下 勝 雲の峰空に落書きしてみたき 山粧ふ水車の回る窯の朝	大17・ 穂永 千秋 山眠る獣の痕を遺しつつ 雛の間や酒母の棲みたる太き梁	大20・ 平林 義康 横文字の交じる短冊星祭 喧噪の去りし公園花は葉に	大25・ 河本 要 春疾風誰かがドアを叩く音 塩むすび二人で分けて夏来る	大25・ 八木 幸彦 病葉やゆつくり閉ずる紳士録 梅匂う鳥居の前で一礼す	史浩 史浩 安男 安男 勝 勝 温州 温州 要 要 甲舟 甲舟
---------------------------------------------	-----------------------------------------------	--------------------------------------------------	----------------------------------------------	------------------------------------------------	----------------------------------------------	-----------------------------------------------	-----------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

近年テレビでの俳句ブームに、やってみたいと思われる方、初心者の方も歓迎いたします。ご希望の方には同人誌「芦火」を贈呈します。編集者迄ご連絡ください。
連絡先：〒669-1133 西宮市東山台3-41-7 090-9887-2513 編集者：穂永千秋
mail : suishin2010@dream.ocn.ne.jp

短歌

閑居近詠

川淵 湧三(大6)

この年もただ健やかに歩きたし

その道すがら歌も詠みたし

新しき巣箱しつらへ蜂さそふ

人のいとなみ花咲く春に

名を書きし幟はためく漁師町

海に生きよと励ますごとく

公園に赤とんぼ追ふ幼な子を

追ふ母の背に海よりの風

閉校の庭の銀杏も色づきて

田舎の秋は静かにすすむ

はらはらと池に散りゆく山茶花に

しのぶ人あり心うつろに

墓仕舞ひ年ごとすすむ田舎町

ご先祖さまも都会へ移る

東 睦夫(大12)

若き日の悌見むと集ひたる

傘寿を過ぎし二十五名よ

再びは会ふことなきを胸に秘め

「またな」と手を振り散りて行きたり

コロナゆえ六年過ぎし同期会

幹事の責めに不安は尽きず

盛会を祈ると記す友の文字

著く震へて無念滲めり

川柳

佐竹 明吟(大13)

無人島にころがっている歎異抄

傘寿くる傘の中には君と僕

憧れの一夫多妻に妻の許可

聞く耳をもたぬ夫が卯歳

タワマンに住んだ過去にはウサギ小屋

吉の出る神社に紙のお賽銭

矢の如く過ぎる歳月老いの虹

吹く風に逆ってきた人が好き

グローバル詐欺の指示くる億の金

ババ抜きに祖母を呼べない嫁の顔

全学同窓会についてのご報告

会長 北村 修一

6月3日に和歌山大学で「和歌山大学同窓会(略称、全学同窓会)」の理事会が開催されました。これは4学部の同窓会を束ねる合同体のような組織であり、毎年6月に理事会を、10月のホームカミングデーの日に総会を開催しています。会長は、4同窓会の会長の中から互選することになっており、現在はシステム工学部同窓会の会長が全学同窓会の会長を務め、他の3同窓会の会長は副会長を務めています。柑芦会としては、青柳顧問、北村会長のほか5人の副会長が理事として出席しています。

今年の理事会は、例年の理事会とは少しだけ様相が異なりました。というのは、議題が恒例の昨年度決算報告と今年度の事業計画・予算案の検討・承認だけでなく、和歌山大学や全学同窓会を取り巻く諸課題について共通認識を図ることや、理事会運営のあり方についての議論も出されたからです。

この背景には、現状の理事会運営について疑問を感じた私が全学同窓会の副会長として会長と副会長に事前に問題提起をし、これに関する会長副会長会議が前週の5月27日に開催されて議題検討をしていたことがあります。同窓会を重視する意向を示されている本山学長も5月27日の会議に出席され、同窓会に対する期待を表明しておられましたが、それを受けての理事会となったわけです。

理事会当日では、今後取り組むべき課題として、ホームカミングデーの活性化や、大学と学生への支援策、各同窓会間のコミュニケーションの活発化、全学同窓会としての広報活動の充実強化などが取り上げられて、参加者に共有されました。

これに加えて、4つの同窓会からそれぞれの組織体制や活動内容について紹介があり、構成年代層や入会金、年会費などいくつもの相違点があることなどについて知る機会となりました。相互理解は、お互いの違いを知りそれを認め合うことから始まることを再認識した次第です。

超合金とスプレーノズルの製造販売

EVERLOY

株式会社 共立合金製作所
KYORITSU GOKIN CO., LTD.

取締役会長 松本 康三 (大11回)

<https://www.everloy.co.jp/>

本 社 ・ 工 場 / 〒663-8211 兵庫県西宮市今津山中町12番16号
TEL(0798)26-3606代 FAX(0798)26-0544

超硬事業部柏原工場 / 〒669-3315 兵庫県丹波市柏原町大新屋100-1
TEL(0795)73-0026代 FAX(0795)70-2120

ノズル事業部柏原工場 / 〒669-3315 兵庫県丹波市柏原町大新屋95-2
TEL(0795)72-3374代 FAX(0795)72-3376

支 店 ・ 営 業 所 / 西宮・大阪・東京・九州・倉敷・名古屋
関 係 会 社 / 株式会社 九州エバーロイ

経済学部との懇談会について（ご報告）

本部事務局

6月3日に和歌山大学で「和歌山大学同窓会（略称、全学同窓会）」の理事会が開催されましたが、その終了後は、青柳顧問、北村会長のほか5人の副会長ら柑芦会選出の理事の皆さんは経済学部棟に移動し、経済学部長や副学部長など執行部の方々との定期懇談会に出席しました。

第61回となる今回は顔ぶれがかなり入れ替わったため、お互いの自己紹介のあと、柑芦会からは大学と学生に対する支援の計画やそのための予算計画についてご説明し、学部側からは学内外における教育・研究の推進状況、新入生の構成や、卒業生の就職状況などについてのご説明をいただきました。

また、22年春に大規模工事を終えた経済学部棟の内部も見学させていただき、母校のブランド力を高め、「母校愛」を育むことの大切さと、それに貢献していく責任の重大さを改めて噛みしめた一日となりました。



22年春に大規模改修工事を終えた経済学部棟
（現在の名称は、西3号館）



経済学部棟1階の「キャンパススクエア」
琉球畳が敷かれ、学生たちが共同作業や歓談をする
スペースとして大いに活用されている

2023年度柑芦会定例理事会・評議員会開催さる

柑芦会定例理事会・評議員会は、過去3回コロナ禍の為オンライン開催でしたが、2023年度はリアル開催しました。

参加者は参加対象者73名のうちの44名で、本年4月に就任されました本山学長、金川経済学部部長をお迎えして開催されました。

なお、議案は事前の郵送議決を含めて全て可決されました。

実施日時と場所

日時：2023年5月20日(土) 13:00～16:00(会議)

16:30～18:30(懇親会)

場所：ホテル阪神大阪 〒553-0003 大阪市福島区福島5-6-16

出席：柑芦会理事及び監事、財団新旧理事・評議員及び監事

審議

(第一部) 柑芦会定例理事会

- 1号議案 2022年度事業報告及び決算案承認の件
- 2号議案 2023年度活動方針案承認の件
- 3号議案 2023年度予算案承認の件

(第二部) 財団定例理事会・評議員会

- 1号議案 2022年度事業報告及び決算案承認の件
- 2号議案 2023年度事業計画及び予算案承認の件
- 3号議案 役員辞任承認の件

新支部長紹介 京滋支部、姫路支部

委員会報告 支部活性化支援委員会報告

支部の取組発表 支部活性化の取組(近況含む)を各支部2～3分以内で発表
・概要を事前にA4サイズ1枚に纏めて提出いただき、
会議当日資料として配布する。
・説明は支部長又は幹事長

意見交換 ①経済学部創立100周年記念事業について

②年会費徴収(コンビニ振込)について

③柑芦会名簿の発行について

④その他

懇親会(16:30～18:30)

以上

柑芦会 2023年度 活動方針 (案)

会長 北村修一

【活動方針】… 2022年度から変更なし

- ① 優先度の高い課題の解決を通じ、柑芦会全体と各支部の活性化を図る
- ② 柑芦会内の各層でのコミュニケーションと一体感のさらなる向上を図る
- ③ 母校のステータスの向上のため、母校と学生に対する支援を強化する

【重点項目】

1. 柑芦会の体制強化と充実

- ① 「本部と支部の役割の見直し」の継続検討
 - (1) 各種委員会の充実強化による諸課題の解決の継続
 - (2) 本部による年会費の徴収代行など、各支部の業務軽減への支援
- ② 活動停滞支部の立て直しの支援
 - (1) 支部活性化支援委員会を核とした支援活動の展開
 - (2) 副会長支部による、小規模支部への支援の充実

2. 柑芦会のインフラ業務の充実と効率化

- ① 会員名簿、アドレス帳の充実
 - (1) 新「名簿管理システム」の円滑な運用と活用
 - (2) 7年ぶりの「会員名簿」の発行による名簿データの大規模更新
- ② 広報活動の見直しと充実
 - (1) 紙媒体主体の広報へのデジタル化の導入と、コスト削減への試行
 - (2) 新ホームページのハブ化によるよりタイミングよい広報活動の推進

3. 和歌山大学経済学部創立100周年記念事業の推進

- ① 「100年史」の発刊や、記念行事に対する支援
 - ・ 実行委員会への参画と、物心両面での支援活動
- ② 柑芦会100周年(2026年)に向けた準備の開始
 - ・ 実施内容、実施方法などの検討

以上

柑 芦 会

1) 2022年度 正味財産増減計算書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

和歌山大学 柑芦会
(単位:円)

科 目	2022年度実績	2021年度実績	増 減
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
入会金	5,704,000	6,325,000	-621,000
利息収入	1,431,227	1,431,251	-24
広告収入	873,000	468,600	404,400
補助金収入	81,530	33,890	47,640
雑収入	2,310	0	2,310
経常収益合計	8,092,067	8,258,741	-166,674
(2) 経常費用			
支部総会祝金	120,000	60,000	60,000
理事会費	0	0	0
会議費	63,604	33,062	30,542
通信費	173,032	192,008	-18,976
広報活動費	1,616,759	413,499	1,203,260
支部通信費補助	1,320,000	1,880,000	-560,000
旅費交通費	369,865	165,360	204,505
理事会等交通費	51,802	44,512	7,290
支部活性化費	503,582	343,290	160,292
香村賞費	410,530	301,960	108,570
課外活動支援費	100,000	0	100,000
本部管理費	2,937,800	2,701,010	236,790
システム管理費	1,681,460	298,100	1,383,360
卒業生記念品費	0	432,000	-432,000
事務用品費	68,737	91,636	-22,899
什器備品費	16,000	109,340	-93,340
減価償却費	53,550	91,800	-38,250
柑芦編集費	30,000	24,000	6,000
柑芦印刷費	2,114,805	2,336,081	-221,276
慶弔費	27,400	5,197	22,203
雑 費	23,043	20,254	2,789
予備費	0	100,000	-100,000
経常費用合計	11,681,969	9,643,109	2,038,860
当期経常増減額	-3,589,902	-1,384,368	-2,205,534
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度損益修正益	0	231,040	-231,040
経常外収益合計	0	231,040	-231,040
(2) 経常外費用			
有価証券評価損	2,124,000	2,391,000	-267,000
経常外費用合計	2,124,000	2,391,000	-267,000
当期経常外増減額	-2,124,000	-2,159,960	35,960
当期正味財産増減額	-5,713,902	-3,544,328	-2,169,574
正味財産期首残高	121,047,680	124,592,008	-3,544,328
正味財産期末残高	115,333,778	121,047,680	-5,713,902

2) 2023年度 正味財産増減予算書 (2023年4月1日～2024年3月31日) (単位:円)

科 目	2023年度予算
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
入会金	5,635,000
利息収入	1,250,000
広告収入	400,000
補助金収入	0
寄付金収入	1,000,000
支部年会費徴収手数料	120,000
雑収入	0
経常収益合計	8,405,000
(2) 経常費用	
支部総会祝金	150,000
理事会費	400,000
会議費	70,000
通信費	180,000
広報活動費	1,100,000
支部年会費徴収費	1,200,000
支部通信費補助	1,500,000
旅費交通費	400,000
寄付講義交通費	100,000
ゲートウェイ交通費	150,000
理事会等交通費	600,000
支部活性化費	2,650,000
香村賞費	450,000
課外活動支援費	300,000
経済学部創立100周年記念事業	2,500,000
本部管理費	3,840,000
システム管理費	300,000
卒業生記念品費	450,000
事務用品費	100,000
什器備品費	100,000
減価償却費	0
柑芦編集費	30,000
柑芦印刷費	2,500,000
慶弔費	60,000
雑 費	50,000
予備費	200,000
経常費用合計	19,380,000
当期経常増減額	-10,975,000
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
過年度損益修正益	0
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
有価証券評価損	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期正味財産増減額	-10,975,000
正味財産期首残高	115,333,778
正味財産期末残高	104,358,778

3) 貸借対照表 (2023年3月31日現在)

和歌山大学 柑芦会
(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
流動資産		流動負債	
現 金	80,654	預り金	195,531
普通預金	3,068,326		
郵便貯金	1,576,326		
未収入金	277,003		
流動資産 計	5,002,309	負債合計	195,531
固定資産		前期繰越正味財産	121,047,680
ソフトウェア	0	(内 香村基金)	(100,000,000)
投資有価証券	110,527,000	当期正味財産増減額	△ 5,713,902
固定資産 計	110,527,000	正味財産 合計	115,333,778
資産 合計	115,529,309	負債・正味財産 合計	115,529,309

柑芦会役員名簿 (2023年8月20日現在)

顧問 学長 本山 貢
顧問 学部長 金川 めぐみ

顧問 青柳 明雄 (大16)

☆新役員

役 職	支部名	卒回		氏 名	役 職	支部名	卒回		氏 名
会 長	大 阪	大18		北村 修一	理 事	東 海	大20		伊藤 僚一
副会長	和歌山	大 8		坂本 漸	〃	〃	大26		赤塚 信正
〃	大 阪	大26		糸川 公偉	〃	〃	大31	☆	鈴木 光伸
〃	東 京	大30		小林 淳	〃	〃	大50		中川 暢顕
〃	神 戸	大20		平林 義康	〃	神 戸	大17		吉田 和宏
〃	東 海	大25		垣見 祐二	〃	〃	大27	☆	吉竹 俊道
理 事	和歌山	大11		山崎 清作	〃	〃	大39	☆	小柴 学司
〃	〃	短 6		塩路 茂一	〃	〃	大41	☆	三和田 浩次
〃	〃	大15		廣田 俊樹	〃	京 滋	大14		和田 壽郎
〃	〃	大16		渥美 正道	〃	〃	大31	☆	清水 聖心
〃	〃	大17		橋本 孝郎	〃	〃	大46		宮下 剛
〃	〃	大18		西本 和生	〃	北海道	大22		澤野 雅彦
〃	〃	大20		小瀧 信	〃	東 北	大46		菊池 静
〃	〃	大39	☆	山本 進三	〃	北 陸	大41		林国 敏
〃	大 阪	大15		足立 邦雄	〃	福 井	大24		江波 庄進
〃	〃	大15		奥山 泉	〃	静 岡	大14		澤田 務
〃	〃	大16		青柳 明雄	〃	三 重	大18		井上 俊一
〃	〃	大26		塩谷 昭	〃	姫 路	大29	☆	黒田 俊行
〃	〃	大26		杉野 博章	〃	岡 山	大15		真下 義則
〃	〃	大26		増田 高一	〃	広 島	大45		三吉 規央
〃	〃	大31		東海 秀明	〃	山 口	大24		宮本 高司
〃	〃	大31		平野 勝久	〃	山 陰	大17		吉村 政憲
〃	〃	大32		岡田 治	〃	徳 島	大26		多田 昭弘
〃	〃	大33		渡邊 豊	〃	高 知	大21		西川 博
〃	〃	大44		市平 和久	〃	香 川	大22		島田 新市
〃	〃	大46		菓 英一	〃	愛 媛	大35		門屋 孝博
〃	〃	大46		本庄 麻美子	〃	九 州	大19		石川 和彦
〃	東 京	大15		原 良也	〃	沖 縄	大28		當真 一男
〃	〃	大15		西浦 英次					
〃	〃	大26		末廣 利明					
〃	〃	大28		石田 隆造					
〃	〃	大29		松村 勉					
〃	〃	大34		草場 寛	監 事	和歌山	大28		山中 盛義
〃	〃	大34		山根木 晴久	〃	大 阪	大47・院37		夫馬 竜司

理事62名(定数56名以上69名以内) 監事2名(定数2名または3名) 顧問3名

柑 芦 会

柑芦会 支部一覧表

支 部 名		事務所所在地
和歌山	和歌山	640-8227 和歌山市西汀丁36 和歌山商工会議所2F 山中会計事務所内 柑芦会 和歌山支部 事務局
大 阪	大阪、奈良	540-0012 大阪市中央区谷町4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町207号
東 京	東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、山梨、長野、栃木	160-0023 東京都新宿区西新宿7-17-14 新宿シティ源ビル5F 和歌山大学柑芦会東京支部
東 海	愛知、岐阜	456-0023 名古屋市熱田区六野2-7 神宮東パークハイツ19-404
神 戸	兵庫(東播磨、北播磨、丹波以東および淡路)	669-1133 兵庫県西宮市東山台2-14-216-301 吉竹 俊道様方
京 滋	京都、滋賀	529-1235 滋賀県愛知郡愛荘町目加田904 清水 聖心様方
北海道	北海道	067-0028 北海道江別市豊幌はみんぐ町7-2 澤野 雅彦様方
東 北	青森、岩手、秋田、山形、福島、宮城	020-0004 岩手県盛岡市山岸二丁目16-58 菊池 静様方
北 陸	富山、石川、新潟	921-8065 金沢市上荒屋3-311 林 国敏様方
福 井	福井	912-0061 大野市篠座町7-8 清水 啓司様方
静 岡	静岡	411-0021 三島市富士見台4-16 澤田 務様方
三 重	三重	516-0035 伊勢市勢田町608-136 山際 雅彦様方
姫 路	兵庫(神戸支部以外)	672-8064 姫路市飾磨区細江111 黒田 俊行様方
岡 山	岡山	710-0057 倉敷市昭和1丁目3-35 フローレンス倉敷703 真下 義則様方
広 島	広島	731-5127 広島市佐伯区五日市6-2-16 三吉 規央様方
山 陰	島根、鳥取	690-0884 松江市南田町92-7 友定 雅紀様方
山 口	山口	758-0041 萩市大字江向179-3 宮本 高司様方
徳 島	徳島	770-8040 徳島市上八万町中山6-11 三村 清美様方
高 知	高知	780-8037 高知市城山町192-1 西川 博様方
香 川	香川	761-0432 香川県高松市亀田南町87-108 山上 武司様方
愛 媛	愛媛	799-2696 松山市堀江町7番地 三浦工業(株) 内
九 州	九州全県	852-8063 長崎市北栄町4-5 石川 和彦様方
沖 縄	沖縄	904-0022 沖縄市園田1-3-30 当真 一男様方
北 米	アメリカ	6 Teramo Ct. Newport Coast, CA USA 92657
その他海外		
本部事務所		(和歌山) 640-8510 和歌山市栄谷930 和歌山大学 経済学部 分室 気付
		(大 阪) 540-0012 大阪市中央区谷町4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町207号
監 事		山中 盛義(大28)、夫馬 竜司(大47・院37)

(2023.8.20.現在)

電 話	支 部 長	副 支 部 長		幹 事 長	在籍者数
073-423-1231	坂本 漸(大8)	後藤 善美(大7) 山崎 清作(大11)	塩路 茂一(短6) 山本 進三(大39)	山中 盛義(大28)	4,917
06-6941-4986	糸川 公偉(大26)	岡田 治(大32)		平野 勝久(大31)	5,997
03-3366-3680	小林 淳(大30)	石田 隆造(大28) 松村 勉(大29)	山根木 晴久(大34)	草場 寛(大34)	1,245
090-7032-7866	垣見 祐二(大25)	伊藤 僚一(大20) 伊藤 弘之(大25)	赤塚 信正(大26)	鈴木 光伸(大31)	627
090-3550-2392	平林 義康(大20)	吉田 和宏(大17)		吉竹 俊道(大27)	1,055
090-1557-7730	清水 聖心(大31)			宮下 剛(大46)	402
011-887-8298	澤野 雅彦(大22)				14
080-1824-2688	菊池 静(大46)	喜多 正行(大8)	村澤 美代子(大34)		52
076-205-1916	林 国敏(大41)				119
0776-21-8700	江波 庄進(大24)			清水 啓司(大31)	111
055-986-5223	澤田 務(大14)				122
0596-72-8025	井上 俊一(大18)	小谷 剛(大20) 太田 均(大22)	水谷 正道(大26)	山際 雅彦(大31)	220
079-234-1411	黒田 俊行(大29)	長永 利男(大29)		栄藤 雅雄(大31)	223
080-3103-5637	真下 義則(大15)	味野 耕二(大17)			213
082-921-1662	三吉 規央(大45)	山元 経穂(大49)			127
090-5696-0212	吉村 政憲(大17)	秋山 誠司(大41)		友定 雅紀(大24)	171
0838-26-8523	宮本 高司(大24)			橋本 尚明(大26)	60
090-1578-7941	多田 昭弘(大26)	丸木 一男(大14) 春藤 勝弘(大33)	相談役 中村 昌宏(大13)	三村 清美(大36)	149
088-833-7274	西川 博(大21)		安岡 道夫(大21)		27
087-847-3185	島田 新市(大22)			梶 正司(大31)	113
089-979-1230	門屋 孝博(大35)				115
090-1876-1674	石川 和彦(大19)				385
098-932-2787	當真 一男(大28)			大城 直輝(大46)	30
213-610-7578	田中 昌平(大19)				41
				(小計)	16,535
073-457-7607	(大 学)	学部支援室 経済学部分室長 森田 智也		(死亡・不詳等)	12,661
06-6941-4986	(会 長)	北村 修一(大18)		合 計	29,196
	(事務局長)	種坂 隆志(大22)			

後援会

1) 2022年度 正味財産増減計算書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

一般財団法人
和歌山大学経済学部後援会
(単位:円)

科目	2022年度実績	2021年度実績	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
利息収入	135,597	135,608	-11
経常収益合計	135,597	135,608	-11
(2) 経常費用			
① 事業費			
施設設備援助	0	400,000	-400,000
学術研究助成	0	0	0
論文刊行等費用助成	0	0	0
海外留学費援助	0	0	0
事業費合計	0	400,000	-400,000
② 管理費			
会議費	0	0	0
通信費	6,408	0	6,408
事務用品費	52,695	53,321	-626
家賃	960,000	960,000	0
機器リース料	65,868	27,588	38,280
租税公課	10,500	10,500	0
雑費	51,459	57,402	-5,943
管理費支出合計	1,146,930	1,108,811	38,119
経常費用合計	1,146,930	1,508,811	-361,881
当期経常増減額	-1,011,333	-1,373,203	361,870
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2) 経常外費用			
有価証券評価損	201,000	231,000	-30,000
経常外費用合計	201,000	231,000	-30,000
当期経常外増減額	-201,000	-231,000	30,000
当期一般正味財産増減額	-1,212,333	-1,604,203	391,870
一般正味財産期首残高	23,734,078	56,703,169	-32,969,091
一般正味財産期末残高	22,521,745	23,734,078	-1,212,333
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	22,521,745	23,734,078	-1,212,333

2) 2023年度 正味財産増減予算書 (2023年4月1日～2024年3月31日) (単位:円)

科目	2023年度予算
I. 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
利息収入	140,000
経常収益合計	140,000
(2) 経常費用	
① 事業費	
施設設備援助	400,000
学術研究助成	1,000,000
論文刊行等費用助成	0
海外留学費援助	0
EC奨学金制度	270,000
事業費合計	1,670,000
② 管理費	
会議費	300,000
通信費	10,000
事務用品費	50,000
家賃	960,000
機器リース料	150,000
租税公課	30,000
雑費	60,000
管理費支出合計	1,560,000
経常費用合計	3,230,000
当期経常増減額	-3,090,000
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益合計	0
(2) 経常外費用	
有価証券評価損	0
経常外費用合計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	-3,090,000
一般正味財産期首残高	22,521,745
一般正味財産期末残高	19,431,745
II. 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III. 正味財産期末残高	19,431,745

3) 貸借対照表 (2023年3月31日現在)

一般財団法人
和歌山大学経済学部後援会
(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産			
現金	3,953		
普通預金	11,361,251		
未収入金	37,493		
流動資産 計	11,402,697	負債合計	0
固定資産			
土地	138,048	前期繰越正味財産	23,734,078
投資有価証券	10,981,000	当期正味財産増減額	-1,212,333
固定資産 計	11,119,048	正味財産合計	22,521,745
資産 合計	22,521,745	負債・正味財産 合計	22,521,745

(一財)和歌山大学経済学部後援会・役員名簿 (2023年5月20日現在)

☆は新任

役職名	所属支部	卒回	氏名	役職名	所属支部	卒回	氏名
理事長	大阪	大18	北村 修一	評議員	和歌山	大13	竹中 順一郎
常務理事	和歌山	大8	坂本 漸	〃	〃	大16	渥美 正道
〃	大阪	大26	糸川 公偉	〃	〃	大17	橋本 孝郎
〃	東京	大30	小林 淳	〃	〃	大20	小 瀧 信
〃	神戸	大20	平林 義康	〃	大阪	大17	浦 義弘
〃	東海	大25	垣見 祐二	〃	〃	大31	東海 秀明
理事	大阪	大16	青柳 明雄	〃	東京	大28	石田 隆造
〃	〃	大24	佐藤 直樹	〃	〃	大34	草場 寛
〃	東京	大15	原 良也	〃	東海	大31	☆ 鈴木 光伸
〃	〃	大15	西浦 英次	〃	神戸	大17	吉田 和宏
〃	〃	大26	末廣 利明	〃	京滋	大46	宮下 剛
〃	神戸	大20	辻 均	〃	東北	大46	菊池 静
〃	京滋	大14	和田 壽郎	〃	三重	大18	井上 俊一
〃	姫路	大25	毛利 恵行	〃	姫路	大29	黒田 俊行
				〃	徳島	大26	多田 昭弘
				〃	香川	大22	島田 新市
				〃	九州	大19	石川 和彦
監事	和歌山	大28	山中 盛義				
〃	大阪	大47・院37	夫馬 竜司				

任期 理事 2年(2024年5月まで)
 評議員 4年(2026年5月まで)
 監事 4年(2024年5月まで)

現在数 理事 14名(定数10名以上20名以内)
 評議員 17名(定数10名以上25名以内)
 監事 2名(定数3名以内)

訃報

本年4月、全会員向けに「消息葉書」を送付し、過年度分も含めて多くの方から訃報連絡を頂きました。心からご冥福をお祈り申し上げます。
ご逝去日をご連絡頂いていない場合は、「-」(不明)としています。(敬称略) (2023年8月31日現在)

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日
高商	5	橋本徳三郎	1990.12.19
	6	藤田宗二郎	-
	8	木宮秀夫	-
	9	伊東利男	-
	9	吉田宗雄	2005.7.31
	11	吹田四郎	2002.12.8
	12	藤田三郎	2010.9.11
	16	橋本渉	2004.1.29
	16	北村実	2022.6.14
	16	藪林弘毅	2014.2.3
	17	生駒俊一	2002.12.30
	18	田畑脩三樹	2022.11.2
	18	的場茂樹	2009.-.-
	19	植田貞夫	2021.8.5
	19	山崎昌平	2016.1.28
	19	森下善雄	2016.5.17
	20	山中静	2022.12.29
	20	進士俊夫	-
	20	小川喜八郎	2008.3.16
	経専	1	大平明秀
1		川出孝一	2022.9.10
1		福島一成	2023.1.15
1		矢野哲	-
1		坂元憲夫	2015.12.19
1		中村良一	2012.1.12
1		中村泰三	2021.5.22
2		酒井澄夫	-
2		大河内祥吉	2018.12.15
2		斎藤照吉	2012.6.12
2		辰巳富夫	2021.6.8
2		辻小彌太	2022.8.15
2		三浦恒雄	2016.6.5
2		山本睦夫	2020.8.25
2		赤松良材	2015.10.10
3		有村博	2018.4.30
3		田中俊夫	2022.4.18
3		服部文弥	2023.1.30
3		安原日出夫	2019.5.1
3		小谷吉雄	2015.8.3
3		石橋豊	2011.12.7
3		田尾勤	2016.4.18
4		阿部直	2021.6.30

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日	
経専	4	西田勉	2020.11.20	
	4	橋爪敏晴	2022.12.9	
	4	御木勲	-	
	4	古梅十重子	2017.10.31	
専修	4	浜田吉弘	2022.8.25	
	4	森下幹	2008.11.17	
	1	堀川駿太郎	2022.11.17	
	1	平畑勤	2023.7.18	
	1	樫尾昭	2019.6.1	
	工専	1	岡野昭二	2022.7.2
		1	加藤勲	2011.11.12
		1	鶴木修一	2016.6.12
		1	牧田茂樹	2023.2.7
		1	和田耕	2022.4.28
1		西埜久好	2009.9.13	
2		木下富夫	2022.10.19	
2		金田達郎	2022.7.7	
2		田中淳夫	2020.5.19	
2		中峯良藏	2022.4.9	
大学	2	早瀬康夫	2020.7.7	
	2	宮内林三	2022.10.3	
	2	若林司郎	2021.6.26	
	1	久保田祥哉	2020.7.31	
	1	高橋亨	2019.2.16	
	1	富本吉彦	2017.3.6	
	1	中島義美	2022.1.7	
	1	山岡幸治	2016.4.21	
	2	藪本勉	2022.7.18	
	2	小倉康男	2021.6.22	
	2	三川保明	2022.8.25	
	2	南川彰男	2022.11.29	
	2	向井邦雄	2021.6.29	
	3	浮穴郁也	2022.11.21	
	3	北盛夫	-	
	3	榊享	2016.4.24	
	3	増井修	2020.8.11	
	3	宮野秀雄	2022.8.10	
3	森井眞	2020.9.27		
3	山田啓一	2020.10.10		
3	山村栄一	2022.7.13		
3	堀口利彦	2020.12.13		
3	有本公彦	2022.11.3		

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日
大学	3	大矢 武	2023.2.6
	3	谷口 好生	2008.6.10
	4	八木 弥夫	2022.12.22
	4	川崎 満夫	2022.9.17
	4	吉岡 武	2020.6.16
	4	道浦 耐彦	2022.12.20
	4	味村 一彦	2022.1.19
	4	八木 彌史	2022.12.22
	4	渡邊 裕史	2014.2.1
	4	阿曾 肇	2023.4.8
	4	岸 章介	2023.3.4
	5	梅田 幾生	2022.12.30
	5	萬谷 美次	2021.5.9
	5	兎島 芳造	2022.2.8
	5	杉政 昏二	2021.12.31
	5	田中 輝子	2022.8.-
	5	中村 昭子	2022.1.11
	5	向出 卓	2020.8.30
	5	山野 隆司	2022.7.2
	5	萬谷 美次	2021.5.9
	6	長澤 正雄	2022.6.12
	6	香村 光夫	2022.1.16
	6	竹中 慎和	2023.4.15
	6	寺中 光郎	2023.6.7
	6	井上 脩之助	2021.5.28
	6	中西 一郎	2022.11.22
	6	平井 忠雄	2022.1.5
	6	宮本 喜行	2022.2.10
	6	室田 正義	2022.12.28
	6	森山 六朗	2023.1.2
	6	山本 喜市	2022.7.30
	6	作田 洋	2023.5.1
	7	大谷 浩史	2022.10.31
	7	二宮 利之	2023.1.1
	7	高梨 有功	2022.8.20
	7	三浦 正和	2023.5.13
	7	大谷 剛平	2022.10.31
	7	大西 洋太郎	2010.9.19
	7	北山 明男	2021.9.30
	7	慈幸 孝夫	2022.5.14
	7	中野 恵司	2021.2.18
	7	西尾 勝美	2021.6.21
	7	二宮 利之	2023.1.1
	7	山中 朝二郎	2016.1.31
	7	山本 俊彦	2022.6.21
	8	木土 好司	2022.3.25
	8	上田 雄三	2022.10.4

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日
大学	8	浦嶋 正彦	2022.5.21
	8	江頭 俊郎	2020.2.7
	8	高田 晃	2022.4.5
	8	高津 俊作	-
	8	田中 熙	2021.6.3
	8	寺尾 義久	2020.12.20
	8	永井 貞雄	2022.11.28
	8	山下 房宏	2022.12.7
	8	近森 茂夫	2021.7.21
	8	仲井 敏博	2023.3.12
	9	石川 晃三	2022.9.14
	9	塩崎 昌彦	2023.6.23
	9	雑賀 弘吉	2022.6.18
	9	十河 尚	2022.7.20
	9	濱口 勇平	2022.12.27
	9	渡辺 俊治	-
	9	市場 孝史	-
	9	森川 延一	2023.3.24
	10	喜多 宏	2022.11.19
	10	中幡 憲二	2022.11.5
	10	前田 馨仁	2022.1.30
	10	阪野 仁	2023.5.10
	10	川上 一文	-
	10	三浦 敏克	2023.2.23
	11	芦田 征二	2021.7.8
	11	坂東 博明	2022.4.12
	11	前島 望	2023.2.16
	11	西川 正美	2023.6.23
	12	久保 田健	2022.7.1
	12	井関 紀男	2022.10.17
	12	島田 猛	2022.8.28
	12	吉川 徳寿	2022.5.31
	13	増田 正	-
	13	大野 俊紀	-
	13	早川 宏	2017.9.-
	13	森浩 一郎	2022.8.20
	13	森浦 啓次	-
	14	内田 重胤	2022.10.1
	14	内田 重胤	2022.10.25
	14	榊原 和彦	2021.11.11
	14	星川 雅彦	2022.10.21
	14	竹内 基夫	2019.1.-
	15	足立 唯夫	2021.8.13
	15	北村 昭次郎	2022.8.20
	15	塩見 康至	2021.12.2
	15	関戸 正造	2017.-.-
	15	川本 信之	2022.8.-

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日
大学	15	日根野谷脩一	2022.7.2
	16	西村秀博	2022.5.24
	16	海野清	2018.1.7
	16	玉置實	2021.-.-
	16	行松宏	2021.11.3
	16	七條義則	2019.11.1
	16	檜崎雄二	2020.8.26
	16	西村秀博	2022.5.24
	16	山本定昭	2022.2.3
	16	森本忠良	2020.8.8
	17	松本良和	2021.10.5
	17	岩谷浩次	2022.4.4
	17	土井秀則	2021.11.22
	18	坂本明道	2021.11.20
	18	田岡正道	-
	18	丹羽嘉夫	2022.11.5
	18	岩城芳治	2016.3.16
	18	出口敏雄	2018.5.26
	18	船場一章	2021.10.7
	18	小林邦雄	2021.5.29
	18	森脇宗樹	-
	18	堀井俊二	1999.1.18
	19	中尾寿夫	2020.12.26
	19	森川春夫	-
	19	保田秀彦	-
	19	柴田隆夫	2022.6.-
	19	佐藤泰道	2022.6.-
	20	野田敬子	-
	20	藤本幸治	-
	20	川口隆史	2021.8.29
	20	山根健次	2019.6.18
	20	外間伸儀	2022.5.1
	20	名手正寿	2017.7.20
	21	白井敏基	2022.1.29
	21	前羽博幸	2013.9.-
	21	井関吉民	2018.2.10
	21	下野隆広	2022.10.27
	22	吉岡淳一	2022.7.15
	22	北嶋重紀	-
	22	藤河家直透	2019.7.26
	22	塩盛勝彦	2015.12.16
	22	新田浩夫	2021.-.-
22	吉本克則	2016.5.5	
23	柏木文人	2019.12.28	
23	加田久人	2022.9.25	
24	豊島康治	2019.-.-	
24	山岸義和	2018.12.7	

卒業校名称	卒期	氏名	永眠年月日	
大学	25	安井伯行	2017.5.12	
	25	秋田均	2016.3.11	
	27	岩山宏	2021.9.1	
	27	川邊隆子	2019.3.21	
	29	寺田巖	2022.12.28	
	30	山口照夫	2022.10.3	
	30	大森純	-	
	30	辻井計三	-	
	31	勝山久	-	
	31	菊池郁夫	2023.4.2	
	33	三浦徹	-	
	34	福島純子	2022.7.14	
	36	西出雅彦	-	
	37	榎本充宏	2020.8.18	
	38	織田隆一郎	2022.5.24	
	38	鳥章夫	-	
	38	東本洋一郎	-	
	38	金森稔	-	
	39	片桐昌彦	2010.3.13	
	41	小川義仁	2018.3.20	
	42	小奥濱聡	2018.1.17	
	44	藤本美穂	2016.3.27	
	45	筒井裕毅	2017.7.20	
	45	足立丈宣	-	
	46	間野博圭	2014.-.-	
	49	多田昌弘	2021.12.1	
	54	澤直行	2020.10.19	
	短大	1	木瀬勲	2018.1.15
		1	坂崎鉄二	2016.4.5
		1	三栖康秀	-
		1	藪本和豊	2022.11.20
		2	宮本和美	2021.9.19
		2	藤木一潔	-
		2	山本雄夫	2013.12.29
		3	田組満	2022.12.2
		3	和田修	2022.11.10
		4	川田弘子	2017.9.1
		4	高橋登	2023.5.2
		4	青木敏郎	2017.3.22
		4	青木孝祐	2022.9.18
		4	椎木康之	2022.1.16
		5	増田峯一	2023.1.11
		5	村田忠昭	2022.5.25
		5	谷典憲	2019.8.11
		6	岡田欣也	2022.5.24
	6	西野和彦	2021.8.31	
	8	大谷勝次	2022.7.18	

卒業校名称	卒 期	氏 名	永眠年月日
短大	8	藤原昭夫	2022.1.5
	9	岡本寿郎	2023.4.11
	9	竹内喜久雄	2020.12.17
	9	八幡俊夫	2022.12.20
	10	酒井邦明	2022.2.7
	10	坂口登志夫	-
	10	久保洋子	2012.1.4
	11	劉茂樹	-
	12	高垣宏	2022.10.7
	14	小橋敏夫	2023.3.25
	16	小倉明	2023.1.5
	18	田中栄治	2022.8.31
	19	船本博俊	-
	21	武田幸夫	-
	22	金田督之	2022.12.30
	23	高岡みどり	2022.11.6
	24	林聖	2018.9.17
	25	古田賀子	2017.4.28
	28	林洋司	2020.1.1
	28	増田賢仁	2022.5.12
	29	松尾祐里	2022.11.20
	30	山下栄里	2022.8.20
	30	細尾明史	-
	31	大野聖文	-
	31	片岡久美子	2022.2.15
	32	井ノ上義朗	-
	34	立川直子	2021.8.27
	35	堀川たか子	2021.1.29
	38	立石真規	2021.5.1



「柑芦」第54号

和大生人材応援採用企業 広告索引

(50音順)

<p>ア</p> <p>(株)浅川組…………… 82</p> <p>(株)インテリックス …… 88</p> <p>(株)オーエ …………… 84</p> <p>カ</p> <p>紀陽情報システム(株) …… 83</p> <p>サ</p> <p>(株)サイバーリンクス …… 86</p> <p>さくらトーヨー住器(株) …… 89</p> <p>(株)島精機製作所 …… 83</p> <p>剂盛堂薬品(株) …… 83</p> <p>JAグループ和歌山 …… 85</p>	<p>タ</p> <p>太洋工業(株) …… 85</p> <p>東洋検査工業(株) …… 87</p> <p>東洋ライス(株) …… 87</p> <p>チ</p> <p>中田食品(株)…………… 82</p> <p>(株)南北 …………… 89</p> <p>ハ</p> <p>菱岡工業(株)…………… 88</p> <p>マ</p> <p>(株)湊組 …………… 86</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

広告索引

(50音順)

<p>ア</p> <p>旭精機工業(株) …… 91</p> <p>岩垣会計事務所 …… 13</p> <p>鵜島会計事務所 …… 29</p> <p>(株)岡本設計…………… 13</p> <p>カ</p> <p>川瀬計理事務所…………… 27</p> <p>ガーデンホテル紀三井寺 はやし …… 34</p> <p>(株)共立合金製作所 …… 102</p> <p>(株)小泉組 …………… 81</p> <p>サ</p> <p>斎藤直樹税理士事務所 …… 27</p> <p>敷島製パン(株)…………… 37</p> <p>司法書士法人さくら国際 …… 33</p> <p>タ</p> <p>大成金属(株) …… 99</p>	<p>高島工業(株) …… 91</p> <p>チョーヤ梅酒(株) …… 37</p> <p>坪内会計事務所 …… 93</p> <p>チ</p> <p>名尾公認会計士事務所 …… 93</p> <p>なんば道頓堀ホテル …… 68</p> <p>ハ</p> <p>パークス(株) …… 29</p> <p>(株)白山機工…………… 99</p> <p>マ</p> <p>夫馬税理士事務所 …… 63</p> <p>ヤ</p> <p>山中会計事務所…………… 93</p> <p>ラ</p> <p>リオ税理士法人 …… 46</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

経済学部100周年の今年、柑芦第4号も皆様方のご協力により完成、発行となりました。投稿のお願いにご協力くださいました皆様方、編集に携わっていただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

コロナ禍での交流の機会が奪われたここ数年でしたが、そうした懸念も少しずつ払しょくされ、キャンパスに、同窓会総会に活気が戻った1年でした。また、古いアルバムから、和歌山大学生を中心とした災害ボランティア活動の記録が放映され、元気ももらった方も多かったと思います。

これまでの〇〇年記念号では、それまでの歩みを

中心に、偉大なる先輩の偉業から学ぶ企画が多かったのですが、今回は新しい100年に向けての夫々の夢を語っていただきました。夢を実現するのは夫々の努力であり、生き甲斐ともなります。

柑芦の編集に携わってきた編集委員も高齢化という現実が待っており、スムーズにバトンタッチできるよう、立ち止まることなく引き継ぎたいと願っております。電子媒体の時代と言っても、広報媒体の一つとしての本誌編集はまだまだ欠かすことはできません。会員の皆様の御協力と編集委員への参加を希望いたします。

「柑芦」編集委員長 大17 穂永 千秋

◆転載禁止 本誌掲載の記事・文章・写真については、無断転載は禁止します。

柑芦 第54号(2023年版)

2023年11月発行

発行所 大阪市中央区谷町4丁目4-17
ロイヤルタワー大阪谷町207号

電話 06-6941-4986

FAX 06-6947-7925

発行人 北村 修一

編集人 穂永 千秋

(印刷・製本 東洋紙業高速印刷株式会社)

柑芦編集委員会

委員長 穂永 千秋(神戸)

委員 青柳 明雄(大阪)

同 萩原 謙(神戸)

同 糸川 公偉(大阪)

同 中川 暢顕(東海)

同 中川 貴照(東京)

各支部 広報支局員

広告掲載申込み受付中!!

「柑芦」の編集費用は、広告収入でその大部分を賅っております。

皆様のご協力をお願いします。

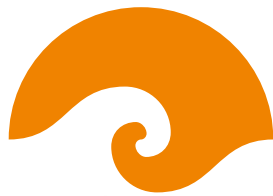
お問合せ、お申込みは、本部事務局へ

《投稿募集!!》

柑芦会員並びに関係者の方々からの投稿を歓迎いたします。

随筆・紀行文・俳句・短歌・詩……など

ただし、編集上、訂正、削除等の変更がある場合をお含み置き下さい。



wakayama
univ.